

日本古典作者事典 お 1400 ; [目次にもどる](#)

雄朝津間稚子宿禰尊(おあさづまわくごのすくねのみこと)→允恭天皇(いんぎょうてんのう) C 1 1 0 2

- C1426 **小東人**(おあづまと・大俊宿禰やまのすくね/長岡、五百足いおたり男) 690?-76980? 大和国造家出身、初姓;忌寸いみき/738宿禰姓、715遣唐請益生/716渡唐-18帰国、養老律令編纂参加、726藤原宇合うまかい式部卿の丞官?/740広嗣乱に連座流罪/747赦免;刑部少輔/参河守/紫微大忠/左京大夫/757改姓長岡、正四下、万葉九1736の式部大倭しきぶのやまとと同一人、懷風藻にある宇合うまかいが詩を贈った倭判官やまのはんぐわんも同一人であろう

[山高み白木綿花しらゆふばなに落ち激たぎつ夏身なつみの川門かほと見れど飽かぬかも](万1736:吉野)

おあき(・菓子屋の娘)→秋色(初世しゅうしき・菊后亭、俳人) 2 1 4 3

於篤(おあつ・島津)→寔子(ただこ・近衛このえ/島津、広大院/家齊室) U 2 6 3 6

おあん(山田/雨森)→去暦女(きよれきのむすめ・山田、体験談) Q 1 6 4 3

- C1427 **追風**(おいかぜ・吉田よしだ、通称;善左衛門)?-? 江中期熊本の相撲司家、1791熊本藩主の後援で將軍上覧相撲の行司、相撲故実の家元;横綱免許の発行、「相撲式」「角力記」「相撲の始り」「相撲上覧一件」「角力発起式作法菖蒲付」著

御糸屋彦六(おいとやひころく)→木兎(もくじ・伊藤いとう、俳人) 4 4 9 0

老之助(おいのすけ・根本)→鶴銭(かくせん・根本ねもと、藩士/俳人) K 1 5 1 5

老之助(おいのすけ・多胡)→直敬(なおたか・多胡たこ/田中、藩家老) N 3 2 6 8

老之助(おいのすけ・牧野)→忠辰(ただとき・牧野まきの、藩主/国学) Z 2 6 4 9

- D1466 **老まつ**(おいまつ;組連) ? - ? 江戸駒込片町の雑俳;川柳の組連、取次;1760・61・62・63「川柳評万句合」入;取次例;[人魂ひとだまも並んで飛べばにくらいしい](1760万句合/前句;まゝならぬ事々々)、(もてない者には人魂のもつれ合う姿も癪だ)

老鷹(おいまる・寺村)→成樹(しげき・寺村てらむら、藩士/歌文) Q 2 1 8 9

- C1428 **老蘭**(おいらん、姓不詳) ? - ? 絵師;1782雲楽山人「鯉池こいのいけ全盛嘶」画

凹(おう・石川)→丈山(じょうざん・石川、儒者/詩人) S 2 2 5 7

央(おう・柴田/芝田)→汶嶺(ぶんれい・柴田/芝田/柴、書家/漢学) G 3 8 8 1

央(おう・鈴木)→政辰(まさとき・鈴木すずき、和算家) L 4 0 3 3

汪(おう・鈴木)→一鳴(いちめい・鈴木すずき、藩士/儒者) G 1 1 4 4

桜(おう;一字名)→重光(しげみつ・裏松/日野/藤原、大納言/歌) D 2 1 0 4

菘(おう・三枝)→菘(しげる・三枝さいぐさ、僧/尊攘) O 2 1 5 8

鶯蛙園(おうあえん)→有功(ありこと・千草、廷臣/歌人) B 1 0 6 8

- C1429 **奥庵**(おうえん・笠間かさま/初姓;今村、名;惟房、笠間良介養嗣子) 1778-186588 筑後柳川藩士、筑前儒者;細井平洲/樺島石梁門、1824柳川藩校久留米伝習館訓導/助教、藩祖立花氏の事跡「道雪公年譜」「祖宗懋績録」、1842「岩谷義戦録」、「上妻紀行」著、[奥庵の字/通称] 字;秀実、通称;養左衛門

凹庵(おうえん・山口)→凹巷(おうこう・山口やまぐち・韓、詩人) B 1 4 6 4

鷗庵(おうえん;号)→宗香(そうこう;法諱・梅屋;道号、臨濟僧) B 2 5 3 7

鷗庵(おうえん;法名)→義治(よしはる・六角/源/佐々木、武将) G 4 7 0 6

鷗庵(おうえん・堀/多賀)→秀種(ひでたね・多賀/堀、武将/日記) D 3 7 1 6

応庵(おうえん・吉田)→元瑞(げんずい・吉田よしだ、医者) K 1 8 3 1

桜庵(おうえん・植木)→貞子(さだこ・植木うえき/大竹、書/歌人) N 2 0 9 4

応安万国禅師(おうえんばんこくぜんじ)→晃全(こうぜん・版橋はんじょう;道号、曹洞僧) F 1 9 2 6

- C1430 **応為**(おうい・葛飾かつしか、名;栄い、通称;栄女/阿栄おえい、葛飾北斎3女) 1791?-1858?68? 絵師;父門、南沢等明の妻;離婚、晩年の父と生活;北斎の制作助手、美人画、1857(67歳)家出;行方不明、仏門に入り加賀前田家抱となり没とも、1810?「狂歌国尽」挿画/1847「女重宝記」画、1848「煎茶手引の種」画、「月下砧打美人図」「吉原夜景図」画など、川柳も嗜む(号;エイ)、[角とれて丸くふとつた宿下がり](柳多留八五)

- C1404 **往一**(おういつ) ? - ? 伊勢山田の俳人、1633重頼「犬子えのこ集」1467、

[波のつゞみうたでかははる氷かな](犬子集;1467/皮張ると川に張るを掛る/音が無し)

応一武者(おういつむしや) → 玄武坊(げんぶぼう・神谷かみや/水野、俳人) C 1 8 9 9

C1406 桜陰(おういん・芳野よし、名;世行、金陵男)1843-72 江戸生/儒者;父門/安井息軒門、昌平覺助教、  
「桜陰遺稿」、復堂(夭逝)の弟

桜蔭(おういん・泉崎) → 真畔(まろ・泉崎、国学) 4 0 6 9

桜蔭(おういん・熊代) → 繁里(しげさと・熊代くましろ、国学者/歌人) C 2 1 2 3

桜蔭(おういん・島) → 義勇(よしとけ・島しま、藩士/蝦夷開拓) E 4 7 2 0

桜蔭(おういん・平瀬) → 春愛(はるちか・平瀬ひらせ、国学/歌/実業) K 3 6 7 1

桜蔭(おういん・堀口) → 貞国(さだくに・堀口ほりぐち、国学者) P 2 0 3 2

桜蔭(おういん・室) → 方義(まさよし・室むろ、国学/勤王/政治家) T 4 0 1 4

桜隠(おういん・中木) → 維明(これあき・中木、養蚕研究) O 1 9 0 9

応寅(おういん・有本) → 楽山(らくざん・有本ありもと、藩士/歌学) B 4 8 1 8

C1431 応胤親王(おういんしんのう、名;貞斎/尊悟、号;蜻菴、貞敦親王男)1521-9878歳 母;三条実香女の香子、  
梶井門跡、1553天台座主/70還俗、法号;後竜禅院、「蜻菴消息」著、  
歌;「梶井宮尊悟法親王懷紙詠草」著

C1432 鷗雨(おうう・岩崎いわさき、名;雍)1804-6461 大津阪本町の米商(小笠原家の蔵元)、  
儒詩・山陽門、画;浦上春琴門、  
「鵜鷺問答」「湖魚譜」「円岡遊記」「退邇問答」「鷗雨唵藁ざんこう」「残夢詩草」著、  
[鷗雨(;号)の字/別号]字;元熙、別号:玉来居士/残夢老人

桜宇(おうう・鹿島) → 則文(のりふみ・鹿島、儒/国学/神職) F 3 5 7 3

桜宇(おうう・坂本) → 浩然(こうねん・坂本、医/本草/絵師) K 1 9 9 0

奥羽四天王(おううしてんのう): 江戸後期奥羽で活躍した4人のすぐれた俳人

→ 五明(ごめい・吉川/那波、1731-1803) D 1 9 9 3

→ 素郷(そきょう・小野、1749-1820) D 2 5 4 8

→ 長翠(ちようすい・常世田とよだ、1750-1813) J 2 8 0 9

→ 乙二(おつに・岩間、1756-1823) 1 4 1 9

桜鳥仙(おううせん) → 宇中(うちゅう・和田わだ、俳人) B 1 2 4 2

桜雲(おううん・牧) → 頼元(らいげん・牧まさき、教育者) 4 8 4 2

桜雲居(おううんきよ) → 為明(ためあき・竹内たけうち/岩田、浄土僧/歌) Y 2 6 0 9

桜雲舎(おううんしゃ) → 正和(まさかず・河村かわむら、医者/国学) P 4 0 0 8

桜雲亭(おううんてい) → 宗長(むねなが・伊藤いとう/自然齋、家老/茶人) D 4 2 5 6

王羸(おうえい・小田) → 海僊(かいせん・小田おだ、絵師) I 1 5 8 5

翁右衛門(おうえもん・高島) → 正興(まさおき・高島たかしま、庄屋/歌人) Q 4 0 6 5

襖右衛門(おうえもん・三宅) → 康高(やすたか・三宅みやけ、藩主/茶人) G 4 5 8 1

桜園(おうえん) → 千春(ちはる・吉村、藩士/国学) F 2 8 2 0

桜園(おうえん) → 夷臣(ひなおみ・後藤、国学) E 3 7 2 7

桜園(おうえん) → 有通(ありみち・林、国学/教育) F 1 0 8 1

桜園(おうえん) → 貞融(さだみち・岩下/滋野、国学者/歌) C 2 0 4 9

桜園(おうえん) → 信也(のぶなり・南部、歌人) C 3 5 6 2

桜園(おうえん) → 信海(のぶみ・林、名主/国学/歌人) D 3 5 3 5

桜園(おうえん) → 光章(みつあき・加賀美/源、神道/国学) C 4 1 9 9

桜園(おうえん) → 枝彦(えだひこ・佐藤/信田、国学/歌) E 1 3 0 3

桜園(おうえん) → 清安(きよやす・山田やまだ、藩士/国学者) D 1 6 6 9

桜園(おうえん) → 建彦(たけひこ・伊奈いな、神職/国学) O 2 6 6 5

桜園(おうえん) → 広高(ひろたか・春枝はるえだ、国学者) G 3 7 2 0

桜園(おうえん) → 鉄之介(てつすけ・関、藩士/桜田門外変) C 3 0 5 9

桜園(おうえん) → 重春(しげはる・渡辺、神職/国学・歌学) C 2 1 8 7

桜園(おうえん) → 忠寛(ただひろ・大久保おおくぼ、一翁、幕臣) U 2 6 3 9

桜園(おうえん) → 利剛(としひさ・南部なんぶ、藩主/国学/歌) T 3 1 7 7

- 桜園(おうえん) → 為寵(ためちか・大島おおしま、藩士/歌人) W 2 6 1 4  
 桜園(おうえん) → 為足(ためたり・大島、為寵男/藩士/歌) W 2 6 1 5  
 桜園(おうえん) → 豊嗣(とよつぐ・岡本わかもと、商家/歌人) U 3 1 6 0  
 桜園(おうえん) → 美庭(よしむ・大野おの、国学) L 4 7 9 7  
 桜園(おうえん) → 仲聴(なかあきら・長利おさり、神職/歌人) L 3 2 5 3  
 桜園(おうえん) → 有鷹(ありたか・鱸すずき、宿屋経営/国学) H 1 0 7 8  
 桜園(おうえん) → 春岡(はるおか・鎌垣かまがき/大伴/児玉、国学/歌) J 3 6 9 5  
 桜園(おうえん) → 英哲(ひでのり・樋口ひぐち、神職/国学) K 3 7 7 4  
 桜園(おうえん) → 豪尊(ごうそん; 法諱、藩士/天台僧/歌) Q 1 9 8 5  
 桜園(おうえん) → 正沖(正興まさおき・布川ぬのかわ、商家/歌) R 4 0 4 4  
 桜園(おうえん) → 則貞(のりさだ・三ツ井みつゐ、国学者) K 3 5 0 9  
 鶯園(おうえん・前田) → 夏蔭(なつかげ・前田、国学者) G 3 2 6 6  
 鶯園(おうえん・前田) → 夏繁(なつげ・前田まえた、幕臣/国学者) G 3 2 6 7  
 桜垣内(おうえんない) → 重麿(しげまる・穂積/鈴木、藩士/国学) S 2 1 7 1  
 応円満院(おうえんまんいん) → 基熙(もとひろ・近衛/藤原、関白/歌人) E 4 4 0 9  
 桜塙(おうお・加賀美) → 光章(みつあき・加賀美、神道/国学) C 4 1 9 9  
 桜塙(おうお・菱川) → 清春(きよはる・菱川、絵師) Q 1 6 1 7
- 1400 桜々(おうおう、金令舎、鈴木道彦の妻・尼)?-1842 俳人:道彦門/夫没後;金令舎を継承、  
 1820「はなはかま」30「道彦七部集」38「続鶯本集」編、「春帖」著  
 鷗翁(おうおう・今井) → 柳荘(りゅうそう・今井いまい、代官/俳人) F 4 9 0 3  
 桜翁(おうおう) → 綱雄(つなお・岩崎、国学) B 2 9 0 4  
 応々翁(おうおうおう) → 方山(ほうざん・滝、俳人) B 3 9 0 0  
 応々山人(おうおうおさんじん) → 浪化(ろうか; 号、真宗大谷派僧、俳人) 5 2 0 2  
 鶯々舎(おうおうしゃ) → 素大(そだい・村井むらい、地主/俳人) K 2 5 0 3  
 桜塙閑人(おうおかんじん) → 信賢(しんけん・大鳥居/菅原/高辻、社僧/連歌) O 2 2 1 4
- C1433 王屋(おうおく・富田とみだ、名; 充実/充、字; 伯耳、育斎男) 1728-76 49 仙台藩士/儒学・天文暦数・詩賦、  
 「王屋文集」「郷雲集」「春鶯嚶」「江戸春秋」「室町春秋」「王屋詩文原稿」著/「王屋遺稿」、  
 [王屋の通称] 源吉/源吉郎  
 桜屋(おうおく・益谷) → 末寿(すえほぎ・益谷/荒木田/菊屋、神職/国学) B 2 3 4 3  
 桜屋(おうおく・千田) → 澳魚(おきな・千田せんだ/平、藩士/歌) D 1 4 7 0  
 桜屋(おうおく・鈴木) → 鶯雄(わしお・鈴木すずき、国学/歌人) 5 3 8 5
- D1461 桜何(おうか) ? - ? 江前期上州吉井の俳人; 1694不角「へらざ口」入、  
 [詠まぬ同士どし名に痛み入る和歌の浦](へらざ口/話する間につひ舟が着く)、  
 (歌枕で歌を詠めないで片隅で小さくなってひそひそ雑談; 景色見ぬうち舟が着く)  
 桜花(おうか・松井) → 重宣(じゅうせん・松井まつい、俳人/狂歌) P 2 1 2 4  
 桜花(おうか・木俣) → 守易(もりやす・木俣きたた/橘、藩老/楽焼) J 4 4 7 9
- B1462 応賀(おうが・万亭まんてい、服部長三郎/孝三郎、勾当服部長狭男) 1819-90 72 江戸生/常陸下妻藩士;  
 致仕/合巻・滑稽本作: 1845「釈迦八相倭文庫」46「都鳥花の魁」「福神妹背扇」47「葛葉九重錦」、  
 1848「忠臣蔵之助立」50-56「庭訓武蔵鑑」、「分限正札智恵秤」、1843「風流柳樽」編、ほか著多数、  
 [そも世の中は変化するものなれば古書を読むものは  
 其の書を自評ふみだいとして新智に登るべし](分限正札智恵秤)  
 [万亭応賀の別号] 春頌斎/長恩堂/南花堂  
 応雅(おうが・木下) → 正賢(まさかた・木下きのした、商家/歌人) P 4 0 1 2  
 応雅(おうが・中村) → 孟政(たけまさ・中村なかむら、酒造業/歌人) Y 2 6 6 3  
 黄花庵(おうかあん) → 永機(えいき・深川/穂積、俳人) 1 3 2 0  
 黄花庵(おうかあん) → 湖十(4世こじゅう・深川、俳人) C 1 9 8 5  
 黄花庵(おうかあん) → 湖十(6世こじゅう・深川、俳人) C 1 9 8 7
- C1434 桜崖(おうがい・津田つだ、修姓; 津/名; 敏/字; 子恵)?-? 江後期和泉貝塚国学者: 1808「助語辨法」著  
 鴨厓(おうがい・頼) → 三樹三郎(みきさぶろう・頼らい、儒者/詩) 4 1 6 9  
 鴨涯(おうがい・賀来) → 惟幾(これちか・賀来かく、医者/歌人) Q 1 9 6 0

- 奥海散人(おうかいさんじん) → 曰人(わつじん・遠藤/木村、藩士/俳人) 5 3 5 1  
 往悔子(おうかいし; 変名) → 都の錦(みやこのにしき、浮世草子) 4 1 3 9  
 王華院(おうかん・武田) → 国信(くにのぶ・武田、武将/連歌) D 1 7 0 6  
 桜花園(おうかえん・武藤) → 陳亮(のぶすけ・武藤、国学/歌人) B 3 5 7 0  
 鶯花園(おうかえん) → 美静(びせい・福羽ふくば、藩士/国学) C 3 7 4 2  
 王嶽(おうがく・丹治) → 重治(しげはる・丹治たじひ、和算家) S 2 1 3 2  
 桜花山人(おうかさんじん) → 桜老(おうろう・加藤、儒/国学/尊王派) C 1 4 7 3  
 桜花真人(おうかしんじん) → 豊蔭(とよかげ・上月こうつき、神職/国学) V 3 1 1 9  
 黄花亭(おうかてい) → 都雀(とじゃく・高城たかし、俳人) N 3 1 9 8  
 桜下亭(おうかてい) → 粗州(そしゅう・桜下亭、俳人) J 2 5 8 1  
 桜岳(おうがく・師岡) → 正胤(まさたね・師岡もろおか、国学者/神道) D 4 0 6 2
- C1407 桜関(おうかん・室むろ、名; 克) 1818-1885 68歳 磐城平藩士/儒者・崧庵門、兵学、詩、「桜関詩鈔」著  
 鴨干漁父(おうかんぎよふ) → 海屋(かいおく・貫名ぬさな、書家/画人) 1 5 9 1  
 往還老人(おうかんろうじん) → 如幻(にょげん; 法諱・明春; 字、真宗僧) F 3 3 9 0
- B1427 横几(おうき) ? - ? 江戸俳; 其角門、1696岩翁「若葉合」/1702轍士「花見車」入、  
 [ひつさげておもへば重し衣がへ](花見車; 197/手に持って改めて感じる冬着の重さ)  
 応其(おうき・藤原) → 応其(おうご・木食上人) 1 4 0 1  
 応期(おうき・羽生) → 懋斎(ぼうさい・羽生はにゅう、儒者/兵学) 3 9 9 2  
 嚶其(おうき・葛井) → 文哉(ぶんさい・葛井かつらい、儒者/詩歌) F 3 8 2 9  
 逢義(おうぎ・万歳) → 万歳逢義(まんざいおうぎ、狂歌作者) K 4 0 5 4  
 応機庵主(おうきあんしゅ) → 星洲(せいしゅう・松浦まつら、星占家) B 2 4 9 9  
 鴨折小隠(おうきしょういん) → 星巖(せいがん・梁川やながわ、詩人) 2 4 0 5
- 1445 扇女(おうぎじよ、扇/せん、剃髪; 清寿)?-? 近江膳所の女流俳人・蕉門、糸竹に長ず、  
 瓦屋彦次郎の妾?、柴屋町に住; 50歳頃剃髪、1691「猿蓑」1句入、  
 [縫ひにこす葉袋くすりぶくろや萩の露](猿蓑; 六)  
 (葉袋を届ける包紙に書す/庭前の露もつ萩を見ながら申し越しの葉袋を縫っています)、  
 膳所女流俳人には万里女(まりじよ)・素鬘女(そもんじよ)がいる  
 黄橋楼(おうきつろう) → 涼宇(りょうう・根岸ねざし、商家/俳人) G 4 9 2 8
- B1463 扇折風(おうぎのりかぜ、天野寺六)?-? 尾張藩士、市ヶ谷住、狂歌: 1785後万載1首・87才蔵集2首  
 [星合の空に手向る瓜ふたつ今宵ちぎりの枕ともなれ](才蔵集)  
 扇廼舎(おうぎのや) → 広雄(ひろお・阪/坂ばん、神職/国学) K 3 7 7 2  
 扇屋一雄(おうぎやいちゆう) → 一雄(かずお・扇屋おうぎや、断本作者) F 1 5 1 9  
 扇舎(おうぎや) → 菊五郎(3世きくごろう・尾上、歌舞伎役者) 1 6 9 5  
 扇屋梅幸(おうぎやばいこう) → 菊五郎(4世きくごろう・尾上、歌伎役) F 1 6 1 8
- C1435 鴨脚(おうきやく・井上いのかげ、名; 収/通称; 彦市) 1797-1872 76 筑後久留米藩士/儒者; 昌平黌出、  
 詩歌、佐田竹水と蝦夷地を旅、「適北録」、1828「北遊録」著、池尻懋つむの父  
 応休(おうきゅう・宮崎) → 此筋(しきん・宮崎、荊口男/藩士/俳人) B 2 1 6 7  
 鶯丘舎(おうきゅうしゃ) → 草也(そうや・木村きむら、商家/俳人) J 2 5 0 0
- 1446 応挙(おうきよ・円山まるやま/本姓藤原・源、円山藤左衛門男) 1733-95 63 丹波の農家/絵師・円山派の祖、  
 15-6歳頃上京; 石田幽汀門、写生、社寺障壁画/屏風絵、「応挙画譜」「円応画譜」「欽慕画譜」、  
 「応挙印譜」「四季遊楽図」「七難七福図」「穂に穂」「青山紅葉」「嵐山四時詠」など画多数、  
 [応挙(; 名)の別名/字/通称/号]別名; 岩次郎/氏てい、字; 仲均/仲選、通称; 主水、  
 号; 仙嶺/僊嶺/檀斎せんさい/一嘯/夏雲/雪汀/星聚館/鴨水漁史[夫]/壞雲/洛陽山人/画鬼
- C1408 応渠(おうきよ・佐藤さとう、名; 元萇/萇、字; 賜萇、重俊男) 1818-97 80 会津の儒者; 高津淄川しせん門、  
 さらに羽生賢了門、医者; 多紀元堅もとかた門; 多紀塾都講、1857幕府医学館助講、  
 詩を嗜む、「感詠一貫」「頤堂日抄」著  
 鶯居(おうきよ; 俳号・奥平) → 貞臣(さだおみ・奥平おくだいら、家老/俳人) O 2 0 2 1  
 鷗居(おうきよ・大江) → 広海(ひろみ・大江/早川、国学者/歌) H 3 7 2 0  
 横渠(おうきよ; 号) → 顕令(けんれい; 道号・通憲; 法諱、臨濟僧) N 1 8 1 1  
 横渠(おうきよ・建部) → 尚行(なおゆき・建部たけべ、庄屋/国学/詩) N 3 2 7 7

- 応供広濟国師(おうきょうこうさいこくし)→ 顕日(けんいち;法諱・高峰;道号、臨濟僧/歌) C 1 8 8 6  
 凹隅(おうぐ) → 端隱(たんいん・福井/度会/榎倉、神職/篆刻) T 2 6 1 5  
 翳君(おうくん・久我) → 建通(たけみち・久我が/一条、廷臣/歌) E 2 6 5 3  
 C1436 桜溪(おうけい・鈴木すずき、名;之善/元知、字;子道/通称銀之允) 1733-1804 72 水戸藩士、  
 1759彰考館入、「日本史類字目録」「宝曆改元辛未進献御記録抄出年月出处考」編  
 E1418 鴨溪(おうけい・三宅みやげ、) 1794-1857 64 遠江磐田郡見付町の絵師;江戸の谷文晁門、  
 帰郷し風流三昧の生活;画・詩歌など、「遠江名勝図」編纂参加(鴨溪画「大浦図」入)、  
 [鴨溪(;号)の名/字/通称/別号]名;寅、字;希唐、通称;熊五郎、別号;緑个  
 C1437 鶯溪(おうけい・林はやし、名;晃/字;伯華、復斎男) 1823-74 52歳 幕府儒官;図書頭/式部少輔、  
 1859西丸留守居/学職兼務、1847-52「芸窓瑣録」編、53「柳塘雜録」54-62「蒼菘(わいさい)録」著、  
 「鶯溪文章」著、「甲子夜話摘抄」編/「家乗摘抄」「鷄跖」「文林萌蘖(ぶんりんほうけつ)」著、学斎の兄、  
 [鶯溪の通称/諡号]通称;図書之助、諡号;文懿  
 王卿(おうけい・山田) → 嘯廬(しょうろ・山田やまだ、詩歌人) M 2 2 0 8  
 応卿(おうけい・服部) → 応卿(まさあき・服部はつとり、国学者) R 4 0 8 1  
 桜溪(おうけい・岩瀬) → 尚庵(しょうあん・岩瀬いわせ、藩士/儒者) F 2 2 0 0  
 鶯溪隱士(おうけいいんし) → 金鶯(きんが・梅亭、吉田/瓜生、幕臣/戯作) D 1 6 8 3  
 鶯谿舎(おうけいしゃ) → 吾声(ごせい・岡本、俳人) M 1 9 8 5  
 1447 鶯卿女(おうけいじよ・守村[邨]もりむら、字;春葩しゅんぱ) ?-1868? 江後期江戸蔵前札差守村抱儀(ほうぎ)の妹、  
 俳人;何丸門、宗匠;二条家より認可、1832「女百人一句」編;去留序、明治初年頃没、  
 [鶯卿女の別号] 莫愁庵/海棠庵/芙蓉居  
 兄も俳人 → 抱儀(ほうぎ・守村、俳人/詩/画) 3 9 3 9  
 桜溪亭(おうけいてい) → 大軒(たいけん・屋代やしろ、藩士/書家) J 2 6 8 1  
 王華院(おうけいん・武田) → 国信(くにのぶ・武田、武将/連歌) D 1 7 0 6  
 C1438 黄軒(おうけん・鈴木すずき、名;鐸、字;振道/素道、通称四郎右衛門) ?-? 江後期水戸藩士、  
 1854「甲寅紀略」、「名君龜鑑」「劔甲新論」「武教全書解」著  
 横軒(おうけん・美玉) → 三平(さんぺい・美玉みたま、高橋、尊攘派) M 2 0 7 4  
 鶯軒(おうけん・宮後) → 朝喬(ともたか・宮後みやじり/度会、神職/歌) P 3 1 6 6  
 応謙(おうけん・佐竹) → 噲噲(かいがい・佐竹さたけ、絵師/篆刻) I 1 5 4 9  
 応元(おうげん;字・手島) → 堵庵(とあん・手島てしま、心学者) 3 1 0 1  
 応元(おうげん・金) → 岳陽(がくよう・金こん、儒者) H 1 5 8 0  
 嚶彦(おうげん・亀田) → 鶯谷(おうこく・亀田かめだ/鈴木、儒者) C 1 4 1 3  
 鷗軒庵(おうけんあん) → 宗源(そうげん・藤林ふじばやし、家老/茶人) H 2 5 1 5  
 凹泉逸士(おうけんいっし) → 鷗波(おうは・富田とみた、儒者) C 1 4 6 2  
 応現院(おうげんいん;諡号) → 智洞(ちどう;法諱・桃花房、真宗僧/三業惑乱諍論) E 2 8 9 4  
 桜戸(おうこ・阪倉) → 信明(のぶあき・阪倉、国学/歌) 3 5 7 4  
 桜戸(おうこ・安部) → 惟貞(これさだ・安部、国学/連歌) O 1 9 3 4  
 桜戸(おうこ・安部) → 眞貞(まさだ・安部あべ、惟貞男/国学者) D 4 0 1 1  
 桜戸(おうこ・中山) → 繁樹(しげき・中山なかやま、藩士/国学/歌) Q 2 1 9 2  
 桜戸(おうこ・海老名) → 義恭(よししたか・海老名えびな、役人/連歌) E 4 7 0 6  
 桜戸(おうこ・長谷川) → 保樹(やすき・長谷川はせがわ/宇都宮、国学/歌) F 4 5 3 3  
 桜壺(おうこ) → 立祀(りゅうし、玄旨法師、僧/歌人) M 4 9 0 0  
 1401 応其(おうご;法諱、字;順良/深覚、俗姓;藤原) 1536/7-1608 72-73歳 近江佐々木・大和越智家臣、  
 1573高野山真言僧;政遍門、秀吉に重用;使僧/80余の寺門興建の業、興山寺/青巖寺創建、  
 連歌・歌、「無言抄」「木食応其百首」著、紹巴・昌叱らと百韻多数  
 [応其(;法諱)の初法諱/号]初法諱;日斎、号;木食上人/興山上人/山月/楚仙  
 木食上人楚仙(浄土僧)とは別人→ 楚仙(そせん・浄土僧) J 2 5 9 9  
 B1464 凹巷(おうこう・山口やまぐち・韓、鶯/殻/珥(が)、遠山文圭男) 1772-1830 59 伊勢山田の儒者;橋村痴亭門、  
 1791皆川淇園門/詩・菅茶山門、霞亭の友、河崎敬軒・東恒軒らと恒心社を結社;盟主、  
 1805「北陸游稿」13「東奥紀行」14「天橋紀行」17「芳野游藁」25「月瀬梅花帖」;月瀬紹介、

「後遊録」「伊勢志」「韋蘇州詩鈔」「桜葉館詩文集」「桜葉館全集」「緑窓詩話」「緑窓日記」著、  
[凹巷の字/通称/別号]字;馬卿/聯玉、通称;長次郎/覚太夫/韓聯玉、  
別号;凹庵/楊庵/顛庵/顛庵陳人/臥隱/迂斎

- B1465 甕江(おうこう・川田かわだ、名;剛たけし/字;毅、資嘉男)1830-9667 備中浅口郡阿賀崎生、早く父母没;  
伯父維徳に養われる、儒者;山田方谷・鎌田玄溪門、歌;小野務門、1857近江大溝藩に招聘、  
帰郷後備中松山藩士;督学・監察、「藤樹先生年譜」「去簪社古文偶評」「講史余談」著、  
「文海指針」「晩悔堂印譜」著、維新後「古事類苑」編集総裁、資始すけもとの弟、順の父、  
[甕江(号)の通称/別号]通称;城之助/城三郎/剛介、別号;執斎/行雲流/水書屋/百日紅園  
応孝(おうこう・神南) → 誠敬(のぶたか・神南かなみ、神道/国学/歌) B 3 5 7 2  
桜香(おうこう・坂本) → 浩然(こうねん・坂本、医/本草/絵師) K 1 9 9 0  
黄口(おうこう・中島) → 広足(ひろたり・中島/越智、藩士/国学者) 3 7 2 1
- C1439 応亨斎(おうこうさい・柴しば/さい:修姓・姓;柴橋しばはし、名;且俚しゃこん)?-? 江中期備中の相法(観相)家、  
1776「相法言諺解」著、  
[応亨斎(;号)の字/別号]字;華叟、別号;南澗
- C1410 鶯谷(おうこく・奥田おくだ、名;永業/字;叔建、遊川男)1760-183071 尾張の兵法家;左右田九平門、  
儒者;岡田新川門/経史/詩、1794尾張藩校明倫堂典籍/1804教授/14右筆筆頭、  
1817「牧斎隨身卷」、「明転」「釈辞」「治具十三条」著、「奥田鶯谷遺稿」、容安斎の弟/桐園の父、  
[鶯谷の通称/別号]通称;恒三郎/孫三郎/与三郎、別号;巽亭/牧斎
- C1411 横谷(おうこく・森もり、名;正名/通称四郎、芳材[芳樹]男)1805-7369 土佐藩士/藩校教授館修学、  
儒;山口菅山/佐藤一歳門、1834江戸定府/帰郷閑居/1856藩主の東下に随行/67時事建議、  
「江戸日記」「土佐国人物志」「南海野乗」「野中遺事」「聞見小説」著
- B1428 甕谷(おうこく・岡松おかまつ、名;辰/字;君盈、眞友男)1820-9576 豊後高田儒者:帆足万里ぼり門、  
万里十哲の1、蘭方医学修学、熊本藩士/1869昌平黌教授、  
「荘子考」「窮理解環」「承久記略」著、「帆足ぼり先生文集」編  
[甕谷の通称/諡号] 通称;辰吾/伊助、諡号;文靖先生
- C1412 桜谷(おうこく・佐伯さえき、名;有清/字;種徳/通称;大作、順蔵[棠園]男)?-1858 越中富山藩士、  
儒;昌平黌入、佐藤一斎門/詩、1850富山藩校広徳館儒官/57江戸で表扈従、  
「桜谷百絶」「広徳館詩集」著
- C1413 鶯谷(おうこく・亀田かめだ/鈴木、名;毅/長保、亀田綾瀬りょうらい養嗣子)1807-8175 下総儒者;綾瀬門、  
綾瀬女縫と結婚/女婿、下総閑宿藩儒/藩校教諭館教授、尊攘派、維新後は江戸深川開塾、  
1836「善身堂詩鈔」54「綾瀬先生遺文」編、「五十音説」「神叢図説」「書記発題解」、「關々談」著、  
[鶯谷の字/通称/別号]字:申之/申士/任夫、通称;保次郎(保二郎)/嚶彦、  
別号;学孔堂/本教々舎/稽古堂/稽古楼/鵬雛猯児ほうすうかじ、神号;嚶彦遅命  
桜谷(おうこく・川上) → 親厚(ちかあつ・川上かわかみ、藩士/歌人) M 2 8 3 7  
凹谷(おうこく・横田) → 何求(可及かきゅう・横田、儒者) H 1 5 2 3  
鶯谷(鶯谷おうこく;号) → 禅樺(ぜんえき;法諱・叔悦;道号、臨濟僧) E 2 4 9 2  
鶯谷(おうこく・久志本) → 常彰(つねあきら・久志本/河崎、神職/歌) B 2 9 5 7  
鶯谷(おうこく・最上) → 徳内(とくない・最上もがみ、探検家/紀行) L 3 1 2 5  
鶯谷(おうこく・物集) → 高見(たかみ・物集もづめ、神道/国学/教育) Z 2 6 9 2  
鶯谷隠士(おうこくいんし) → 南畝(なんぼ・大田、狂歌詩/戯作) 3 2 3 3  
鶯谷吏隠(おうこくりいん) → 南畝(なんぼ・大田、幕臣/狂歌詩) 3 2 3 3
- B1466 凹居士(おうこじ・大堤道たいていどう)?-? 漢学/洒落本作者、1761「北里懲儉録」著  
桜戸主人(おうこしゅじん) → 保樹(やすき・長谷川はせがわ/宇都宮、国学/歌) F 4 5 3 3  
桜勿斎(おうこつさい) → 雪麿(雪丸ゆきまる・下溪主人、俳人) F 4 6 6 3  
桜戸の清蔭(おうこのきよかげ) → 綱雄(つなお・岩崎、国学) B 2 9 0 4  
桜根(おうこん・細木) → 瑞枝(みずえ・細木ほそぎ、庄屋/農政/歌) 4 1 9 0  
鷗沙(おうさ・伊村) → 鷗沙(おうしゃ・一筆坊、俳人/書家) 1 4 4 8  
鷗沙(おうさ・三浦) → 桜所(おうしょ・三浦みづら、医者/詩) C 1 4 5 0
- C1440 往斎(おうさい・亙理わたり、名;常雄つねお、常虎男)1769-184476歳 仙台藩涌谷邑主;伊達家臣、

兵学:林子平門、経書/暦学に精通、1834「蓋天輿地図解」41「蓋天輿地図解附考」著  
1844(天保15)没、  
[往齋(;)号)の字/通称]字;守雌、通称;太冲

- B1429 翁齋(おうさい・由賀よしが) ? - ? 尾張名古屋の洒落本作者、  
1800大野屋惣八編「軽世界けいせいかい四十八手」の「不味ふあじな手・真の手」著
- C1441 桜齋(おうさい・山崎、春方[地形堂堅丸]男) 1797-1843 47歳 拳の名手/狂歌作者、  
妻;清賢女奈美(茂橘の妹)
- C1442 鶯齋(おうさい・梅の本、別号;梅里/一信亭) ?-? 江後期嘉永-慶応1848-68頃絵師;国芳門、  
滑稽本・人情本の挿絵、  
1836-「いろは文庫」/57-63「七偏人」/59「駅路の鈴」65「春色野咲廻梅」、「春情花の朧夜」著
- 応齋(おうさい・秋山) → 御風(ぎよふう・秋山あきやま、藩士/俳人) H 1 6 5 5  
応齋(おうさい・太田) → 然々(ぜんぜん・太田おた、俳人) M 2 4 8 1  
鷗齋(おうさい) → 能阿弥(のうあみ、書画/連歌) 3 5 0 1  
鷗齋(おうさい・隅田) → 定估(定休さだやす・隅田、国学者/歌) K 2 0 0 8  
凹齋(おうさい・黒川) → 盛隆(もりたか・黒川、藩士/国学/歌人) F 4 4 5 9  
応宰(おうさい・林) → 道栄(どうえい・林/官梅、通事/書家) B 3 1 3 5  
翁齋(おうさい・合原) → 窓南(そうなん・合原ごうはら、藩儒/宋学) C 2 5 6 5  
桜齋(おうさい・中島) → 孝昌(たかまさ・中島なかじま、里正/俳人) D 2 6 7 3  
桜齋(おうさい・歌川) → 房種(ふさたね・歌川うたがわ/村井、絵師) C 3 8 1 3  
櫻齋(おうさい・多羅尾) → 氏純(うじずみ・多羅尾たらお、幕臣/国学) C 1 2 4 0  
応作(おうさく・福住) → 世貞(つぐさだ・福住ふくずみ、商家/歌人) G 2 9 2 5
- C1423 桜三(おうさん・吉村、花蹄軒) ?-1710 近江柏原の酒屋、俳人・木因門、  
1691江水「元禄百人一句」目録入
- C1443 鶯山(おうざん・長ちよう、名;徳信/字;義父) ?-? 天逝 江中期播磨の儒者、「鶯山遺稿」
- B1430 翁山(おうざん・巨勢こせ) ? - ? 江戸の講釈師、將軍吉宗の従兄弟
- 応山(おうざん・近衛) → 信尋(のぶひろ・近衛、関白/書/連歌) D 3 5 0 9  
鶯山(おうざん・雨森) → 精齋(せいさい・雨森あめのもり/妹尾、藩儒) 2 4 7 6  
鶯山(おうざん・柴田) → 千町(ちまち・柴田しばた、神職/歌人) M 2 8 6 8  
鶯山(おうざん・波多野) → 直足(なおたり・波多野はたの、神職/歌人) O 3 2 2 8  
桜山(おうざん・真田) → 貫道(つらみち・真田さなだ、藩家老) E 2 9 4 9  
桜山(おうざん・馬島) → 光昭(みつあき・馬島まじま、藩士/歌人) K 4 1 4 9  
桜山子(おうざんし) → 西吟(さいぎん・水田、俳人) 2 0 7 1  
黄山舎(おうざんしゃ→こうざんしゃ) → 車大(しやだい・暮柳舎3世、俳人) G 2 1 4 5
- B1431 鴨子(おうし・竹林舎) ? - ? 俳人;1778西因「釈教百韻」復刻序と百韻入
- B1432 央子(おうし) ? - ? 狂歌作者:高彦「狂風大人墨叢」に詠草入
- D1475 央子(おうし・本多ほんだ、名;なかこ・orあきこ?) ?-? 江後期;歌人、  
1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、  
[手を折りて春来る事を待ちかねし昔恋しき年の暮れかな](大江戸倭歌;冬1365)
- 桜枝(おうし・小松) → 栄信(えいしん・小松こまつ、僧職/国学) U 1 3 0 8  
鴨之(おうし・笠家) → 左簾(初世されん・笠家/三浦、妓楼主人/俳人) E 2 0 0 5  
鴨涸(おうし・加藤) → 尚質(ひさただ・加藤かとう、藩儒/歌人) I 3 7 9 6  
往次(おうじ・石川) → 往次(ゆきつぐ・石川いしかわ、神道家) G 4 6 5 2  
応時軒(おうじけん) → 居保(すえやす・菅原すがわら、馬術家) F 2 3 7 1  
応時軒(おうじけん) → 利躬(りきゆう・坂本さかもと、俳人) 4 9 5 9  
王侍従(おうじじゆう) → 宇多天皇(うだてんのう、歌人) 1 2 6 8
- C1444 鶯室(おうしつ・中山なかやま、名;喜内) 1814-65 52歳 信州中野新野の里正/俳人・碓嶺門、中山明広の兄、  
寺子屋を開く、1854頃に家業を弟に譲り江戸浅草で札差を開業;失敗、不遇の中で没、  
「垣根塚」「此君次郎集」「方角集」「被等物斗集」「科野地名発句集」著、  
「俳諧今人名家千二百題集」「小屋日記」著、  
[鶯室(;)号)の通称/別号]通称;五郎右衛門、別号;小槌庵/不易庵/漆林館

- 桜室(おうしつ/さくらのや) → 千幹(ちもと・正木、商家/国学者) F 2 8 4 8  
 桜室(おうしつ・中根) → 忠富(ただとみ・中根なかね、藩士/家老/歌) Y 2 6 5 8
- 1448 鷗沙(鷗砂おうしゃ/おうさ・伊村いむら・長谷川) 1724?-1796? 尾張名古屋久屋町の俳人:巴雀・白尼門、  
 書家、1768「古硯」76「過去種」81「花雲集」90「秋錦現世艸」93「月澄集」著、  
 「未来種」「華のめぐみ」著、  
 [鷗沙(砂)の別号] 一筆坊/逸筆坊/巴童舎/過去庵/瓜狐庵/過現未亭/般船廬、  
 墨狂/現水/動水/禹麦/十六林/逸筆道閑
- 鷗沙(おうしゃ・三浦) → 桜所(おうしよ・三浦みづら、医者/詩) C 1 4 5 0  
 桜舎(おうしゃ/さくらのや) → 実樗(さねあき・小倉おぐら、幕臣/歌人) K 2 0 6 9  
 桜舎(おうしゃ/さくらのや) → 信常(のぶつね・白井、国学/歌) C 3 5 1 9  
 横斜庵(おうしやあん) → 許六(きよろく・森川、俳人) 1 6 5 5  
 横斜庵(おうしやあん) → 孟遠(もうえん・山本やまと、許六門俳人) 4 4 4 3  
 黄雀軒(おうじやくけん) → 貞置(さだおき・織田/平、幕臣/茶人) H 2 0 8 4
- C1445 往寿(おうじゅう・魚住うおずみ/本姓;赤松) 1630?-1715 86歳 播磨飾東郡の広峰神社社家、  
 神職;従五下/和漢書に精通、1704「赤松族譜」、「神吉合戦記」著、播磨守護赤松則祐の裔、  
 [往寿(;名)の通称/号]通称;左近将監、号;華陽軒
- C1446 奥州(おうしゅう) ? - ? 貞享[1684-8]頃江戸新吉原遊女(「猿蓑さがし」入)、  
 or上方の遊女(何丸「七部小鑑」入)、俳人;1691「猿蓑」1句入、  
 [恋ひ死なば我が塚でなけほとゝぎす](猿蓑;卷二夏/本歌;万葉3780中臣宅守)、  
 (万葉3780;恋ひ死なば恋ひも死ねとやほととぎす物思もふ時に来鳴きとよむる)
- C1447 鷗洲(おうしゅう・藤田ふじた、名;鼎/字;君彝/通称;嘉内) ?-? 江中期新潟詩人、「荊山集」、了空と親交
- C1448 鷗洲(おうしゅう・巻まき、名;之紀/字;百里/通称;柳輔、菱湖男) 1824-69 46 江戸堀留の書家;父門、  
 歌/画に長ず、1860「世話千字文」書、61「四季用文章」66「掖山遺草」著、  
 [鷗洲の別号] 掖山えきざん/掖々山人、門人;巻菱潭(鷗洲没後に妻の入夫)
- C1449 桜洲(桜州おうしゅう・中井なかい、名;弘、横山詠助の長男) 1832-94 63歳 薩摩鹿児島藩士、  
 藩校造士館修学、安政1854-60頃度々脱藩;諸藩の同志と交流し国事に奔走、  
 1866英国留学/67帰国;中井広三と改名;伊予宇和島藩に出仕/68新政府外国事務御用、  
 外国官判事歴任、のち元老院議官/貴族院議員/1893京都府知事、詩文/書に長ず、  
 1866「西洋紀行」、「漫遊記程」著、息女は原敬の妻、  
 [桜洲(;号)の通称/別称]通称;休之進、  
 別称;鍋島雲城/中井弘三[弘蔵](;1867帰国後)、田中幸助、法号;東陽院
- 応周(おうしゅう) → 応昌(おうしゅう;法諱・深乘、真言僧) C 1 4 5 1  
 応周(おうしゅう・福井) → 応周(まさちか・福井、書家) D 4 0 7 9  
 桜洲(おうしゅう・口羽) → 通博(みちひろ・口羽くちは、藩士/国学者) I 4 1 9 6  
 鴨州(おうしゅう・大村) → 純鎮(すみやす・しげ・大村、藩主/和漢学) D 2 3 9 9  
 鴨洲(おうしゅう・吉益) → 北洲(ほくしゅう・吉益よしまつ/青沼、医者) D 3 9 3 9  
 鷗洲(おうしゅう・三木) → 半邨(はん村はんそん・三木みき、儒者) I 3 6 3 6  
 鷗洲(おうしゅう・津金) → 胤臣(たねおみ・津金つがね、藩士/陶工/歌) G 2 6 3 5  
 鷗洲(おうしゅう・武谷) → 豊蘭(れいらん・武谷たけや、蘭医) 5 1 7 0  
 鷗舟(おうしゅう・渡辺) → 眞楫(まかじ・渡辺/大岡、幕臣/教育) 4 0 4 8
- C1405 応住(おうじゅう;法諱・寂法;字、号;麟典/縁因、俗姓鈴木) 1662-1740 79 武蔵生/真言律僧;浄巖門、  
 1707慧光門、12福智庵創建、1709「秘蔵記鈔私記」23「般若理趣経純秘鈔私記」、「徧学集」著
- 1449 鶯宿(おうしゆく・八木やぎ、別号;春星堂/此花庵/方斎) ?-? 大阪の俳人;梅室門、「月並角力集」編、  
 1849「画口合街廻栗」52「俳諧冬籠」53「残香集」56「与之の人」編/58「鼈頭奥之細道」著
- 鶯宿(おうしゆく) → 乗邨(のりむら・駒井、藩士/国学/俳人) F 3 5 9 5  
 王春(おうしゆん・三宅) → 康直(やすなお・三宅みやけ/酒井、藩主) C 4 5 3 6  
 鶯馴亭(おうじゆんてい) → 智彦(ともひこ・松木/度会、神職/歌) Q 3 1 3 3
- C1450 桜所(おうしよ・三浦みづら、名;竜/耕、九折男) 1790-1834 45歳 越後水原の医者、  
 儒/詩;大田錦城/漢学;葛西因是門、館柳湾/巻菱湖と交流、  
 「晴余堂文集」「東里園集驗良方」著



[桜所(；号)の字/別号]字；長農/士馬、別号；鷗沙

桜所(おうしょ・安達)	→	舒長(のぶなが・安達あだち、儒/詩歌)	C 3 5 5 5
桜所(おうしょ・杉田)	→	玄端(げんたん・杉田すぎた、医者)	K 1 8 3 6
桜所(おうしょ・石川)	→	良信(よしのぶ・石川いしかわ、医者/詩人)	F 4 7 7 2
桜所(おうしょ・小林)	→	元有(もとあり・小林こばやし/林、国学者)	J 4 4 9 5
桜所(おうしょ・小林)	→	緑樹園(りよくじゅえん・小林元有、商家/狂歌)	J 4 9 7 7
桜処(おうしょ・岩政)	→	信比古(さねひこ・岩政いわまさ/越智、国学)	L 2 0 2 7
桜曙(おうしょ・中島)	→	孝昌(たかまさ・中島なかじま、里正/俳人)	D 2 6 7 3
鷗処(おうしょ・園田)	→	不時宜(ふじぎ・園田、藩士/儒/教育)	C 3 8 4 3
鷗渚(おうしょ・大須賀)	→	筠軒(いんけん・大須賀おおすが、儒者)	I 1 1 5 1
鷗処(おうしょ・岩瀬)	→	忠震(ただなり・岩瀬/設楽、幕臣/詩/画)	Q 2 6 3 7
鷗嶼(おうしょ・守村)	→	抱儀(ほうぎ・守村[邸]、商家/俳人)	3 9 3 9
王汝(おうじょ・岡本)	→	花亭(かてい・岡本おかもと、幕臣/詩人)	C 1 5 5 7

C1451 応昌(おうしょう；法諱・深乗しんじょう；字、応周、富松貞慶男)1581-1645<sup>65</sup> 紀州那賀郡真言僧；高野山僧；文殊院勢嘗門/93伝法灌頂受/1608高野山興山寺(応其おうご建立)3世、私財で御影堂造営、連歌；1619「何船百韻」など昌琢らと百韻多数

C1452 鷗嘯(おうしょう) ? - ? 播磨姫路の俳人；1692才磨「椎の葉」3句入、[書写増位いづれ栂もみぢの早稲むせをくて](椎の葉；133/両山の紅葉の時期)

C1453 鷗笑(おうしょう・井上いとうえ智宣、修姓：井)?-1777 越後新発田藩加茂組大庄屋/俳人；美濃派、1727「賀茂の矢立」編；青海神社に梅の移植記念

C1414 菿松(おうしょう・江尻えじり、名；成章なりあきら)1795-1865<sup>71?</sup> 加賀金沢藩士；能登総持寺代官、儒・詩；頼山陽門、門弟を教育、「名家系譜纂疏」「皇系漸移織纂疏」「菿松詩文稿」著  
[菿松(；号)の通称]通称；益左衛門/雄左衛門

桜廂(おうしょう)	→	蛸洲(れいしゅう・寺崎/三木/木、儒/俳)	5 1 3 7
応小(おうしょう・安達)	→	月讞(げつしん・安達あだち、俳人/教育)	N 1 8 5 6
応承(おうしょう・福田)	→	吮潮斎(しゅんちようさい、諸星もろほし/福田、料理人)	L 2 1 4 9
応昇(おうしょう・黒瀬)	→	応昇(まさのり・黒瀬くろせ、国学者)	M 4 0 9 0
応祥(おうしょう・黒田)	→	綾山(りょうざん・黒田くろだ、絵師)	E 4 9 2 2
応昭(おうしょう；法名)	→	橘園(きつえん・水谷川みやがわ/近衛、僧/神職)	V 1 6 3 4
鴨沼(おうしょう・加門)	→	恭輔(きょうすけ・加門かもん、医者)	O 1 6 1 7

C1454 桜咲軒(おうしょうけん) ? - ? 播磨姫路の俳人；1692才磨「椎の葉」3句入、[ひらひらや桜散りうく山清水](椎の葉；107)

桜正坊(おうしょうぼう)	→	宗源(そうげん；法諱、天台僧)	H 2 5 1 4
鷗処篤斎(おうしょとくさい)	→	光応(みつまさ・河路かわじ、商家/歌人)	I 4 1 7 4
王子路考(おうじろこう)	→	菊之丞(2世きくのじょう・瀬川、歌舞伎役者)	1 6 1 0

C1455 応震(おうしん・円山まるやま/本姓源、木下応受男)1790-1838<sup>49</sup> 京の絵師；伯父円山応瑞おうずいの養嗣子、人物/山水/花鳥画、「狂歌画賛集」著、

[応震(；名)の字/通称/号]字；仲恭/百里、通称；辰三郎/主馬亮/主水、号；星聚館/方壺子

応進(おうしん・黒瀬)	→	応進(まさゆき・黒瀬くろせ/秦、国学者)	I 4 0 3 2
応信(おうしん・佐藤)	→	斌彦(あきひこ・佐藤まさとう/飯塚、里正/国学)	H 1 0 6 5
泷信(おうしん・越)	→	泷信(ひろのぶ・越こし、国学者/歌人)	J 3 7 5 8
鷗心(おうしん・矢野)	→	昭徳(あきのり・矢野やの、藩士/国学者)	I 1 0 5 9
甕臣(おうしん・林)	→	甕臣(みかおみ・林はやし、国学/語学者)	H 4 1 8 5
応眞院常照(おうしんいんじょうしょう)	→	浪化(ろうか・応眞院、真宗僧/俳)	5 2 0 2
応心斎(おうしんさい・高木)	→	正朝(まさとも・高木たかぎ、弓術家)	E 4 0 7 7
鷗心亭(おうしんてい；庵号)	→	柳居(りゅうきよ・佐久間、俳人)	D 4 9 3 3

1428 応神天皇(おうじんてんのう、仲哀帝皇子/母神功皇后)?-? 記紀歌謡詠、在位中に王仁秦漢氏渡来、播磨風土記に品太天皇(ほんだのすめらみこと)として入

桜水(おうすい・秋月)	→	橘門(きつもん・秋月、儒者)	I 1 6 6 6
-------------	---	----------------	-----------

- B1433 **応瑞**(おうざい・円山まるやま/源、応挙男) 1766-1829 64歳 円山四条派絵師;父門、  
「僊斎翁追薦展観画録」編  
[応瑞(;名)の字/通称/号]字;儀鳳、通称;右近/主水、号;怡真堂  
鴨水漁史(おうすいぎよし) → 応挙(おうきよ・円山/藤原・源、絵師) 1 4 4 6  
鴨水漁夫(おうすいぎよふ) → 応挙(おうきよ・円山/藤原・源、絵師) 1 4 4 6  
鴨水子(おうすいし) → 只丸(しがん;号、真宗高田派僧/俳人) B 2 1 4 1
- B1400 **翁輔**(翁助/翁介おうすけ・並木なみき、別号;素柳/千柳2世)?-? 江後期浄瑠璃・歌舞伎作者;宗輔門、  
1754翁輔に改号/84千柳を継承、1752「倭仮名在原系図」54「天照太神岩戸曙」58「襲廓曙」、  
1759「伊勢や日向の物がたり」61「秋葉権現廻船語」99「唐土織日本手利」外著多数
- 1450 **翁助**(おうすけ・沖おき) ? - ? 陸中盛岡藩の儒者;盛岡三助の1、「鼠の巢」著  
翁助(おうすけ・竹俣) → 当綱(まさつな・竹俣たけのまた、藩士/藩政) D 4 0 9 8  
翁助(おうすけ・多田) → 守保(もりやす・多田ただ、藩家老/武芸) G 4 4 7 0  
翁助(おうすけ・田中) → 定格(さだただ・田中たなか、幕臣/国学者) O 2 0 7 9  
翁助(おうすけ・田中) → 定賢(さだよし・田中、定格男/幕臣) O 2 0 8 0  
翁助(おうすけ・小島) → 安昌(やすまさ・小島こじま、幕臣) C 4 5 9 7  
翁助(おうすけ・轟木) → 寛胤(ひろたね・轟木とどろき、藩士/尊攘) K 3 7 3 2  
翁介(おうすけ・村田) → 良風(よしかぜ・村田むらた、藩士/歌人) P 4 7 5 5  
翁介(おうすけ・村田) → 延年(のぶとし・村田、良風男/藩士/歌) K 3 5 1 5  
翁輔(おうすけ・小野) → 顕世(あきよ・小野おの、庄屋/国学) H 1 0 1 9  
応助(おうすけ・檜垣) → 貞舎(さだいえ・檜垣/度会、神職) H 2 0 7 5  
応助(おうすけ・井筒屋) → 光寛(みつひろ・柴田/藤原、商家/蔵書) E 4 1 6 9  
小確命(おうすのみこと) → 倭建命(やまとたけるのみこと) 4 5 1 8  
央政(おうせい・荒川) → 栗園(りつえん・荒川/荒河あらかわ、勤王家) B 4 9 6 0  
桜生(おうせい・野口) → 比礼雄(ひれお・野口のぐち、歌人) F 3 7 4 5  
応清(おうせい・丹羽) → 南荘(なんそう・丹羽にわ、老荘学/書) J 3 2 2 3  
応清(おうせい・高島/宇留野/山野辺/田中) → 江南(こうなん・田中/田でん、儒/医/投壺) G 1 9 4 3  
応聖(おうせい・曾谷) → 学川(がくせん・曾谷そだに、儒者/詩/篆刻) E 1 5 8 8  
鶯栖園隠士(おうせいえんしん) → 重石丸(いかりまる・渡辺、国学・神道家) B 1 1 4 0  
鴨青外史(おうせいがいし) → 季護(すえもり・山本やまもと/高木、官人/国学) J 2 3 3 6  
鷗声亭(おうせいてい) → 逸人(いつじん・加藤かとう、商家/俳人) B 1 1 5 1  
黄石(おうせき) すべて → 黄石(こうせき)  
桜石(おうせき・茂木) → 久周(ひさちか・茂木もてぎ、足利学校代官) B 3 7 3 4
- C1456 **黄赤子**(おうせきし、遠藤えんどう、名;盛俊/衛久) 1669-1734 66 陸前仙台藩士/天文方;渋川春海門、  
1709「昼夜長短之図」、16「天地儀解」著  
鶯雪(おうせつ) → 真藁(しんざい;法諱・季瓊きけい、臨濟僧) 2 2 3 6
- C1457 **桜仙**(おうせん・井岡いのおか、名;冽/字;元泉/通称;道貞[道亭]/大蔵) 1778-1837 60 江戸の本草学者、  
小野蘭山門、美作津山藩主松平家の侍医/侍読、「竹乗」著、「大和本草批正」「毛詩名物質疑」編  
横川(おうせん;道号・景三) → 景三(けいさん;法諱・横川、臨濟僧/五山文学) 1 8 0 4  
横川(おうせん/よかわ;号) → 顕基(あきもと・源、廷臣/歌人) 1 0 8 6  
横泉(おうせん;道号) → 無著(むじやく;法諱・黄泉、曹洞僧) 4 2 6 3  
横船(おうせん;号/よこふね;名・吉田) → 蘭秀(らんしゅう・吉田、俳人) C 4 8 5 2  
桜川(おうせん/さくらがわ) → 春門(はるかど・三村、名主/画/狂歌) G 3 6 2 0  
応仙(おうせん;初法諱) → 寂本(じやくほん;法諱、真言僧) G 2 1 3 7  
応沾(おうせん;字) → 長感(ちようかん;法諱、浄土宗西山派僧) H 2 8 7 2  
応然(おうぜん) → 自休(じきゅう・中川/藤原/進藤、廷臣/歌人) B 2 1 6 0  
鴨川志摩丸(おうせんしまる) → 季護(すえもり・山本やまもと/高木、官人/国学) J 2 3 3 6
- B1434 **桜叟**(おうそう) ? - ? 摂津金竜寺の俳人;和及門、1690言水「新撰都曲」2句入、  
1692助叟「俳諧新初ちょうなはじめ」入/92静栄「俳諧水茎の岡」入、  
[偶人かたしろや男女をとこをんなのしるしなし](新撰都曲;上170/偶人は災難祓の紙のひとがた)  
桜叟(おうそう) → 逸人(いつじん・加藤かとう、商家/俳人) B 1 1 5 1

- 桜草(おうそう・岸田) → 吟香(ぎんこう・岸田きしだ、新聞/薬業家) S 1 6 5 2
- 鷗巢(おうそう;号) → 宗沅(そうげん;法諱・南江なんこう;道号、臨濟僧) B 2 5 2 9
- 鷗巢(おうそう;号) → 春甫(しゅんぽ・村松むらまつ、俳人/画) K 2 1 4 4
- 鷗巢(おうそう・伊藤) → 都貢(とこう・伊藤、俳人) L 3 1 6 8
- 鶯巢園(おうそうえん) → 千秋((ちあき・大石おおいし、国学者/歌) B 2 8 0 1
- 王蘇山人(おうそさんじん) → 筋堂(せつどう・十河そごう、篆刻家) L 2 4 3 2
- C1458 鷗村(おうそん・森もり、名;保定/字;士興、通称;定助/定吉、邦治男) 1831-1907 77 下野藤岡の名主、1849領主の暴政に反抗/父と投獄/赦免後江戸住、儒者:藤森天山・安積良齋門、長崎遊学、1866帰郷;家塾鷗村学舎を開設;子弟教育、「文明雑誌」刊、1866「堅白文稿」、「鷗村文抄」「西遊草」著
- 鶯邨(鶯村おうそん) → 抱一(ほういつ・酒井、絵師/俳人/諸芸) 3 9 1 3
- 鷗村(おうそん・菅) → 長成(ちようせい・菅、俳人) J 2 8 1 5
- 鷗村(おうそん・帆足) → 杏雨(きやうう・帆足ほあし、絵師) N 1 6 2 2
- 黄村(おうそん・向山) → 黄村(こうそん・向山むこうやま、幕臣/詩) G 1 9 6 6
- 甕孫(おうそん・岡田) → 甕孫(みかしば・岡田おかだ/夏目、国学/歌) I 4 1 5 6
- 王孫明(おうそんめい) → 雄風(おかせ・水上みなかみ、修験/国学/歌) E 1 4 1 5
- 鶯台(おうだい・柳沢) → 里水(りすい・柳沢やなぎさわ、俳人) B 4 9 2 8
- 王台(おうだい・春日) → 載陽(さいよう・春日かすが、医者/儒者) O 2 0 2 8
- 桜男法師(おうだんほうし→あおほうし) → 桜男法師(あおほうし、法華寺靈彦) D 1 0 2 4
- あふち(おうち・加藤) → 吉彦(よしひこ・加藤かとう、神職/国学/歌) M 4 7 1 1
- 桜痴(おうち・福地) → 源一郎(げんいちろう・福地/名村、蘭学/幕臣) H 1 8 6 6
- 桜痴(おうち・山中) → 幸忠(ゆきただ・山中やまなか、歌人) E 4 6 7 7
- 樗舎(おうちのや・古賀) → 遊五(ゆうご・古賀こが、庄屋/俳人) B 4 6 5 6
- 樗舎(おうちのや・関) → 広喬(ひろたか・関せき/田代/平、藩士/国学) K 3 7 0 1
- 樗廼舎(おうちのや) → 通静(みちさよ・江幡えはた、儒国学/歌人) I 4 1 2 2
- 樗の屋(おうちのや) → 通理(みちまさ・江幡えはた、通静の弟/医者/国学) I 4 1 2 3
- 応中(おうちゅう・印東) → 応中(まさなか・印東いんどう、藩士/歌人) N 4 0 8 8
- 応忠(おうちゅう・入江) → 応忠(まさただ・入江いりえ、藩士/和算家) D 4 0 5 0
- 横超院真央(おうちやういんしんおう;法名) → 蝦芸(かげい・含山軒、性徳、真宗僧/俳人) K 1 5 7 6
- 応頂山大木食闇梨(おうちやうさんだいまくじきしゃり) → 以空(いくう;法諱、真言僧) F 1 1 2 7
- 王荇子(おうちやうし) → 豊長(とよなが・高辻/菅原、廷臣/日記) R 3 1 3 8
- C1459 応汀(おうてい・氷室むろ兵庫)?- ? 江後期尾張津島社祠官/俳;1811士朗古希賀集「長寿楽」編  
氷室長翁(兵庫)との関係? → 長翁(ながとし・氷室むろ、1787-1836津島社神主) E 3 2 8 7
- 桜亭(おうてい・田中) → 友水子(ゆうすいし・田中、俳人/文筆家) C 4 6 8 5
- 鶯亭(おうてい) → 甫紅(ほうこう・浅井あさい、俳人) E 3 9 1 5
- 桜滴(おうてき・丹蔵) → 光業(みつなり・丹蔵たんぞう/杉原、神職/国学) J 4 1 7 3
- 櫻顛(おうてん・高林) → 延女(のぶじよ・高林たかばやし、歌人) G 3 5 9 9
- 応躑(おうてん・伊藤) → 蘭岬(らんがう・伊藤いとう、藩儒) B 4 8 7 7
- 桜顛山人(おうてんさんじん) → 雲山(うんざん・池原いけはら、医者/詩人、別号;) D 1 2 7 4
- 応天堂(おうてんどう) → 速馬(はやま・浅井、藩士/和算家) F 3 6 7 4
- C1415 横塘(おうとう・春田はるた/角野/海老名、辻つじ久兵衛[土生道順]男) 1768-1828 61 和泉岸和田の儒者、昌平黌入;古賀精里門/大阪で講説業、篆刻に長ず、1802-23「唐明詩類函」編/11「古詩筌」、「横塘集」「横塘臆記」「春田代耕集」「心降録」、「養生詩」「有慕集」「読唐詩選」著、「横塘遺稿」、[横塘の名/字/通称]名;有則/走、字;有物、通称;松二郎/仁左衛門/尚平
- C1460 桜塘(おうとう・井上いのうえ、名;揆/字;一卿)?-? 1879存 陸奥儒者;藤森弘庵門、幼少時;刀槍術習得、野州大平山おおひらさんの義挙に参加;敗北し投獄/維新後1869八戸藩に招聘され藩政参与;学事担当、八戸と東京を往復;東京で旧雨社の詩会に参加、「桜塘文稿」、「雪鴻楼詩稿」「漫游奇聞」著
- 応登(おうとう・柴野) → 碧海(へきかい・柴野しばの/柴、儒者/詩文) 2 7 8 7

- 鴨東(おうとう;俳号) → 松宗(しょうそう、臨濟僧/俳人) K 2 2 5 5
- 鴨東(おうとう・松平) → 春嶽(しゅんがく・松平まつだいら、藩主/詩歌) J 2 1 3 3
- 鴨冬(おうとう・三好/安宅) → 冬康(ふゆやす・安宅あたぎ/橘、武将/連歌) E 3 8 4 4
- 王道(おうどう・内藤) → 碧海(へきかい・内藤ないとう、漢学者/史学) 2 7 8 8
- 応道(おうどう・篠崎) → 三島(さんとう・篠崎/篠、商家/儒者) E 2 0 6 0
- 嚶堂(おうどう・角野) → 乙芽(おつが・角野、俳人) D 1 4 1 4
- 黄堂(おうどう・白石) → 桃花洞(とうかどう・白石、儒/道学) C 3 1 2 5
- 桜桃園(おうとうえん) → 弓雄(ゆみお・山崎、国学者/教育) G 4 6 1 0
- 鴨東蕨父(おうとうそくほ) → 蕨父(そくほ・鴨東、語学者) F 2 5 0 4
- 凹凸窩(おうとつか・石川) → 丈山(じょうざん・石川、儒者/詩人) S 2 2 5 7
- 凹凸堂(おうとつどう) → 伊三郎(いさぶろう・中屋/中、蘭学/銅版画) F 1 1 5 0
- 応日庵(おうにちあん) → 素雄(そゆう、3世渭浜庵、俳人) K 2 5 5 0
- 応仁道円(おうにんどうえん) → 宝篋(ほうきやう:法諱、真言僧) 3 9 4 3
- 桜寧(おうねい) → 元良(元亮げんりやう・平野ひらの、医者) N 1 8 0 7
- 桜寧齋(おうねいさい) → 景周(かげちか・富田とだ、儒者) E 1 5 9 6
- 桜寧室主人(おうねいしつしゅじん) → 元良(元亮げんりやう・平野ひらの、医者) N 1 8 0 7
- 桜寧舎(おうねいしゃ) → 宗長(むねなが・伊藤いとう/自然齋、家老/茶人) D 4 2 5 6
- C1461 黄年(おうねん) 1777 - 1853 77歳 加賀金沢の僧;古寺町宝来寺の山伏/法印、  
俳人;甘谷門、蒼虬/眉山らと交流、1848「このはな集」編、50「白根集」、「六々の喰ざん」著、  
[黄年の別号] 一慶、梅守、柯堂、二夜庵、十梅園、養嗣子;上田松英(俳人)
- 瓮廼舎(おうのや→みかのや) → 貞賢(さだかた・藤川ふじかわ、藩士/歌人) H 2 0 9 8
- B1435 鷗波(おうは) ? - ? 詩;石川丈山門、  
1691丈山「北山紀聞」共編:伯琳・翠筠軒・正岑らと
- C1416 横波(おうは・白杵うすき、名;張/鎮張、字;景張/通称;駿平、鹿垣男) 1806-6459 周防儒者;昌平覺出、  
周防長府藩校敬業館教授、「匾額へんがく集」著、「横波詩文遺稿」
- C1462 鷗波(おうは・富田とみた、名;久稼、字;美卿/厚積) 1836-1907 72 越前の儒者;高野眞齋/花木澹齋門、  
福井藩校明道館句読師、安積良齋・安井息軒・大沼枕山など昌平学派に師事、  
経史/詩文を修学、江戸藩邸学問所で教授/のち藩校明道館教授、1869明新館文学大訓導、  
「藤島余芳」「還読齋遺稿」著、[鷗波の別号]病虎山人/凹県逸士
- 央坡(おうは・市川) → 青流(せいりゅう・市川、遣欧使節従者) J 2 4 8 0
- 鷗波(おうは・瀬尾) → 荘三(そうぞう・瀬尾せお、藩士/書家/歌) I 2 5 3 3
- 黄梅軒(おうばいけん;号) → 禅諾(ぜんだく;法諱・独園;道号、臨濟僧) M 2 4 9 0
- 桜梅軒(おうばいけん・津軽) → 朝喬(ともたか・津軽、藩士/俳人) P 3 1 6 4
- 黄白子(おうはくし) → 春水(しゅんすい・渋川/入間川、藩士/天文暦算家) L 2 1 1 6
- 王白石(おうはくせき) → 健平(たてひら・野村のむら、国学/詩歌) Y 2 6 9 2
- 黄檗堂(おうばくどう) → 許六(きよろく/きよりく・森川、俳人/画) 1 6 5 5
- 黄檗の三筆(おうばくのさんびつ);黄檗宗の能筆の3人
- 隠元(いんげん・隆琦りゅうき) 1592-1673 C 1 1 0 3
- 木庵(もくあん・性瑠しょうとう) 1611-1684 4 4 6 4
- 即非(そくひ・如一にょいつ) 1616-1671 D 2 5 5 6
- 王葩堂(おうはどう) → 蓮谷(れんこく・板倉いたくら、俳人) B 5 1 0 5
- 桜庇(おうひ・竹林) → 小諸(こもろ・竹林たけはやし、国学/歌人) Q 1 9 9 8
- 黄薇山人(おうびさんじん/こう) → 古松軒(こしょうけん・古河/古川、地誌家) 1 9 3 3
- 王百石(おうひやっこく) → 海僊(かいせん・小田おだ、絵師) I 1 5 8 5
- C1463 嫫夫(おうぶ) ? - ? 俳人;1772几董「其雪影」1句入;354、  
[名月や宝の山は鼻の先](其雪影;巻尾354)
- 汪父(おうぶ・河合) → 正阿(しょうあ/せいあ・河合、医者/俳人) Q 2 2 7 0
- 桜風(おうふう) → 金羅(きんら・東とう/内田、俳人) J 1 6 4 0
- 応物(おうぶつ・上条) → 柳居(りゅうきよ・上条かみじやう、与力/国学) D 4 9 3 4

- B1476 **応文**(おうぶん・国井くいに) 1833- 1887 55 母;円山応震の妹、京の医家の生、  
絵師;円山応立門/師の後継者、1855朝廷の御用絵師、のち中島来章らと如雲社設立、  
[応文(;)の字/別号]字;仲質、別号;彬々斎ひんひんさい  
桜文(おうぶん・川崎) → 多豆雄(たずお・川崎かわさき/高原、神職/国学) W 2 6 6 0  
鷗辺(おうへん・平野) → 藹臣(あいしん・平野、儒詩) D 1 0 1 9
- C1464 **鷗歩**(おうほ) ? - ? 岐阜の俳人;1689「あら野」6句入、  
[折るときになりて逃げけり花の枝](あら野;卷一/やっとなつと撓めた枝が肝心な時放れた)
- B1436 **鶯蒲**(おうぼう・酒井さかい、香阪寿徴2男) 1808-41 早世 34歳 江戸市ヶ谷真宗浄栄寺に生、  
1818雨花庵入、琳派絵師/俳人;酒井抱一[1761-1828]門/のち抱一の養子、  
師没後雨花庵2世を継嗣、「酒井抱一像」「六玉川絵巻」「扇面散図屏風」画など、  
[鶯蒲(;)の名/通称/別号]名;詮真、通称;八十丸、別号;伴清/獅現/雨華庵2世、  
法諱;依心院  
甕甫(おうほ・林) → 甕甫(みかとし・林はやし、庄屋/国学者) K 4 1 1 3  
桜峰(おうほう・林) → 春勝(はるかつ・林、鶯峰、羅山男/儒者) 3 6 3 0  
黄袍園(おうほうえん) → 春思(しゅんし・山多/山田やまだ、俳人) J 2 1 8 4  
王慕秋(おうぼしゅう) → 秋水(しゅうすい・長尾ながお、遍歴/詩人) H 2 1 7 7  
甕麿(おうま・夏目) → 甕麿(みかまろ・夏目、酒造業/国学者) 4 1 6 1
- D1479 **意宇磨**(おうまろ・熊野くまの、通称;小別火) 1836-? 出雲意宇郡熊野村の熊野大神宮の宮司家の生、  
1852(嘉永5/17歳)美作勝田郡飯岡の平賀元義の楯の舎塾に入門;国学・歌を修学、  
1857(安政4)出雲に帰国(帰国時に師平賀元義や同輩磯山久磨・岡本氏広の送別歌あり)、  
1863(文久3)生野の変に反幕尊攘の志士として参加、  
1857-8大沢深臣「巨勢総社千首」入、  
[伊予人の問はば答へよ楯の舎の木の小わしげき道の八十くま](巨勢総社千首、  
1857大沢深臣が伊予に行くを送る歌)  
参考;[玉くしげ二心なきますらをの心に似たるひゝらぎの花](平賀元義の歌、  
1857意宇磨の出雲帰国時に送別歌/楯の舎の庭に柵を植えていた)
- 澳満(おうまん・浅海) → 澳満(おきまろ・浅海あさみ、藩士/歌人) D 1 4 8 4
- 1451 **淡海**(おうみ・調首つきのおびと) ? - ? 壬申乱に功/723従五上/27賀宴参加、  
万葉二期;万葉集一55(:大宝元[701]九月持統太上天皇紀伊行幸の従駕歌)、  
[あさもよし紀人きひともしも真土山行き来くと見らむ紀人としも](万葉;一55)
- C1465 **相覧**(おうみ/あいみ・巨瀬こせ、金岡かなおか長男) ?-? 平安前期絵師;唐絵様式、  
901(延喜元)絵所絵師;讃岐少目すくないさかんとなる、公忠の兄  
源氏物語絵合巻に[(竹取物語を)絵は巨勢の相覧、手は紀貫之書けり]とある
- C1466 **近江**(おうみ/あふみ) ? - ? 平安期;女房歌人、  
歌;1065?[裸子内親王(1039-96)家歌合]参加(5月5日)、続詞花集入、  
[郭公なくは心ぞあくがるる空だのめすと思ふものから](裸子歌合;二番郭公左3)
- E1430 **近江**(おうみ/あふみ・皇嘉門院) ?- ? 平安期;皇嘉門院聖子(1122-81)家の女房、  
1165清輔[続詞花集]入、  
[たばといふ人にもものいふときくをとこの 又ふみをおこせければ、  
いかなればおほえの山をこえながら志賀のうら波おもひかくらん](続詞花;恋511)
- 1408 **近江**(初世おうみ・竹田たけだ、清房) 1624-1704 81歳 阿波浄瑠璃;大阪竹本座の座元、  
からくり人形を考案/名代なだい、1658出雲目いずみさかん受領;少掾、2世近江・初世出雲の父
- C1467 **近江**(2世おうみ・竹田たけだ、清孝、初世男) 1649?-1729 81? 大阪竹本座の座元、  
からくり芝居名代;少掾
- C1468 **近江**(3世おうみ・竹田たけだ、清英、初世出雲男) 1712-42 早世 31 大阪竹本座の座元、  
1704からくり芝居名代;大掾
- D1458 **近江**(あふみおうみ;組連) ? - ? 江戸芝宇田川町新道の組連、  
取次;1764「東馬評万句合」入/63-68「川柳評万句合」/70「麟舎評万句合」入、  
取次例;[にぎにぎがきらひで公事くじの取り裁き](64東馬評万句合)、  
(前句;まつすぐな事々々/公正な裁判官は稀少)

D1467 あふみ(おうみ;組連) ? - ? 江戸京橋三十間堀の組連、芝宇田川町近隣(上記と同一?)

取次;1780「川柳評万句合」入

取次例;[嫁のおくびに里が出てやかましい](せつせつな事々々)、  
(おくびにも出さぬの逆/嫁のいつもの里自慢に姑の不快)

近江(4世おうみ・竹田) → 白徳斎(はくとくさい、3世近江の弟、座元) D 3 6 7 5  
近江(おうみ・多田) → 直清(なおきよ・多田、神職/国学者) B 3 2 1 3  
近江(おうみ・内野) → 常正(つねまさ・内野うちの、国学者) D 2 9 7 4  
近江(おうみ・伊達) → 村倫(むらのり・伊達だて、領主/歌人) D 4 2 1 8  
近江(おうみ・宮本) → 池臣(いけおみ・宮本/毛呂もろ、神職/国学) F 1 1 3 8  
近江(おうみ・黒田) → 増熊(ますくま・黒田/立花、藩家老/歌) I 4 0 9 7  
近江(おうみ・岩橋) → 元彦(もとひこ・春原はるはら、歌人) D 4 4 9 4  
近江(おうみ・佐竹) → 義茂(よしげ・佐竹さたけ、藩士/詩文) D 4 7 6 3  
近江(おうみ・中川) → 巖(いわお・中川ながわ、神職/歌人) J 1 1 7 6  
近江(おうみ・寒川) → 直方(なおかた・寒川さむかわ、神職/国学) N 3 2 2 6  
淡海大津宮天皇(おうみおつのみやのすめらみこと) → 天智天皇(てんちてんのう) 3 0 1 2  
淡海居士(おうみこじ) → 三船(御舟みふね・淡海真人、廷臣/漢学) 4 1 3 7  
近江権介(おうみごんのすけ・岡本) → 保興(やすおき・岡本おかもと、神職) F 4 5 5 6  
淡海散人(おうみさんじん) → 蔵六(ぞうろく・原田はらだ、商家/記録) J 2 5 2 5  
近江聖人(おうみしょうにん) → 藤樹(とうじゅ・中江、儒;陽明学) 3 1 1 6

B1498 近江采女(おうみのうねめ) ? - ? 平安前期宮中女房/歌;古今664・1109(:墨滅すみけち歌)、  
[山科の音羽の滝の音にだに人の知るべくわが恋ひめやも](古今1109;天皇への返歌)

近江守(おうみのかみ・藤原) → 継平(2世つぎひら・藤原ふじわら、刀匠) 2 9 5 6  
近江守(おうみのかみ・和田) → 道政(どうせい/どうしょう、和田、僧/歌人) F 3 1 9 4  
近江守(おうみのかみ・八条) → 房繁(ふさしげ・八条はちじょう、馬術家) C 3 8 0 8  
近江守(おうみのかみ・大和田) → 重清(しげきよ・大和田おおわだ、武将/日記) Q 2 1 9 4  
近江守(おうみのかみ・前田) → 直方(なおただ・前田、藩士/隨筆) B 3 2 5 6  
近江守(おうみのかみ・新納) → 久元(ひさもと・島津しまづ/新納、武将/家老) J 3 7 8 2  
近江守(おうみのかみ・草鹿砥) → 宣隆(のぶたか・草鹿砥くさかど、儒/国学) B 3 5 7 4  
近江守(おうみのかみ・狩野/岡田) → 為恭(ためちか・冷泉/岡田、絵師/歌) H 2 6 0 0  
近江守(おうみのかみ・石野/佐々木) → 一陽(かずあき・佐々木、幕臣/歌) M 1 5 0 3  
近江守(おうみのかみ・猿渡) → 盛章(もりあきら・猿渡さわり、神職/歌人) F 4 4 0 8  
近江守(おうみのかみ・水野) → 三春(みはる・水野みずの、神職/歌人) E 4 1 5 3  
近江守(おうみのかみ・藤木) → 静顕(きよあき・藤木ふじき、医官) N 1 6 0 3  
近江守(おうみのかみ・青山/浅野) → 長容(ながかね・浅野あさの、藩主/歌) K 3 2 6 6  
近江守(おうみのかみ・岡本) → 花亭(かてい・岡本おかもと、幕臣/詩人) C 1 5 5 7  
近江守(おうみのかみ・津田) → 正路(まさみち・津田つだ、幕臣/外交) H 4 0 4 5  
近江守(おうみのかみ・樹下) → 資秀(すけひで・樹下じゅげ、神職/歌人) L 2 3 1 5  
近江守(おうみのかみ・浅野) → 長訓(ながみち・浅野あさの、茂長/藩主) K 3 2 8 0  
近江守(おうみのかみ・岡本) → 俊嘉(俊義としよし・岡本おかもと、神職/歌) T 3 1 9 2  
近江守(おうみのかみ・岡本) → 氏足(うじたり・岡本おかもと/賀茂、神職/書家) E 1 2 6 2  
近江守(おうみのかみ・岡本) → 氏臣(うじおみ・岡本/賀茂、氏足男/神職/書家) C 1 2 3 4  
近江守(おうみのかみ・小原) → 千座(ちくら・小原おはら/立石、神職/歌) M 2 8 1 9  
近江守(おうみのかみ・加茂) → 茂庭(しげにわ・加茂かも、神職/国学) N 2 1 8 9  
近江守(おうみのかみ・丹治) → 行和(ゆきかず・丹治たじ、神職/国学) G 4 6 9 7  
近江守(おうみのかみ・千鳥) → 祐順(すけのぶ・千鳥ちどり、神職/国学) I 2 3 7 7  
近江守(おうみのかみ・弓削) → 正継(まさつぐ・弓削ゆげ/市川、官人/国学) T 4 0 6 0  
近江守(おうみのかみ・松室) → 眞雄(まさお・松室まつむろ/秦、国学/歌) L 4 0 8 9  
近江守(おうみのかみ・和田) → 為盛(ためもり・和田わだ/平、神職/国学) 2 7 3 3  
近江守(おうみのかみ・渡辺) → 資政(すけまさ・渡辺わたなべ、神職/国学) J 2 3 4 4  
近江更衣(おうみのこうい) → 周子(しゅうし/ちかこ・源、醍醐天皇更衣/歌) H 2 1 5 1

- 近江輔(おうみのすけ・古海) → 深志(ふかゆき・古海ふるみ、神職/国学) I 3 8 6 9  
 近江大掾(おうみのだいじょう) → 久重(ひさしげ・田中/源、細工師/発明) B 3 7 1 3  
 近江大掾(おうみのだいじょう) → 広繁(ひろしげ・沢渡さわたり/紀、絵師) G 3 7 0 3  
 近江御息所(おうみのみやすどころ) → 周子(しゅうし・源、醍醐天皇更衣/歌) H 2 1 5 1  
 近江屋(おうみや・斎藤) → 全門(ぜんもん・斎藤さいとう、心学者) N 2 4 1 5  
 近江屋(おうみや) → 白亀(はつき・平尾ひらお、商業/俳人) F 3 6 1 0
- C1469 王民(おうみん・藤村ふじむら、能遷亭/能遷館、直道男) 1748-1826 79 讃岐和田浜の商人(豪商)、詩文、  
 「能遷亭詩集」著、直弘なおひろの兄
- C1470 鴨眠(おうみん・池本いけもと、名; 顕実あきざね) 1790-1846 57 近江甲賀郡水口藩の大庄屋/醸造業、  
 国学・歌人; 前波黙軒(蘆庵四天王)・海野遊翁(黙軒門人)門、  
 「藪陰集」「和歌名所集」「旭堂随筆」、1845「和歌名所一覽」著  
 [鴨眠(;号)の通称/別号]通称; 忠右衛門、別号; 旭堂
- 奥民(おうみん・金田) → 智義(ともよし・金田、国学/地誌) Q 3 1 9 5  
 嚶鳴館(おうめいかん: 塾名) → 平洲(へいしゅう・細井、儒者) 3 9 0 2  
 応夢庵(おうむあん・木内) → 一桃(いとう・木内きうち、俳人/其日庵) H 1 1 7 2
- C1471 鸚鵡吉兵衛(おうむさちべえ) ? - ? 1680年代(天和貞享元禄頃); 京の幫間、  
 軽口名手; 「好色一代女」巻五入、  
 幫間四天王の1[願西弥七・神楽庄左衛門・酒乱与左衛門と]
- 鸚鵡亭(おうむてい) → 昭美(あきよし・鳥居、藩士/俳人) E 1 0 0 9  
 桜門(おうもん・斎藤) → 実村(さねむら・斎藤さいとう、藩士/日記) L 2 0 3 8  
 甕雄(おうゆう・林) → 甕雄(みかお・林はやし、国学者) 4 1 5 3  
 鶯幽霊(おうゆうれい) → 蛸洲(たけしゅう・寺崎/三木/木、儒/詩) 5 1 3 7  
 往誉(おうよ; 字) → 単霊(たんれい; 法諱・往誉; 字、浄土僧) T 2 6 6 3  
 往誉(おうよ・還蓮社; 法名) → 潮吞(ちやうどん; 法諱・信入、浄土僧) J 2 8 5 9  
 応庸(おうよう・中山/堀部) → 武庸(たけつね・堀部/中山、赤穂浪士/討入) O 2 6 4 8  
 応養(おうよう・寺島) → 静斎(せいさい・寺島/原、藩士/藩政改革) I 2 4 2 4  
 王洋(おうよう・十市) → 安居(やすおき・十市とおち、藩士/絵師) G 4 5 3 0  
 往来庵(おうらいあん) → 俊(たかし・千々和ちぢわ、医者/国学/歌) Y 2 6 2 0  
 鶯来屋(おうらいや) → 直胤(なおたね・正宗まさむね、国/俳/狂歌) B 3 2 6 2  
 黄落庵(おうらくあん) → 嵐雪(らんせつ・服部はつとり、俳人) 4 8 0 6
- C1417 鴨里(おうり・岡田おかだ、名; 僑、字; 周圍/周輔、砂川佐一郎男) 1806-80 75 淡路中田村生/岡田家養子、  
 儒者; 頼山陽門/1861徳島藩士; 中小姓/62洲本学問所文学教授、  
 維新後は参政; 藩政改革参加、  
 1834「名節録」「日本外史補編」/50「日本外史補」55「西遊雑記」66「東遊日録」、「山道遊記」著
- B1437 鷗里(おうり・忠津ただつ、別号; 閑日庵) ?-1853 徳島俳人; 三露庵万和/臥鷗門、町の俳諧宗匠、  
 1841眉山大滝山で芭蕉150祭執行/其角句碑建、38「三四考」編、「松魚芭集」編
- 黄離(おうり・竹原) → 濃水(れいすい・竹原たけはら、医者/篆刻) 5 1 4 1  
 鷗里(おうり・渡辺) → 為親(ためちか・渡辺わたなべ、商家/国学) 2 7 3 9
- B1467 応律(おうりつ・豊竹、豊竹越前少掾男) ?-1785/6? 大阪浄瑠璃・歌舞伎作者; 野田碁文/並木宗輔門、  
 1736頃大阪で歌舞伎作者/51豊竹座付浄瑠璃作者/56改名; 応律/芝居主/晩年は歌舞伎作者、  
 歌舞伎: 1737「久米仙人袖振山」、浄瑠璃; 1751「一谷嫩軍記」56「義仲勲功記」外著多数  
 [豊竹とよたけ応律の別号]野田文六/野田甚六/豊竹甚六、梁塵軒2世
- B1454 桜律(おうりつ・板倉いたくら) 1815-1879 65歳 備後庄原の俳人; 芹舎門
- 甕栗(おうりつ・沖) → 安海(やすみ・沖おき/源、商家/国学/歌) D 4 5 0 1  
 玉立山樵(おうりつさんしやう) → 秋水(しゅうすい・長尾ながお、遍歴/詩人) H 2 1 7 7
- C1472 応立(おうりゅう・円山まるやま/本姓源、寺井久次郎男) 1817-75 59歳 京の絵師; 円山応震の養子、  
 1855禁裏御所の絵御用、1849刊「蚤斯励翼」編/「円山応瑞13回忌追福遺墨展観」著、  
 [応立の字/通称/号] 字; 子道、通称; 多都雄/主水、号; 方壺/米斎/星聚館
- 鶯笠(おうりゅう) → 鳳朗(ほうろう・田川/永井、俳人) 3 9 5 8  
 鶯笠(おうりゅう) → 大筈(たいこう/たいきやう・青野、俳人) B 2 6 3 7

奥竜(おうりゅう;法諱) → 玄楼(げんろう;道号・奥竜、曹洞僧) N 1 8 1 5  
 応竜(おうりゅう・亀井) → 雷首(らいしゅ・亀井/三苦みとま、医者/儒) 4 8 5 5  
 応竜(おうりゅう・谷川) → 士清(こすが・谷川、医者/神道/語学) 1 9 3 6  
 鶯笠園(おうりゅうえん) → 光穂(みつほ・八羽はつば/荒木田、神職/国学) E 4 1 8 1  
 鴨流軒(おうりゅうけん) → 嘯山(しょうざん・三宅、商家/詩/俳人) S 2 2 5 0  
 王亮(おうりょう・多田) → 守保(もりやす・多田ただ、藩家老/武芸) G 4 4 7 0  
 王梁元(おうりょうげん) → 静斎(せいさい・寺島/原、藩士/藩政改革) I 2 4 2 4  
 応林(おうりん・駒木根こまきね) → 投李(桃李とうり、藩士/俳人) I 3 1 0 7  
 応蓮社岩通(おうれんしゃがんつう) → 岩通(がんつう;法名・応蓮社・良声、浄土僧) R 1 5 4 4  
 応蓮社讚誉(おうれんしゃさんよ) → 牛秀(ぎゅうしゅう;法諱・助給、浄土僧) M 1 6 6 9  
 横蓮社縦誉(おうれんしゃじょうよ) → 心岩(しんがん;法諱・頑夢、浄土僧/画) N 2 2 7 7  
 奥路(おうろ・荻坊おぎのぼう) → 其鳳(きほう・大雅舎たいがしゃ、浮世草子) B 1 6 7 7  
 桜廬(おうろ・菅) → 政友(まさとも・まさすけ・菅かん、儒/国学者) E 4 0 7 8

C1473 **桜老**(おうろう・加藤かとう、佐藤政祥男) 1811-8474 常陸水戸の生/1817外祖父加藤惣蔵の養子、  
 常陸笠間藩士、儒;守田桜園門/笠間藩校時習館都講/1830致仕、昌平鬻入;佐藤一斎門、  
 兵学;清水赤城門、国学;平田篤胤門、1852より尊王運動/山口郊外で開塾、  
 維新後;東京住/大学准博士、安房神社宮司、  
 「桜老詩艸」「今様楽譜」「宿直物語」著、

[桜老の名/字/通称/別号]名;信智/熙ひろし/隣/有隣、字;伯敬、通称;日出吉/日出太郎、  
 別号;穆軒/桜花山人/榊蔭、変名;山田貢

鶯老(おうろう・岡村) → 菊叟(きくそう・岡村、家老/砲術/歌人) K 1 6 1 7  
 奥六(おうろく・川島) → 知修(ともなが・川島かわしま、地役人/国学) U 3 1 8 4  
 甕和(おうわ・高良) → 武揚(たけあき・高良こうら、国学者) X 2 6 0 9  
 王日人(わうにちじん・汪日人おうわつじん) → 日人(わつじん・遠藤/木村、藩士/俳人) 5 3 5 1  
 滄湾(おうわん・大村) → 桐陽(とうよう・大村、儒者) H 3 1 9 0  
 阿栄(おあい・葛飾) → 応為(おうい・葛飾かつしか、北斎女/絵師) C 1 4 3 0  
 大海人皇子(おおあまのみこ) → 天武天皇(てんむてんのう) 3 0 1 5

E1414 **大炊**(おおい・水野みずの、) 1824-187552 三河吉田の真宗大谷派の浄円寺了游の妻、  
 歌人;岩上登波子とわこ門

E1426 **大猪**(おおい・和田わだ、初名;孝国) 1844-8643 撰津八部郡の和田神社祠官、国学;大国隆正門、  
 [大猪(;名)の号]隣松主人/白翁

大炊(おおい・檜垣) → 常典(つねのり・檜垣/度会わたらい、神職) D 2 9 1 4  
 大炊(おおい・堀/多賀) → 秀種(ひでたね・多賀/堀、武将/日記) D 3 7 1 6  
 大炊(おおい・前田) → 孝友(たかとも・前田まえだ、藩士/記録) M 2 6 4 6  
 大炊(おおい・前田) → 孝本(たかもと・前田まえだ、藩士/記録) N 2 6 4 4  
 大炊(おおい・岡田) → 忠光(ただみつ・岡田おかだ、兵法家) P 2 6 7 6  
 大炊(おおい・鎮西) → 清浜(きよはま・鎮西ちんぜい、神職/歌人) U 1 6 7 5  
 大炊(おおい・菊池) → 真建(まさたけ・菊池きくち、神職/国学) P 4 0 2 3  
 大炊(おおい・宇津木) → 泰交(やすとも・宇津木うつき、家老/歌) F 4 5 3 6  
 大炊(おおい・十文字) → 重光(しげみつ・十文字じゅうもんじ/木下、神職/和漢学) O 2 1 8 6  
 大炊(おおい・中川) → 守先(もりさき・中川なかがわ/荒木田、神職/国学) K 4 4 7 7  
 大炊(おおい・武久) → 季平(すえひら・武久たけひさ/松岡、藩士/歌) I 2 3 7 5  
 大炊(おおい・三浦) → 正道(まさみち・三浦みうら/藤原、神職/歌) S 4 0 8 3  
 大炊(おおい・竹内) → 守命(もりのぶ・竹内たけうち/藤岡、神職/国学) K 4 4 4 5  
 大炊(おおい・和田) → 為盛(ためもり・和田わだ/平、神職/国学) 2 7 3 3  
 大池神主(おおいけのかんぬし) → 成助(なりすけ・賀茂かも、神職/歌人) H 3 2 4 4

B1468 **大石小石躬陰**(おおいしおののみかげ、石屋新兵衛) ?-? 江中期江戸の石工、狂歌四方連、  
 徳和歌後万載集3首、

[雁がねの鏝つばもとまでも鳴つれて落るは月のさやかとぞみる](後万載;275/金・鏝・鞘)

B1401 **大石王**(おおいしのおおきみ) ? - ?57歳没 廷臣、699弓削皇子喪事の監護;山科山陵修造使、



大石御所(おおいのごしょ) → 材親(きちか・北畠、武将/文筆/連歌) L 1 6 2 3  
 大炊王(おおいのおおきみ) → 淳仁天皇(じゅんにんてんのう、万葉歌人) K 2 1 3 7  
 大炊頭(おおいのかみ・池田) → 継政(つぐまさ・池田いけだ、藩主/歌人) 2 9 8 5  
 大炊頭(おおいのかみ・松平) → 頼雄(よりかつ・松平まつだいら、藩主/歌人) Q 4 7 1 6  
 大炊頭(おおいのかみ・土井) → 利厚(としあつ・土井どい、藩主/建議書) M 3 1 0 3  
 大炊頭(おおいのかみ・根本) → 胤満(たねまる・根本/神服/平、国学者) G 2 6 4 8  
 大炊頭(おおいのかみ・千鳥) → 祐雅(すけまさ・千鳥ちどり/中臣、神職/歌) I 2 3 7 9  
 大炊頭(おおいのかみ・朽木) → 綱貞(つなさだ・朽木くつき/源、藩主/歌人) B 2 9 0 6  
 大炊頭(おおいのかみ・林) → 良通(よしみち・林はやし/岡村、幕臣/国典) H 4 7 3 8  
 大炊頭(おおいのかみ・水野) → 忠幹(ただもと・水野みずの、家老/藩主/歌) U 2 6 4 1  
 大炊頭(おおいのかみ・北小路) → 俊徳(としのり・北小路きたのこうじ/大江、諸大夫/歌) U 3 1 9 8  
 大井里睡壁民(おおいのさとすいへきみん) → 去来(きよらい・向井むかい、俳人) 1 6 5 4  
 大炊助(おおいのすけ・喜入) → 久正(ひさまさ・喜入きいれ/川上、武将/家老/国学) J 3 7 2 2  
 大炊助(大炊介おおいのすけ・狩野) → 元信(もとのぶ・狩野、幕府絵師) D 4 4 6 8  
 大炊助(おおいのすけ・狩野) → 松栄(しょうえい・狩野かのう、絵師/元信男) F 2 2 4 1  
 大炊助(おおいのすけ・高松) → 千尋(ちひろ・高松たかまつ/高塚、神職/国学) M 2 8 8 0  
 大炊助(おおいのすけ・飯田) → 興秀(おきひで・飯田、弓馬故実家) C 1 4 9 6  
 大炊助(おおいのすけ・山内) → 豊道(とよみち・山内、藩士/学制改革) R 3 1 6 5  
 大炊助(おおいのすけ・宮永) → 保親(やすちか・宮永/伊藤、神職/国学/歌) C 4 5 0 4  
 大炊介(おおいのすけ・青山) → 敏文(としふみ/としふみ・青山/黒山、国学) N 3 1 6 7  
 大炊介(おおいのすけ・杉浦) → 比隈満(ひくまら・杉浦、神職/国学) 3 7 4 9  
 大炊介(おおいのすけ・諏訪) → 頼武(よりたけ・諏訪すわ、神職/国学) N 4 7 4 1  
 大炊帥(おおいのそち) → 隆家(たかいえ・藤原、廷臣/詩人) C 2 6 5 0  
 大井千尋(おおいのちひろ) → 山陽(さんよう・芝の屋、狂歌) G 2 0 0 9

B1469 **大井武郷**(おおいのむさと) ? - ? 江中期狂歌作者、1785「徳和歌後万載集」1首:594、  
 [此の君とひとよねふしのさゝめ言思ひのたけもわりていはばや](後万載:594)

(此の君は竹の雅称[晋書・枕草子];よ・ね・ふし・ささ・たけ・わりは縁語)

大炊兵衛(おおいひょうえ) → 兼陳(かねのぶ・薬丸やくまる、藩士/劍客) W 1 5 0 1  
 大炊兵衛(おおいひょうえ) → 兼福(かねとみ・薬丸、兼陳男/藩士/劍客) W 1 5 0 2  
 大炊御門(おおいみかど;称) → 経宗(つねむね・藤原ふじわら、廷臣/歌人) D 2 9 9 5  
 大炊御門右大臣(おおいみかどのうだいじん) → 公能(きんよし・藤原/徳大寺、歌) E 1 6 8 6  
 大炊御門齋院(おおいみかどのさいいん) → 式子内親王(しきしないしんのう、歌) 2 1 0 7  
 大炊御門前内大臣母(おおいみかどのさきのないだいじんのはは;新千載集) →  
 冬信母(ふゆのぶのはは・大炊御門、歌) E 3 8 3 6

大炊御門太政大臣女(おおいみかどのだいじょうだいじんのむすめ;続千) → 頼実女(よりざねのむすめ) I 4 7 6 8  
 大炊御門内大臣(おおいみかどのないだいじん;続拾遺/新後撰) → 冬忠(ふゆただ・大炊御門) E 3 8 3 0  
 大炊御門宮(おおいみかどのみや) → 惟明親王(これあきらしんのう、歌人) E 1 9 1 0

1452 **大磐**(おおいわ・紀き・生磐、小弓男)?-? 大和期武将、百濟王に敗北

燾(おおう・古賀) → 穀堂(こくどう・古賀こが、藩士/儒者/詩) C 1 9 3 9

大内介(おおうちのすけ) → 持世(もちよ・大内/多々良、武将/歌/連歌) B 4 4 7 9

1453 **大浦**(おおうら・間人宿禰はしひとのすくね)?-? 藤原京官人、万葉三期歌289/290:初月みかづき歌、  
 [天あまの原ふりさけ見れば白眞弓しらまゆみ張りて懸けたり夜路よみちは吉よけむ]

(万葉;289/初月みかづきの歌)

巻九の間人宿禰と同一か? → 間人宿禰(はしひとのすくね) 3 6 1 5

C1474 **大枝**(おおえ・楠瀬くすのせ、清蔭長男/本姓橘) 1776-1835 60 土佐藩士/用人/足軽/勘定役、国学・父門、  
 谷眞潮/本居大平門、小枝さえの兄、歌人/画;桜花画を能くす、  
 「絵事空言」「本かきは」著、1814「土佐国職人歌合」編、  
 [大枝の通称/号]通称;雄太郎/忠八/六太、号;棠園/棠翁/六大山人

- E1410 **大枝**(おおえ・船曳ふなびき、宮崎信章のぶあき男) 1780-60<sup>81</sup> 筑後三潞郡の神職;大石神社祠官、宮崎信敦(三島社祠官)の弟、神道・国学;兄信敦・伯父宮崎信生のぶなり門/歌;香川景樹門、妻;礼幾子れきこ(1801-78)、大滋おおしげ(1819-47)・鉄門かなと(磐主いわぬし/1824or28-95)の父、[大枝(;名)の通称]伊勢守
- B1470 **大枝**(おおえ・業合なりあい、新庸男) 1792-1851<sup>60</sup> 備前邑久郡今城村上寺山の神職;上寺八幡宮社司、国学;1809藤井高尚たかなお門/のち平田篤胤門/宣長没後門、1814神職組頭;父の跡継承、1819「新学異見弁」(;景樹「新学異見」に反駁);(1828山平伴鹿ともかの同名の書がある)、「古事記新釈」「業合大枝家集」著、「類題吉備国集」入、大西有定の師、[大枝(;名)の別名/通称/号]別名;庸徳、通称;右仲、号;槇の舎/松蔭屋/松濤館
- E1400 **大枝**(おおえ・千磐ちむや、通称;京之進) 1839-1905<sup>67</sup> 筑後久留米藩士、歌人、国学・歌;船曳磐主いわぬし(鉄門)・海上胤平・矢野一貞・中村水城門  
 大江漁人(おおえぎよじん) → 庭鐘(ていしょう・都賀つが、医者/唐話/読本) B 3 0 2 0  
 大江隣(おおえのとなり) → 大江丸(おおえまる・大伴/安井、俳人) 1 4 0 3  
 大江波音(おおえのなみおと) → 朝霞亭波音(ちょうかていなみおと、商家/狂歌) H 2 8 7 0  
 大江兵部(おおえひょうぶ) → 忠明(ただあき・大江おおえ、兵法家) P 2 6 0 7
- 1403 **大江丸**(おおえまる・大伴おおとも、本姓;安井、名;政胤) 1722-1805<sup>84歳</sup> 大阪の飛脚問屋;1749家督嗣、7箇所支店、俳諧;旧室門(;芥室号)/狂歌;雪縁斎一好門、俳諧;1756良能門/談林系点取俳諧、1766松島行脚;蓼太の句に推服、蕪村・几董らと交流;蕉風復興運動に参加、俳諧は余技で俳諧自由人;軽妙洒脱・口語調、1790家督を譲り文墨の余生、句集;1790「俳懺悔」1801「はいかい袋」編、「松苗集」著、紀行;1797「秋存分」1800「あがたの三月四月」、自伝「きのふの吾」著、1773「明鳥」入、[地にあらば連木すり鉢猫の恋](俳懺悔/王宮の比翼連理の契りに対照)[秋来ぬと目にさや豆のふとりかな](はいかい袋)、[大江丸(;号)の通称/別号]通称;大和屋善右衛門/嶋屋佐右衛門、別号;芥室/旧国(旧州)ふるくに/大江隣おおえのとなり/顧風亭/回心斎、宗二(;隠居後)、大伴大江丸おおとものおおえまる(;晩年号)、法号;回誉旧国居士  
 塵(おほか/おおか・中山) → 城山(じょうざん・中山/藤原、儒者/詩) S 2 2 6 0
- E1402 **大蔭**(おおかげ・中村なかむら、) 1794-1862<sup>69</sup> 肥前島原守山村の大庄屋、国学・歌;中島広足門、[大蔭(;名)の初名/通称/号]初名;義隆、通称;管翁/退輔たいすけ、号;藤翁/藤園
- C1475 **正蔭**(おおかげ/まさかげ・中臣なかとみ、割烹業中臣屋六郎兵衛男) 1804-63<sup>60</sup> 出雲大社皇學館預、和漢学/書画/音楽/医学/武術/歌/狂歌など36芸に通ず、国学;千家俊信・尊孫・岡熊臣門、歌;香川景樹門、「正蔭まさかげ記」「韻学通覧」「晩学集」「髻華舎百首」「髻舎見聞記」著、「須磨明石月見の記」「扶桑紀行」外著多数、[正蔭(;名)の別名/字/通称/号]別名;春定、字;蘭阿、通称;典膳、号;正古/秀居/扶桑園/半漁者六村/残月庵樹安磨/茶枕寝太郎/古史拔足/河面厚輔/素州/玄鳳/桂隣堂/髻華けいか舎/臥竜園/臥虎園/青蛇蟠雲/閑居張万子、屋号;中臣[富]屋  
 大蔭(おおかげ・深沢) → 秀景(ひでかげ・深沢ふかざわ、国学/狂歌) K 3 7 8 0
- C1419 **大形**(おおかた・難波なにわ[連むらじ;姓])?-? 大和期廷臣;草香部吉士くさかべのきし(難波吉士の1)、681小錦下しょうきんげ(姓;難波連)/681(天武10年)「帝紀及上古諸事の記定」に参加、参考 → 帝紀及上古諸事の記定者(ていきおよびじょうこしよのきていしや)  
 大方(おおかた・服部) → 大方(ひろかた・服部はっとり、伊賀衆/歌人) K 3 7 6 4  
 大方有益(おおかたのゆうえき) → 立栄(2せりゆうえい・野村のむら/野、医者) C 4 9 8 7  
 大川(おおかわ・児島) → 利涉(としただ・児島こじま、国学者) V 3 1 1 7
- C1476 **大川某**(おおかわぼう・名不詳)?-? 江中期下総の歌人、家集「三集体題詠」著;1772吉益東洞の70賀壽歌あり
- C1477 **巨城**(おおき・源、宗城むねき[後撰集清輔流伝本])?-? 平安期廷臣、歌人、宗城なら敦固あつもと親王男で従四位下・侍従/933殺害される(勅撰作者部類説)、歌人:源宗于女むねゆきのむすめと贈答(大和物語;巨城)、後撰804[平中興女なかきのむすめと贈答]、拾遺800(書陵部本・拾遺抄流布本に源巨城作/貞和本は藤原兼輔作)、後撰509にかつて交渉のあった駿河からの贈歌がある、

[忘らるゝ身を空蟬の唐衣返すはつらき心なりけり](後撰集;十二804/803への返歌)

参考 → 中興女(なかきのむすめ・平) D 3 2 5 2  
→ 閑院大君(かんいんのおおきみ、源宗子女) D 1 5 4 1

大木戸黒牛(おおきどのくろし、狂歌芝連) → 若狭掾(わかさのじょう・初世鶴賀、新内節創始) 5 3 0 4

正親町(おおきまち) → 公守(きんもり・洞院、歌人) E 1 6 7 9

正親町院右京大夫(おおきまちいんのうきょうのだいふ) → 右京大夫(うきょうのだいふ、歌人) 1 2 1 6

B1438 正親町院左京大夫(おおきまちいんのさきょうのだいふ) ?-? 鎌倉中期;女房歌人、1243「河合社歌合」右方参加、土御門天皇皇女正親町院覚子[1214-85;43院号]の女房、  
[袖さえてねなくに明けぬ冬の夜をいかにさびしく月もすむらん](河合社歌合;四番右7)

B1439 正親町大納言(おおきまちだいごん) ?-? 歌人、17c末刊「柳葉和歌集」入  
親子2人考えれるが子の公通でろう

親 正親町実豊 → 実豊(さねとよ・正親町/1656権大納言、連歌) L 2 0 0 8

子 正親町公通 → 白玉(はくぎょく・風水軒、1695権大納言/歌人) 3 6 0 8

1431 正親町天皇(おおきまちてんおう、後奈良天皇皇子) 1517-93 77 1560-86在位、母;賢房女吉徳門院藤栄子、戦国期に皇室伝統の維持に尽力、歌人;歌合/歌会催、  
「正親町院御百首」「六百首和歌並百五十首和歌」著

正親町的一位(おおきまちのいちい:家孝「落栗物語」入) → 白玉(はくぎょく、正親町公通) 3 6 0 8

正親町宮(おおきまちのみや) → 義仁法親王(ぎにん/よしひとほつしんのう、箏/歌) B 1 6 6 2

大君(おおきみ) → 八条大君(はちじょうのおおきみ、歌人) E 3 6 9 0

大潔(おおきよ・宇都宮) → 大潔(ひろきよ・宇都宮うつのみや、国学/歌) F 3 7 7 7

大草の宮(おおくさのみや) → 宗良親王(むねながしんのう) 4 2 0 8

E1416 大洲(おおくに・水間みずま、通称;亀麿/彦右衛門) 1782-1843 62 飛騨高山の国学者;田中大秀門

1454 大国主神(おおくにぬしのかみ・大穴牟遲おおなむち神) ?-? 素戔嗚男or子孫、記紀歌謡詠2首

B1471 於保久旅人(おおくのたびと、姓;多田、通称;秩父屋幾八) ?-? 旅館業、狂歌四方連、徳和歌後万載集3首、  
[越路にはいつきさらぎとまつ文の返事を今ぞもてかへる雁](後万載;春79/越路と雁)

1402 大伯皇女(大来皇女おおくのひめみこ、天武天皇皇女) 661-701 41歳 母;大田皇女、大津皇子の同母の姉、661齐明天皇の筑紫進軍中に備前大伯の海で誕生;その名が付く、667母と死別、673斎宮/674伊勢に赴く、686(朱鳥あかみどり元)天武天皇没;大津皇子の処刑/帰京、万葉二期歌6首:105-6/163-6;弟大津への別離と挽歌、  
[わが背子を大和へ遣るとさ夜深けてあかとき露にわが立ち濡れし]、  
(万葉;二105/弟との別れの詠)

1455 大久米命(おおくめのみこと) ?-? 記紀歌謡詠、久米祖、神武と問答歌

C1478 大蔵(おおくら・吉田よしだ、左近右衛門茂方男) 1588-1644 57 日置[吉田]流大蔵派弓術の祖、近江の人/富田信高の家臣/金沢藩主前田利常の家臣;射手衆、大坂の陣に戦功、  
「吉田大蔵流弓目録覚書」「吉田大蔵書状之写」著、  
[大蔵(;通称)の名/別称/号]名;茂氏/重氏げうじ、別称;小左近/大内蔵、号;木反

C1479 大蔵(おおくら;通称・伊達だて、名;基永/村直、別通称;若狭、伊達綱宗男) 1666-1709 44 江戸の生、1670伊達宗倫の養嗣;陸前登米領主/97采地加増;2万石、1679「先祖書出」

大蔵(おおくら・前田) → 利明(としあき・前田まへだ、藩主) L 3 1 9 0

大蔵(おおくら・長束) → 正家(まさいえ・長束なつか、武将) B 4 0 3 0

大蔵(おおくら・岡部) → 春平(はるひら・岡部/松田、国学/歌) G 3 6 7 6

大蔵(おおくら→だいぞう・坂根/桃) → 白鹿(はくろく・桃もも/とう・桃井もものい、儒者) E 3 6 1 9

大蔵(おおくら・飯田) → 秀雄(ひでお・飯田いいだ、神職/歌人) C 3 7 8 3

大蔵(おおくら・飯田) → 秀臣(ひでおみ・飯田、秀雄男/神職) C 3 7 8 8

大蔵(おおくら・飯田) → 正房(まさふさ・飯田いいだ/源、神職/国学) L 4 0 7 9

大蔵(おおくら・上部) → 貞多(さだかず・上部うわべ/度会、神職) H 2 0 9 1

大蔵(おおくら・井岡) → 桜仙(おうせん・井岡いのおか、本草学者) C 1 4 5 7

大蔵(おおくら・多湖) → 貫斎(かんさい・多湖たこ、儒者) Q 1 5 6 3

大蔵(おおくら・秋山) → 惟恭(これいや・秋山あきやま、神職/詩歌) P 1 9 4 2

大蔵(おおくら・津軽) → 為貞(ためさだ・津軽つがる、能書家/詩人) Y 2 6 2 6

- 大蔵(おおくら・杉浦) → 朋理(ともあきら・杉浦すざうら、国学者) P 3 1 1 4  
 大蔵(おおくら・鈴木/伊東) → 武明(たけあき・伊東・鈴木、国学/剣術) O 2 6 2 2  
 大蔵(おおくら・青柳) → 種信(たねのぶ・青柳、藩士/国学者) R 2 6 9 3  
 大蔵(おおくら・橋村) → 正衛(まさえ・橋村/度会、神職/書) B 4 0 3 5  
 大蔵(おおくら・蒲) → 清兼(きよかね・蒲がま、神職/歌人) T 1 6 9 3  
 大蔵(おおくら・伊藤) → 道信(みちのぶ・伊藤いとう、神職/国学) L 4 1 1 7  
 大蔵(おおくら・上原) → 和世(まさよ・上原うえはら、神職/歌人) N 4 0 9 2  
 大蔵(おおくら・大給) → 近陳(ちかのぶ・大給だいぎゅう/松平、藩主) M 2 8 1 8  
 大蔵(おおくら・丸山) → 惟義(これよし・丸山まるやま、藩士/儒者/歌) R 1 9 3 6  
 大蔵(おおくら・唐木) → 春雄(はるお・唐木からき、商家/国学/歌) J 3 6 9 7  
 大蔵(おおくら・甲斐) → 重逵(しげみち・甲斐かい、国学/歌/尊攘) N 2 1 9 0  
 大蔵(おおくら・山川) → 浩(ひろし・山川やまかわ、藩士/軍人/官僚) J 3 7 6 7  
 大蔵(おおくら・本多) → 敬義(たかよし・本多/菅沼、家老/国学) Z 2 6 4 4  
 大内蔵(おおくら・生駒) → 親孝(ちかたか・生駒いこま/丹羽、旗本) L 2 8 4 6  
 大内蔵(大庫おおくら・文室) → 康貞(やすさだ・文室ぶんや、神職/国学) G 4 5 5 5  
 D1448 **大蔵卿**(おおくらのきょう・遊義門院ゆうぎもんいん、春宮大蔵卿)?-? 鎌倉期女房歌人、  
 東宮時代の伏見天皇出仕、のち遊義門院始子内親王家女房、  
 勅撰4首;続拾遺(798)新後撰(380/933/1070)、  
 [もらすなよ人めせかるる思ひ川つらさにまさる涙なりとも](続拾;恋798)  
 大蔵卿(おおくらのきょう) → 嘉喜門院大蔵卿(かきもんいんのおおくらきょう) J 1 5 3 2  
 大蔵卿(おおくらのきょう) → 英信(てるのぶ・狩野かのう、幕府絵師) C 3 0 8 3  
 大蔵卿(おおくらのきょう) → 範成(のりしげ・今小路いまこうじ/杉谷、坊官) H 3 5 4 2  
 大蔵卿(おおくらのきょう) → 経雄(つねかつ・鳥居小路とりこうじ、坊官/歌) G 2 9 0 4  
 大蔵卿法印(おおくらのきょうのほういん) → 隆遍(りゅうへん;法諱、真言大僧都) F 4 9 5 3  
 大蔵正(おおくらのしょう・菊池) → 守満(もりみつ・菊池さくち、神職/国学/歌) J 4 4 8 7  
 大蔵少輔(おおくらのしょう・松平) → 信亨(のぶつら・松平、藩主/歌・俳) C 3 5 2 1  
 大蔵少輔(おおくらのしょう・中川) → 長雄(ながお・中川ながかわ/藤原、廷臣/歌) O 3 2 0 3  
 大蔵千文(おおくらのせんもん;狂名) → 浚明(まつあけ・山岡/大伴、幕臣/国学) J 4 0 6 6  
 大蔵大輔(おおくらのたいふ) → 好寛(よしひろ・芝崎しばさき、好高男/神職/国学) N 4 7 3 2  
 大蔵太夫(おおくらのたいふ) → 重広(しげひろ・伊高いだか、神職) N 2 1 2 6  
 B1440 **大極堂有長**(おおごくどうのありつたけ)?-? 1822洒落本「箱まくら」「色道禁秘抄」編/棕隠説あり  
 大御所(おおごしよ) → 家康(いえやす・徳川、将軍/武家法度) 1 1 0 4  
 D1494 **大士**(おおこと・高子たかこ、旧姓;土佐) 1816-68<sup>53</sup> 石見那賀郡今市村八幡宮神主、国学者;天津孟雄門、  
 齋木巖(石見邑智郡の神職)の師、  
 [大士(;名)の別名/号]別名;常磐、号;松蔭舎主人/清風  
 大坂之舎(おおさかのや) → 長麿(ながまる・内田うちだ、国学/歌人) L 3 2 3 1  
 大坂俳壇三巨頭(おおさかはいだんのさんきょうとう);大阪談林派で活躍した3巨頭  
 → 西鶴(さいかく・井原、俳人/浮世草子) 1642-93 2 0 0 1  
 → 遠舟(えんしゅう・和氣、俳人) 1653-1702? B 1 3 0 3  
 → 由平(ゆうへい・よしひら・前川、俳人) ?-1707? D 4 6 6 8  
 大鷲(おおさぎ) → 仁右衛門(にえもん・鷲さぎ、狂言師) 3 3 1 0  
 大雀命(おおさざきのみこと) → 仁徳天皇(にんとくてんのう) 3 3 0 8  
 B1441 **大薩摩主膳太夫**(おおさつましぜんだゆう・初世) 1695-1759<sup>65歳</sup> 浄瑠璃太夫・大薩摩節を創始、  
 外記直政のワキ語り、2世団十郎の浄瑠璃語り、代表曲「矢の根」「鳴神」  
 B1442 **大薩摩次郎右衛門**(おおさつまたじろうえもん)?-? 浄瑠璃語り、1661江戸築後掾受、「東鑑平鬼王丸」著  
 B1486 **益**(おおい・沢さわ、通称;監物) 1748<sup>or54</sup>-1805<sup>58or52</sup> 陪臣;九我こが・正親町おおざまち家に出仕、  
 京の歌人;上田秋成・小沢蘆庵門、秋成[藤篋冊子つづらぶみ]入、  
 [ませの内に朱あけなる玉や敷たると見えて花咲く深み草かな]、  
 (藤篋冊子/牡丹;朱砂紅しゅさのくれない/ませ;垣根/深み草;牡丹)  
 D1482 **大茂**(おおいげ・小林こばやし/本姓;三宅、山杉) 1796-1870<sup>75</sup> 因幡鳥取藩士;徒士/馬廻/蠅座取締、

のち大阪住、儒・国学・医・天文に通ず、歌人；衣川長秋・飯田秀雄・本居大平門、  
安政の大獄の際に歌の交流の桜任蔵じんぞうを匿う、のち大阪住、  
1857-8大沢深臣「巨勢総社千首」入、茂雄の父  
[なかれ江のここはみしまの影もなし竹の葉わりや雨になりゆく]、  
(沖探容画の因幡八景；三嶋夜雨)、  
[大茂(；名)の字/通称/号]字；子承、通称；鶴三郎、号；松屋まつや

- E1411 **大滋**(おおしげ・船曳ふなぶき、大枝おおえ長男) 1819-47早世<sup>29</sup> 筑後三潯郡大石の国学者、  
神道・国学；伯父宮崎信敦門、儒・漢学；岡永鼎門、歌学；中島広足門、国学；橋守部門、  
歌文・画に長ず、1847(弘化4)病没；早世、船曳磐主いわぬし(鉄門/1824or28-95)の兄、  
「大滋詠草」「大滋歌集」著、  
[大慈(；名)の別名/通称/号]別名；大茂/於保志適宜おおじげ、通称；斎宮/斎院、  
号；花亭/花野舎

重房(おおしげ・宮地) → 常盤(ときわ・宮地みやじ/菅原、神道家) K 3 1 3 7

- B1402 **大島**(おおしま・中臣朝臣なかとみのあそみ・藤原[葛原]朝臣、許米こめ男)?-693 廷臣/682小錦下(姓；連)、  
681(天武10年)「帝紀及上古諸事の記定」に参加、683判官；諸国限分担当/684朝臣賜姓、  
686(朱鳥元)天武殯宮に兵政官の事を誄しのびと/690-1持統即位大嘗に神祇伯；天神寿詞奉読、  
693頃大納言、詩人；懐風藻12-13、馬養の父、許米の従兄弟に鎌足がいる、  
参考 → 帝紀及上古諸事の記定者(ていきおよびじょうこしよじのきていしや)

- C1480 **大島**(大嶋おおしま・高安たかやす)?-? 万葉二期歌人/万-67；持統太上天皇難波行幸従駕歌  
[旅にして物恋ほしきに鶴たうが声ねも聞えざりせば恋ひて死なまし]  
(万葉；一67/第2・3句は脱字あり；全註釈の訓に随う)

- 1456 **大島**(おおしま・他田舎人おさだのとねり)?-? 755防人、信濃国造丁小県郡ちいさがたのこおり、万葉廿4401  
[韓衣からこむ裾に取りつき泣く子らを置きてそ来ぬや母おもなしにして](万葉；4401)

大輔(おおすけ・源) → 大輔(たいふ/おおすけ・源弼たすくの女、歌人) C 2 6 1 0

大洲上人(おおしゅうにん) → 雲室(うんしつ；号、真宗僧/絵師) B 1 2 1 6

- B1403 **大隅**(おおすみ・守部連もりべのむらじ・旧姓；鍛冶かねち造)?-? 73歳 廷臣、700律令撰定参画(不比等らと)、  
720刑部少輔/明経博士/大学博士/728改姓、正五下、詩；懐風藻78

大隅(おおすみ・福嶋) → 紀隆(のりたか・福嶋ふくしま、神職) E 3 5 8 3

大隅(おおすみ・真山/氏家) → 過拈堂(かかどう・氏家うじえ、藩士/儒者) B 1 5 1 9

大隅(おおすみ・山本) → 金木(かねき・山本やまもと、神職/雲見講) O 1 5 4 2

大隅(おおすみ・田中) → 宣元(のぶもと・田中たなか、神職/国学者) I 3 5 8 7

大隅(おおすみ・木俣) → 守将(もりまさ・木俣きまた/橋、藩老/歌人) J 4 4 7 6

大隅(おおすみ・山内) → 豊道(とよみち・山内、藩士/学制改革) R 3 1 6 5

大隅(おおすみ・岡) → 平保(ひらやす・岡おか、神職/国学) F 3 7 4 2

大隅(おおすみ・木俣) → 守易(もりやす・木俣きまた/橋、藩老/楽焼) J 4 4 7 9

大隅(おおすみ・岸本) → 由豆流(ゆずる・岸本/平/朝田、国学者) 4 6 1 3

大隅(おおすみ・千々和) → 重福(しげよし・千々和ちぢわ、神職/国学) Z 2 1 4 2

大隅(おおすみ・松木) → 武彦(たけひこ・松木まつき、神職) Z 2 6 5 5

大隅(おおすみ・平内) → 廷臣(まさおみ・平内へいのうち/福田、幕臣；工匠) B 4 0 6 1

大隅(おおすみ・菊池) → 沖満(おきみつ・菊池きくち、神職/国学) D 1 4 9 2

大隈入道(おおすみにゅうどう) → 乗友(のりとも・大給だいぎゅう/松平、藩主) H 3 5 5 6

大隅守(おおすみのかみ・溝口/亀田) → 高綱(たかつな・亀田、武将/戦記) M 2 6 2 7

大隅守(おおすみのかみ) → 竜翁(りゅうおう・近藤こんどう、神職) D 4 9 0 8

大隅守(おおすみのかみ・成島) → 柳北(りゅうほく・成島なるしま、幕臣/儒者) F 4 9 6 7

大隈守(おおすみのかみ・田中) → 定格(さだただ・田中たなか、幕臣/国学者) O 2 0 7 9

大隅守(おおすみのかみ・津軽) → 順承(ゆきつぐ・津軽つがる、藩主/歌・俳人) G 4 6 7 1

大隅守(おおすみのかみ・大給) → 乗友(のりとも・大給だいぎゅう/松平、藩主) H 3 5 5 6

大隅守(おおすみのかみ・須田) → 盛輔(もりすけ・須田すだ、幕臣/国学) K 4 4 1 2

大隈守(おおすみのかみ・生山) → 正方(まさかた・生山いくやま/藤原、神職/国学) N 4 0 5 1

大隈守(おおすみのかみ・芝) → 葛鎮(ふじつね・芝しば/芝崎、雅楽/洋楽) I 3 8 3 4

- 大隅介(おおすみのすけ・太田)→ 包宗(かむね・太田おた/甲斐、神職/国学) T 1 5 9 8
- D1452 **大空豊旗**(おおそらのとよはた) ?- ? 江戸狂歌;1787「才蔵集」入:  
[草の餅たつ(切る)を見捨ててゆく雁は雛なき里に住みやならへる]  
(古今/伊勢:春霞立つを見捨ててゆく雁は花なき里に住みやならへる)
- B1472 **於保曾礼長良**(おおそれながら、大曾礼長柄)?-? 狂歌四方連、1785「後万載集」1首入:40  
[七草ななくさをはやす庖丁かな火箸にほん(二本/日本)の鳥のわたるまな板](後万載:40)  
大滝(おおたき・宍戸) → 大成(おおなり・宍戸/柿島、藩士/国学) C 1 4 8 1  
大滝庵(おおたきあん/だいろあん) → 簾水(れんすい・武田たけだ、俳人) B 5 1 2 1
- E1403 **大館**(おおだち・中村なかむら、旧姓;長谷川)1821-1889<sup>69</sup> 遠江磐田郡の生、歌;石川依平よりひら門、  
国学;平田鍊胤門、遠江敷智郡宇布見村天神宮祠官、  
1868戊辰戦争時;報国隊の結成に参加し軍資金を調達、  
維新後;静岡県引佐いなさ郡六所神社祠官/浜松神道事務局副長、  
[大館(;名)の初名/通称]初名;貞則、通称;一介/源左衛門  
大谷上人(おおたにしょうにん)→ 源空(げんくう;法諱・法然、浄土宗開祖) 1 8 1 1  
大谷阿闍梨(おおたにのあじり)→ 覚俊(かくしゅん;法諱、真言僧) K 1 5 0 0  
大谷座主座主(おおたにのざす)→ 忠尋(ちゅうじん;法諱、天台僧/恵心流碩学) G 2 8 4 7
- E1407 **大種**(おおたね・樋口ひぐち、種実たねみ[1794-1864]男)?-1854 日向延岡の商家/国学者;父門、  
のち本居内遠門、  
[大種(;名)の初名/通称]初名;佳文、通称;英吉郎/英吉  
大田舎一圃吐(おおたのやいちほど)→ 晋交(しんこう・芝しば、洒落本作者) E 2 2 0 8
- C1420 **大東冬名**(おおたばのふゆな、酒井氏)?-? 狂歌スキヤ連、京橋住
- B1473 **大田麿**(おおたまろ・和邇部わにべ)?- ? 雅楽:承和834-48期;青海波を盤渉調に移す  
大足彦忍代別天皇(おおたらしひにおしろわけのすめらみこと)→ 景行天皇(けいこうてんのう、紀歌謡詠) 1 8 5 5
- D1471 **大綱**(おおつな・朽木くつき/本姓;源、通称;大八/縫殿助、綱泰男)?-? 江後期;幕臣、歌人、  
1857菩提寺の焼失した近江高島興聖寺に再建寄進、弟の之綱これつな(1830-1900)を養嗣、  
1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、  
[荒れにける志賀の都を来て見れば涙にかすむ春の夜の月]、  
(大江戸倭歌;春185/故郷春月)
- 1404 **大津皇子**(おおつのみこ、天武天皇皇子)663-686**刑死**<sup>24</sup> 母;大田皇女/667母と死別/684朝政を聞く、  
686浄大弍位、686父の死後;新羅僧行心らに教唆され謀反/詛語田おさだで処刑、  
大伯皇女おおくのひめみこの同母弟、万葉二期歌人4首;107/109/416/1512、詩;懐風藻4首・伝  
[百も伝ふ磐余いはれの池に鳴く鴨を今日のみ見てや雲隠りなむ](万葉三;416)
- 1457 **おほつぶね**(おおつぶね、在原棟梁むねやな女)?-? 平安期歌人、陽成院に出仕の女房(大和物語入)、  
平定文・元良親王・貞元親王と交渉、藤原敦忠の母(藤原時平の室)の妹、  
業平の孫で姉妹とも色好み、後撰3首;634/659/696、  
[ちはやぶる神も耳こそ慣れぬらしさまぎま祈る年も経ぬれば](後撰;恋659/定文へ返歌)  
(平定文の贈歌;何事を今は頼まむちはやぶる神も助けぬ我が身なりけり)、  
[おほつぶね(女房名)の別称]おほつ舟/おほつの少将  
大戸(おおと→おおへ・田口)→ 大戸(おおへ・田口朝臣たのくちのあそみ、防人/万葉歌人) C 1 4 8 3
- 1458 **大歳**(おおとし・丸子連まるこのむらじ)?- ? 755防人/上総朝夷郡あさひなのこおり上丁、万葉廿4353  
[家風は日に日に吹けど吾妹子が家言いへごと持ちて来る人もなし]、  
(万葉;廿4353/家の方から毎日風が吹くが妻の伝言を持ち来る人はいない)
- E1401 **大年**(おおとし・名和なわ、通称;豊浦筑前介)?-? 大坂の国学者/伯家神道;白河伯家入門、  
皇学研究/1869(明治2)日向高鍋藩に招聘;明倫堂教授、藩内の神仏分離/神道・祭典を正す、  
藩内の廃仏毀釈を推進、1871致仕、南朝の名和長年の末裔という  
大年(おおとし・三浦) → 葛山(かつざん・三浦みくら、藩士/儒者) N 1 5 3 5  
大舎人(おおとねり・菅原) → 小楯(おたて・菅原すがわら/平谷/上甲、神職) D 1 4 9 6  
大伴(おおとも;名) → 淳和天皇(じゅんなてんのう、詩人) K 2 1 3 6  
大伴氏姫(おおともうじのひめ) → 姫大伴氏(ひめおおともし、漢詩人) E 3 7 4 1
- 1459 **大伴女郎**(おおともものいらつめ、今城王いまきのおおきみの母)?-? 万葉三期歌人;万葉四;519、

[雨障あまつみ常する君はひさかたの昨夜きぞのよの雨に懲りにけむかも]、

(万葉;519/雨障は雨ごもり/君は昨夜どこでと嫌み)

大伴坂上郎女と同一説有力→ 坂上郎女(さかのうえのいらつめ・大伴) 2 0 0 9

- 1405 大伴郎女(おおとものいらつめ、旅人の妻、大伴安麿女)?-728 万葉集八1472左注;大宰府で病没、  
挽歌;旅人の歌438/憶良の日本挽歌794-799

大伴郎女(おおとものいらつめ) → 坂上郎女(さかのうえのいらつめ・大伴) 2 0 0 9

大伴郎女(おおとものいらつめ) → 家持妹(やかもちのいろと・大伴宿禰) 4 5 4 1

大伴大江丸(おおとものおえまる) → 大江丸(おえまる・安井、飛脚問屋/俳人) 1 4 0 3

- B1404 大伴王(おおとものおおきみ) ? - ? 伝不詳/714従五下、詩人、懐風藻47・48応詔詩  
[山幽かそけくして仁趣遠く川浄くして智懐深し

神仙の迹あとを訪はまく欲り追従す吉野の濤きし](懐48)

大伴坂上郎女(おおとものさかのうえのいらつめ) → 坂上郎女(さかのうえのいらつめ、穂積皇子・宿奈麻呂妻) 2 0 0 9

大伴坂上大嬢(おおとものさかのうえのおいらつめ) → 坂上大嬢(さかのうえのおいらつめ・大伴、家持妻) 2 0 1 0

大伴坂上二嬢(おおとものさかのうえのおいらつめ) → 坂上二嬢(さかのうえのおいらつめ・大伴) B 2 0 2 8

大伴宿禰(おおとものすくね) → 浚明(まつあけ・山岡/大伴、幕臣/国学) J 4 0 6 6

大伴宿禰家持妹(おおとものすくねやかもちのいろと) → 家持妹(やかもちのいろと・大伴宿禰) 4 5 4 1

- 1460 大伴卿(おおとものまえつきみ) ? - ? 検税使、万葉二～四期歌人?、  
万葉集卷九1753-54;筑波山登山の長歌、

[今日の日にかいかにか及しかむ筑波嶺つくばねに昔の人の来きけむその日も](万;反歌1754)

[諸説] → 旅人(たびと) 2 6 4 7

→ 御幸(みゆき) G 4 1 0 3

→ 安麻呂(やすまろ) 4 5 1 0

→ 道足(みちたり) 4 1 0 7

- 1461 大伴大夫(おおとものまえつきみ・豊後守)?-? 730年大伴旅人梅花宴参加;万葉三期歌819、  
三依説?[万葉代匠記]

[世の中は恋繁しゑや斯くしあらば梅の花にも成らましものを](万;五819)

→ 三依(みより・大伴宿禰) 4 1 4 4

大伴卿の僭従(おおとものまえつきみのけんじゅう) → 旅人の僭従(たびとのつかひびと、歌人) 2 6 4 8

- C1409 大友円居(おおとものまどい) ? - ? 江戸狂歌;1787「才蔵集」入、

[たねのなき放下つかふてゆく年もひとよあくれば品玉のはる](才蔵集;一春9、  
一夜明け正月は借金取もないまさに曲芸の手品だ/放下;こきりこを使う曲芸、  
一夜とこきりこの一節を掛る)

- B1405 大友皇子(おおとものみこ、伊賀皇子、天智天皇皇子) 648-672自害25歳 母;伊賀采女宅子娘、  
671太政大臣/皇太子/672壬申乱で敗れ自害、妃;十市皇女、懐風藻1/2・伝、  
追諡;弘文天皇(;明治期に追諡)

大伴部小歳(おおとものべのおとし) → 小歳(おとし・大伴部、万葉防人) 1 4 8 8

大伴部眞足女(おおとものべのまたりめ) → 眞足女(またりめ・大伴部、万葉歌人) J 4 0 5 9

大鳥舎(おおとりや) → 鶴城(かくじょう・佐藤、医者/国学) K 1 5 0 6

大名児(おおなご) → 石川女郎C:(いしかわのいらつめ、万葉歌人) D 1 1 4 0

- 1429 大成(おおなり・葛井連ふじのむらじ、旧姓;白猪史しらいのふびと)?-? 百濟系渡来人の子孫/廷臣;728従五下、  
730旅人の梅花宴参;筑後守、万葉三期歌人、万葉576・820・1003/1779の藤井連も同一か?、  
[今よりは城きの山道は不楽さぶしけむわが通はむと思ひしものを]、  
(万葉;四576/大伴旅人の上京後の詠)

- C1481 大成(おおなり・宍戸しど/本姓;藤原、名;長緒、柿島半左衛門男) 1787-185670 宍戸将監の養嗣子;  
伊予宇和島藩士、1806養家の家督嗣、1845金奉行/51致仕、国学;本居大平門、歌を嗜む、  
「伊予旧蹟考」著、大平撰「八十浦の玉」下巻入、

[わが宿のふふめる梅に降る雪を散りすぎゆくと人見らむかも](八十浦;696)

[大成(;)号)の通称/別号]通称;辰之助/平内、別号;大滝

大南北(おおなんぼく) → 南北(なんぼく・四世鶴屋、歌舞伎作者) 3 2 3 5

大二条関白(おおにじょうかんぱく) → 教通(のりみち・藤原、廷臣/歌人) F 3 5 8 3

- B1406 **大薙娘**(おおぬのいらつめ・石川夫人いしかわのぶにん、蘇我赤兄女)?-724 天武天皇妃、穗積皇子/紀皇女の母、天智崩御の挽歌の万葉154の歌[石川夫人]と同一?  
 → 石川夫人(いしかわのぶにん) 1 1 8 9  
 大根土成(おおねのつちなり、狂歌)→ 土成(つちなり・大根、福智白瑛、絵師) 2 9 9 3  
 大根太木(おおねのふとき、狂歌)→ 太木(ふとき・大根、松本半右衛門) D 3 8 5 3  
 大野の弁吉(おおののべんきち)→ 弁吉(べんきち・中村屋、仕掛細工) B 2 7 1 7  
 大野屋惣八(おおのやそうはち)→ 惣八(そうはち・大野屋、洒落本) C 2 5 7 4
- 1430 **大葉子**(おおばこ・調吉士伊企難つきのきいきな妻)?-? 紀歌謡詠者、562年新羅で戦死の夫への挽歌
- C1482 **大橋**(おおはし、名;律、号;喬木尼)?-? 江中期延享1744-48頃;京の島原の遊女(遊女名;大橋)、もと武家の出/歌;冷泉家に入門、書画を嗜む;教養豊で評判、のち栗原一素と結婚、晩年;白隠慧鶴に参禅;出家し慧林と称す、1748「広沢記」著  
 大泊瀬皇子(おおはつせのみこ)→ 雄略天皇(ゆうりやくてんのう) 4 6 1 5
- D1491 **大江**(おおはま・神戸かんべ)1826- 188156 肥前平戸藩士;江戸藩邸勤務/国学・歌;橘冬照門、維新後;藩校維新館神学寮の教師/廢藩後;壱岐住吉神社の禰宜、晩年;江戸住、浅山純尹すみただと平戸神楽歌を作る、  
 [大江(;名)の初名/通称/号]初名;勝与、通称;総左衛門、号;松根  
 大場山城(おおばやましろ)→ 雄淵(ゆうえん・大場おおば、神職/俳人) 4 6 8 0
- 1462 **大原**(おおはら・名不詳/姓;史ふひと・史部ふひとべ)?-? 万葉三期歌人、旅人の梅花宴参;万826(;大典)、  
 [うち靡なびく春の柳とわが宿の梅の花とをいかに分かむ](万葉;五826)
- B1474 **大原久知為**[位](おおはらくちい)?- ? 狂歌作者;本町連、1785徳和歌後万載集3首入、  
 [辻番の梅のつばみもつく棒はまづみんなみへさすまたの枝](後万載;54)、  
 (辻番にはつく棒・さす又常備/皆・南を掛る/南枝北枝ノ梅開落已ニ異リ;本朝文粹)
- B1475 **大原ざこね**(おおはらざこね、上州屋忠四郎)?-? 狂歌四方連、徳和歌後万載集1首:558、  
 [疑ひし胸のうちわのはれてより離れはせじと思ふ姫糊ひめり](後万載:558/寄団扇恋)  
**大原三寂**(おおはらさんじやく、常磐三寂、藤原為忠男:歌人3兄弟)  
 → 寂念(じやくねん、藤原為業)1113?-?1182後没 G 2 1 3 6  
 → 寂超(じやくちゆう、藤原為経)1113?-?1180存 G 2 1 3 4  
 → 寂然(じやくねん、藤原為忠)1120頃-?1182存 2 1 3 8  
 大原上人(おおはらしょうにん)→ 延殷(えんいん;法諱、真言僧) E 1 3 4 0  
 大原殿(おおはらどの)→ 少将井尼(しょうしょういのあま、歌人) T 2 2 4 1  
 大原大刀自(おおはらのおおとじ)→ 五百重娘(いおえのおとめ、万葉歌人) 1 1 0 5  
 大原少将(おおはらのしょうしょう)→ 時叙(ときぶ・源、右少将/出家) J 3 1 7 0  
 大原僧都(おおはらのそうず)→ 陽宴(ようえん;法諱、天台僧) 4 7 6 4  
 大原僧都(おおはらのそうず)→ 長宴(ちようえん;法諱、天台宗学僧) H 2 8 4 3  
 大原如蓮坊(おおはらのじょれんぼう)→ 禅寂(ぜんじやく;法諱、日野長親、天台僧) F 2 4 8 2  
 大原宮(おおはらのみや)→ 尊助法親王(そんじょほつしんのう、青蓮院門跡/歌) E 2 5 9 3  
 大盤山人偏直(おおばんさんじんへんちき)→ 偏直(へんちき、大盤山人、洒落本) B 2 7 3 5
- 1406 **大秀**(おおひで・田中たなか、博道3男)1777-184771 飛騨高山一之町の薬種商田中屋の生、田中家は冬頭村に広い田畑所有、学問;熱田神宮神官の栗田周門、国学・歌;伴蒿蹊門/1801本居宣長門、宣長遺著の謄写/研究、1803兄没;家督継嗣、本居大平/加藤千蔭/村田春海/山梨稻川らと親交、音楽;笙箏篳を嗜む、妻;内山滝子、1818(41歳)長男寿豊に家督譲渡し隠居、稻置の森の祠堂を延喜式の荏名な神社と比定;荏名な社を再興し社司:自ら荏野翁えなのおきなと称す、飛騨総社を再興、松室山を墓地とす、「竹取翁物語解」「落窪物語解」「蜻蛉日記紀行解」、「荏野えな集」「桂葉集」「荏野冊子」、「浅間嶽長歌取方温泉長歌」編/「桂園水草」「越路日記」「越路のつと」「紫野日記」外著多数、自撰歌集「荏野集」、「荏野冊子」、  
 [今日よりは我まつむろに蔭しめてちよのみどりを友とたのみむ](墓碑)、  
 [大秀(;名)の別名/字/通称/号]初名;紀文としぶみ、字;寿豊、通称;弥次郎/弥兵衛/兵助/平兵衛/平之丞、  
 号;荏野翁えなのおきな/千草園/湯津香木園ゆづかつらその(:屋号)/三酉/香木園かつらのその/、



桂園/月満/八月満/礪堂/賞月庵/月見の屋/、法号;松室了廓居士

☆大秀の主な門弟:橘曙覧・山崎弘泰・赤田臥牛・富田礼彦・布川正冲・稲田元浩・大森旭亭・吉村友閑斎・蒲八十村・今井信古など

大日奉舎人首名(おひまつりのとねりのおびとな)→首名(おびとな・大日奉舎人、漢学/詩人) D 1 4 3 2

E1412 **大姫**(おおひめ・前田まへだ、松平[徳川]頼房女/将軍家光の養女) 1627-5630 江戸の生:歌人、加賀金沢藩主前田光高の正室;綱紀の母、1645(正保2)夫が茶会席上急死、[大姫(名)の法号] 清泰院

1407 **大平**(おおひら・本居もとおり/稲掛いながけ、稲掛[懸]棟隆男) 1756-1833 78歳 伊勢松坂の国学者、歌、1768宣長門/99本居宣長の養子/1802本居家を嗣、和歌山藩士;小普請格/藩主に進講、「藤垣内大人ふじのかきつのおし家集」「万葉集地名類音」「稲葉集」「嶺松歌集」「望月集」「東遊考」、「万葉集合解」「万葉山常百首」「みよしの六百首」「本居鈴屋大人伝」「吉野の若葉」「夏衣」、「八十浦の玉」「本居大平詠歌」「国郡郷邑考」「古今集要解抄」「半夜百首」外著多数、[大平(名;)の幼名/別名/通称/号]幼名:常松、別名;茂穂/重穂、通称;十蔵/十太/十介/三四衛門、号;藤垣内ふじのかきつ、法号;和心院、諡号;国足八十言霊大人、

妻;須賀直見女の木綿、息子;建正たけまさ・清島きよしま・永平ながひら、息女;藤子ふじに[内遠の妻]大船真楫(おおふねのまかじ) → 罔雄(国雄くにお・林、国学者/狂歌) C 1 7 6 5

大ふね乗よし(おおふねのりよし) → 乗よし(のりよし、狂歌) G 3 5 2 9

C1483 **大戸**(おおへ・田口朝臣たのくちのあそみ) ?-? 755下野国防人部領使さきもりがことりづかい/正六上、万葉集;下野の防人歌18首を進歌

C1418 **大屁股臭**(おおべのまたくさ) ? - ? 狂歌作者;芝連、徳和歌後万載集1首入、[押柄おうへいに人の妻戸をあけがらすかゝあかゝと呼びわたるかな](後万載:796/夜明鳥)

大祝(おおはうり・三島) → 安屋(やすいえ・三島みしま/越智、神職) G 4 5 7 9

大祝(おおはうり・三島) → 玉昭(たまあき・三島みしま/越智、神職) Z 2 6 6 8

大祝(おおはうり・三島) → 玉温(たまはる・三島みしま/越智、神職/国学) Z 2 6 6 9

大町如道(おおまちにょうどう) → 如道(如導にょうどう;法諱・空如;号、真宗僧) G 3 3 0 7

1463 **大麻呂**(おおまろ・丈部直はせつかべのあたゐ) ?-? 755防人/下総印波郡いにはのこお、万葉廿4389、[潮船しほふねの舳越へそ白波にはしくも負おふせ賜ほか思はへなくに]、(万葉;廿4389/にはしく;にわかに/波のように急な命令を受けたなあ)

1464 **多麻呂**(おおまろ・丸子連まるこのむらじ) ?-? 755防人/相模鎌倉郡上丁、万葉廿4330、[難波津に装よそひ装ひて今日の日や出でて罷らむ見る母なしに](万葉;廿4330)

D1483 **大麿**(おおまろ・三輪みわ、通称;神五郎) 1832-? 江後期;美作勝田郡吉野郷小吉郡社大宮司、歌人;1853平賀元義の楯之舎塾入門、1857-8大沢深臣「巨勢総社千首」入

C1484 **大海**(おおみ・鬼沢おにさわ) 1791- 1873 83歳 常陸高浜の国学者;本居大平門/歌人、「歌学要」「花実要」、1820「常陸旧地考」著、歌;1856文雄「摘英集」入、大平撰「八十浦の玉」下巻;長歌入、1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、[わが恋はゆくへを浪にまかせつつ海鱸の寝流ながれはての知らなく]、(大江戸倭歌;恋1595)、

[大海の通称/別号]通称;丑之助/儀三郎/儀兵衛/左衛士/仁左衛門、別号;緑舎みどりのや

大海(おおみ・小浜) → 清渚(せいしよ・小浜おばま、藩儒/詩人) C 2 4 1 2

大御台(おおみだい) → 扨子(ただこ・近衛このえ/島津、広大院/家齊室) U 2 6 3 6

1465 **大道**(おおみち・志氏・志紀?/姓;連) ?-? 万葉三期歌837:730年旅人梅花宴/竿師さん=算を司る官、[春の野に鳴くや鶯懐なつけむとわが家への園に梅が花咲く](万葉;五837)

大道(王道おおみち・内藤) → 碧海(へきかい・内藤正直、漢学者/史学) 2 7 8 8

大御堂(おおみどう) → 源恵(げんえ;法諱、天台僧/歌人) B 1 8 2 8

大御堂(おおみどう) → 道潤(どうじゆん、天台僧/源恵門/歌) F 3 1 1 2

大湊舎(おおみなとや) → 船積(ふなづみ・田原/俵たわらの、商家/狂歌/戯作) D 3 8 5 5

大宮(おおみや) → 長家(ながいえ・藤原、権大納言/歌人) D 3 2 2 0

大宮(おおみや) → 公経(きんつね・西園寺、太政大臣/歌) E 1 6 3 5

大宮(おおみや) → 隆季(たかすえ・藤原ふじわら、廷臣/歌人) C 2 6 8 3

- 大宮(おおみや) → 隆顕(たかあき・四條、廷臣/記録) L 2 6 4 1  
 大宮(おおみや) → 隆親(たかちか・四條じじょう、廷臣/歌人) C 2 6 9 9  
 大宮(おおみや) → 実宗(さねむね・藤原/西園寺、廷臣/歌) D 2 0 6 6  
 大宮院桔子(おおみやいんのきっし) → 桔子(あきこ、歌人) 1 6 2 1  
 大宮院権中納言(おおみやいんのごんちゅうなごん)・・・歌人:続古今集458作者  
 2説 → 為子(ためこ・京極為教女) 2 6 7 9  
 → 権中納言(ごんちゅうなごん・大宮院、藤原雅平女) E 1 9 7 7  
 大宮先生(おおみやさんせい) → 義定(よしさだ/のりさだ・藤原、廷臣/歌) D 4 7 3 3  
 大宮右衛門佐(おおみやのうえものすけ) → 右衛門佐(うえものすけ、白河皇女令子女房) 1 2 0 8  
 大宮右大臣(おおみやのうだいじん) → 俊家(としいえ・藤原、歌人) M 3 1 0 6  
 大宮越前(おおみやのえちぜん) → 越前(えちぜん・大宮・太皇太后宮、歌人) 1 3 7 4  
 大宮小侍従(おおみやのこじじゅう) → 小侍従(こじじゅう・大宮/待宵、歌人) C 1 9 7 7  
 大宮三位(おおみやのさんみ) → 知家(ともいえ・六條・藤原、廷臣/歌人) 3 1 5 9  
 大宮禪師(おおみやのぜんじ) → 懷円(かいえん、天台僧/歌人) 1 5 8 9  
 大宮大相国(おおみやのだいしょうこく) → 伊通(これみち・藤原、太政大臣/歌) 1 9 5 1  
 大宮太政大臣(おおみやのだいじょうだいじん) → 伊通(これみち・藤原) 1 9 5 1  
 1466 大神女郎(おおみわのいらつめ) ? - ? 万葉四期歌人;618・1505:家持へ贈歌、  
 [さ夜中に友呼ぶ千鳥もの思ふとわびをる時に鳴きつつもとな]、  
 (万葉;四618/もとなはわけもなくむやみにの意)  
 D1459 大神大夫(おおみわのまへつきみ/おおみわのだいふ) ?-? 廷臣/万葉集中人物;題詞に2度出る、  
 ①長門守で赴任;万葉集九1770・1771の題詞(三輪川辺で宴;1770の作者/71は送者)  
 ②筑紫国に赴任;万葉集九1772(阿部大夫の送別歌)  
 ①の大神大夫は大神朝臣高市麿か → 高市麿(たけちまる・大神おおみわの朝臣/大三輪-) E 2 6 4 3  
 B1443 大飯喫(おおめしぐらい・信陽) ? - ? 洒落本作者、1780「娼註銚子戯語」著  
 大飯食人(おおめしのくらんど) → 食人(くらんど・大飯、狂歌作者) B 1 7 1 0  
 おほ家かね延(おおやかかねのぶ) → かね延(かねのぶ・大家おほや、随筆) C 1 5 9 5  
 1467 大宅女(おおやけめ・豊前国娘子とよくにのみちのくにのおとめ) ?-? 奈良期女官or遊行女婦、  
 万葉四期歌;2首共に月の歌;四709・六984(巻六は天平五[733]年の作)、  
 [夕闇は道たづたづし月待ちていませ我が背子その間まにも見む](万葉;四709、  
 夕闇;旧暦16-20日までの月出が遅い頃/たづたづしはわかりにくい意、  
 月の出を待ってお帰りください;その間だけでもお顔を拝見してしましよう)  
 大屋裏住(おおやのうらずみ) → 裏住(うらずみ・大屋、商家/狂歌) 1 2 9 8  
 大屋孫彦(おおやのまごひこ) → 信富(のぶよし・安井、神職/詩/狂歌) D 3 5 9 4  
 1468 大山守命(おおやまのりのみこと・応神天皇皇子) ?-? 記紀歌謡詠者、皇位争で溺死  
 D1453 少老(おほゆ・日置へき) ? - ? 奈良期;万葉三期歌人、万葉三354  
 [繩の浦に塩焼く火ほのけ夕されば行き過ぎかねて山にたなびく](万354)  
 (繩の浦は相生市那波なほの海岸か)  
 B1495 大頼(おおより・宗岳むねおか) ? - 906 平安前期算博士/越の国に下向、歌・古今591・979  
 従四上三河守大内記菅原宗岳[906没]説あり(勅撰作者部類)  
 [冬川の上はこほれる我なれや下にながれて恋ひわたるらむ](古今591)  
 D1480 多頼(おおより・中島なかじま、通称;摂津守) ?-? 美作苦東郡一宮の中山神社神主、  
 歌人;1849(嘉永2)平賀元義の楯之舎塾入門、1857-8大沢深臣「巨勢総社千首」入  
 御乳母少納言(おんめのともしょうなごん) → 少納言(しょうなごん・天曆御乳母) B 2 2 1 5  
 岡右衛門(おかえもん・東条) → 有儘(ゆうじん・東条とうじょう、藩士/俳人) C 4 6 7 8  
 岡右衛門(おかえもん・古川) → 氏英(うじひで・古川ふるかわ/源、幕臣/歌) E 1 2 3 1  
 岡右衛門(おかえもん・西尾) → 喜宣(よしのぶ・西尾にしお、藩士/和算家) F 4 7 6 6  
 岡右衛門(おかえもん・西山) → 貞直(かづなお・西山にしやま、藩士/神職) V 1 5 3 3  
 雄嶽(おがく・小笠原) → 長世(ながつぐ・小笠原、詩人) E 3 2 4 1  
 小笠(おがさ・中井) → 董堂(とうどう・中井/井、商家/詩/狂歌) G 3 1 7 8  
 岡崎(おかざき;号) → 桓恵(かんえ;法諱、天台宗大僧正、歌) D 1 5 4 5

- 岡崎の阿闍梨(おかさきのあじやり) → 政春(しょうしゅん; 法諱、天台僧) J 2 2 6 3  
 岡崎権僧正(おかさきのごんのそうじょう) → 桓覚(かんかく、天台大僧正/歌) D 1 5 5 3  
 岡崎三位(おかさきのさんみ) → 範兼(のりかね・藤原、歌人) 3 5 1 9  
 岡崎僧正(おかさきのそうじょう) → 成源(成巖じょうげん; 法諱、天台僧/歌人) R 2 2 4 5  
 岡崎大進(おかさきのだいじん) → 若水(わかみず・皇太后宮、歌人) 5 3 1 2  
 岡崎大僧正(おかさきのだいそうじょう) → 桓守(かんしゅ; 法諱、天台座主/歌) D 1 5 8 8  
 岡崎大僧正(おかさきのだいそうじょう) → 桓豪(かんごう; 法諱、天台座主/歌) D 1 5 6 2  
 岡崎法印(おかさきのほういん) → 経深(きょうじん; 法諱、天台僧) C 1 6 6 7  
 岡崎門跡(おかさきのもんせき) → 成源(成巖じょうげん; 法諱、天台僧/歌人) R 2 2 4 5  
 小笠の舎(おがさのや) → 百春(ももはる・笠原かさばら、医者/歌人) J 4 4 6 4  
 岡左兵衛(おかさひょうえ) → 信尹(のぶただ・近衛、関白/書/歌/連歌) 3 5 0 8
- 1469 **男梶**(小楫/男楫おかじ・紀朝臣きのあそみ)?-? 奈良期廷臣; 743弾正弼/49兵部少輔/54東海巡察使、  
 760和泉守、万四期十七3924(:746[天平18]年肆宴とよのあかり応詔歌)、  
 [山の峽かひ其処そことも見えず一昨日をとつひも昨日も今日も雪の降れば](万葉; 3924)
- D1437 **男梶**(おかじ) ? - ? 江中期俳人、  
 1754潘山(百子)「しぐれの碑」(; 貞因[貞柳貞峨の父]25回忌・貞峨13回忌追善集)入、  
 [鶯の子の片言をたぶけ哉](しぐれの碑)  
 岡次(おかじ・黒沢) → 春湖(しゅんこ・狩野かのう/黒沢、絵師) J 2 1 5 2  
 岡丈紀(おかじょうき) → 風来(・河原、戯作者) B 3 8 0 8
- C1485 **小一**(おかず・宮本みやもと、初名; 守成、通称; 小一郎、久平[守廉]男) 1836-1916 幕臣;  
 儒; 1856昌平覺入、神奈川奉行支配頭勤方/外国との税制改定交渉、「宮本小一郎弁書」著
- 1432 **雄風**(おかせ/たかかぜ・清原きよはら; 歌号、本姓; 森もり氏、別号; 蔵/玄達) 1747-1810 豊後岡の医者; 父門、  
 儒; 筑前福岡亀井南冥門・歌人、岡藩校由学館司業/出奔脱藩; 改名; 下総香取・江戸を放浪、  
 数々の奇行、江戸住; 医業のち歌道; 加藤千蔭門/村田春海と交流、  
 1806「類題怜野い集」編、家集「清原雄風歌集」/「新撰六帖」、「古人贈答歌抄」編  
 顔を洗わず髪も梳らずほこりだらけの書齋に座す様子など角田九華編[続近世叢語]入、  
 [清原雄風(歌人号)の字/通称/別号]字; 泊高、通称; 忠次郎  
 別号; 崑岡/楊伯/雲巢道人、医号; 小沢玄達
- E1415 **雄風**(おかせ・水上みなかみ、) 1820-1883 信濃埴科郡の水上山修験; 和合院を継嗣(有謙名)、  
 武道・歌; 菅秀久ひでひさ(春風)門、国学・歌; 高田法古のりひさ・門、神仏分離; 麓の池に因み水上姓、  
 雄風と改名し山を下りる; 玉依比売神社祠官、1871松代藩(県)から文学助教に任命、  
 [雄風(; 名)の字/号]字; 徳卿、号; 沈斗/王孫明/可香/正菊/一学/有謙
- 雄風(おかせ・小笠原) → 長裕(ながたか・小笠原おがさわら、歌/神職) L 3 2 3 6  
 雄風丸(おかせまる) → 国幹(くにのもと・野上のがみ、神職/詩歌) D 1 7 2 5  
 岡玉乃屋(おかたまのや) → 種実(たねみ・たねざね・樋口ひぐち、商家/国学) S 2 6 0 7  
 岡太郎(おかたろう・大城/森田) → 桂園(けいえん・森田もりた、幕臣/儒者) F 1 8 3 0  
 岡太郎(おかたろう・西山) → 員直(かずなお・西山にしま、藩士/神職) V 1 5 3 3  
 於勝の方(おかつのかた・伊達) → 勝子(かつこ・伊達だて/松岡、藩主側室) U 1 5 8 9  
 岡之助(おかのすけ・鳥山) → 香軒(こうけん・鳥山とりやま、詩人) G 1 9 2 6  
 岡の舎(おかのや) → 眞藤(まふじ・高平たかひら、藩士/地誌) N 4 0 4 4  
 岡廼舎(岡屋おかのや) → 土満(ひじまる・栗田、神職/国学/歌) 3 7 0 7  
 岡廼舎(おかのや) → 守郷(もりさと・輿石こしいし/山本、神職/歌) K 4 4 0 0
- D1456 **岡辺唐成**(おかべのからなり) ? - ? 狂歌; 1787「才蔵集」入; 423  
 [口まねをして慰むはなほつらし何時いつかあふむの返事きかせよ](狂歌才蔵集; 恋423)
- D1450 **岡部葛懸**(おかべのくずかけ) ? - ? 上州の狂歌作者; 1787「才蔵集」入  
 [暮れかゝりても紅くれなるの梅の花おぼろおぼろと春のうそつき](狂歌才蔵集; 春37)  
 (はっきりしない春の朧月をうそつきと呼んだ)
- 岡部兵部(おかべのひょうぶ) → 天山(てんざん・吉田、講釈師) D 3 0 5 6  
 岡坊(おかぼう・井上) → 岡坊(こうぼう・井上いのうえ、儒者/詩人) L 1 9 2 6  
 岡松一品(おかまつのいっぽん) → 宣子(せんし・日野ひの/藤原、典侍/歌人) F 2 4 6 3

- 1410 **岡麻呂** (おかまろ・海犬養あまのいぬかいの宿禰) ?-? 万葉四期歌996:734(天平6)年応詔歌、宮内警護、  
[御民みたみわれ生ける験しるしあり天地の榮ゆる時に遇あへらく思へば](万葉;六996)  
岡美知鈍夫(おかみちどんぶ) → 鈍夫(どんぶ・岡美知おかみち、俳人) S 3 1 4 7  
お亀(おかめ・仙田) → 亀鶴(かめつる・仙田せんだ、大奥出仕/歌) U 1 5 8 4  
岡目蜂空(おかめはちもく) → 飄齋(ひょうさい・平塚、俳/狂詩) F 3 7 2 4
- 1409 **岡持** (おかもち・手柄てがら、平沢常富、父:西村氏、母方に養子) 1735-1813 79 秋田佐竹藩江戸留守居役、  
俳人:存疑・2世亀成門、黄表紙:「親敵討腹鞆おやのかたきうてやはらつづみ」「見徳一炊夢」「文武二道万通」、  
洒落本「娼妃地理記」、狂歌集;「岡持家集我おもしろ」(息常房編)、滑稽本「古朽木ふるくちき」、  
咄本「柳巷訛言さとなまり」、随筆「後者のちは昔物語」「平荷随筆」、誹諧狂歌には縁語掛詞を多様、  
[年波の寄するひたひのしはみよりくるゝはいたく惜しまれにけり](後万載集;秋)、  
(よするに齡と皺を/しはに皺と吝しみ[吝嗇けち]を/くるるに暮ると物を呉るを掛ける)、  
(年をとると額に皺がよると共にけちになり歳暮で人に物を遣るのが惜しくなる)、  
[岡持の号]黄表紙:朋誠堂喜三二きさんじ(干せど気散じ)・平荷/洒落本;道蛇楼麻阿、  
狂詩:韓長齡、狂歌;浅黄裏成あさぎのうらなり・手柄岡持、俳名:雨後庵月成  
蓬萊山人亀遊も同一? → 亀遊(きゆう・蓬萊山人、黄表紙) M 1 6 1 8  
岡本関白(おかもとのかんぱく) → 家平(いえひら・近衛、廷臣/歌人/連歌) 1 1 5 8  
岡本前関白左大臣衛(おかもとのさきのかんぱくさだいじん:新拾遺) → 家平(いえひら・近衛) 1 1 5 9  
岡本天皇(おかもとのすめりみこと) → 舒明天皇(じよめいてんのう、岡本宮に都) 2 2 1 2  
オカモト屋(おかもとや) → 白亀(はつき・平尾ひらお、商業/俳人) F 3 6 1 0  
岡屋殿(おかやどの) → 兼経(かねつね・近衛このえ、摂政関白/歌) C 1 5 8 7  
岡屋関白(おかやのかんぱく) → 兼経(かねつね・近衛このえ、摂政関白/歌) C 1 5 8 7  
岡屋入道前摂政家民部卿(おかやのにゆうどうさきのせつしょうけのみんぶきょう;新統古今集)  
→ 民部卿(みんぶきょう・後一条関白家、女房/歌人) G 4 1 8 7  
岡屋入道前摂政太政大臣(おかやのにゆうどうさきのせつしょうだいじょうだいじん;続古今集)  
→ 兼経(かねつね・近衛このえ、摂政関白/歌) C 1 5 8 7  
おかよ(・井伊) → 量寿院(りょうじゅいん、井伊直中の母/歌) L 4 9 9 9  
小川(おがわ) → 小川(しょうせん、俳人) R 2 2 2 0  
小河殿(小川殿おがわその) → 満詮(みつあきら・足利あしがが/源、武将/歌) D 4 1 0 3  
小川僧正(おがわのそうじょう) → 承澄(しょうちよう;法諱、天台僧/歌) U 2 2 2 3
- B1478 **小川町住** (おがわのまちずみ、大高おおたか仁助にすけ) ?-? 高松藩士/江戸小石川藩邸(小川町中屋敷)に住、  
狂歌作者・四方連、1785「徳和歌後万載集」・86飯盛「吾妻曲狂歌文庫」・87「狂歌才蔵集」入、  
[待ちわびし妻戸をたゝく主は誰たそまただまされし二度のくゐなに](才蔵集;十一428)  
小川法印(おがわほういん) → 忠快(ちゅうかい;法諱、平教盛男/天台僧) F 2 8 8 4  
隠岐(おき・安見) → 元勝(もとかつ・安見やすみ、藩士/砲術/歌) L 4 4 7 7  
隠岐(おき・毛利) → 熙頼(ひろより・毛利もうり、藩士/記録) H 3 7 7 4  
置石村路(おきいしのむらち) → 置石村路(おきいしのむらち、狂歌) B 1 4 8 1  
おぎ一(おぎいち) → 尾高検校(おだかけんぎょう、平曲) D 1 4 1 2  
隠岐院(おきいん) → 後鳥羽天皇(ごばてんのう、承久乱/歌) 1 9 3 7
- C1486 **興詩** (おきうた・金谷かなや、別名;興忠/字;立礼、三石[興般]男) 1774-1835 62 大坂天満組の総年寄、  
儒;中村韋庵門/国学;伴蒿蹊・加藤景範門/歌人、南畝/雅望らと交流、  
1808「詠歌大概抄箋」11「なにはつ百首」、「八代集摘註」「芳野百首」著  
[興詩の通称/号] 通称;与右衛門、号;遷斎/夢野舎ゆめのや
- E1419 **興枝** (おきえだ・森田もりた、別名;興茂/通称;僖兵衛) ?-? 江中後期;伊勢松坂の国学者;  
国学;本居宣長(1730-1801)門/歌;村田春海(1746-1811)門、  
冲右衛門(おきえもん・皆川) → 秀道(ひでみち・皆川、幕臣/蝦夷地検分) D 3 7 8 8  
荻右衛門(おぎえもん・渡辺) → 羅月(らげつ・渡辺、藩士/詩/俳諧) B 4 8 3 0  
荻右衛門(おぎえもん・弓場) → 重正(しげまさ・弓場ゆみば、藩士/馬術家) S 2 1 6 0  
荻垣内(おぎかいと/おぎかいち・山田) → 千疇(ちゆうちゆうね・山田、国学者) 2 8 3 9
- 1411 **興風** (おきかぜ・藤原ふじわら、宇院藤太、道成男/浜成の曾孫) ?-? 廷臣;900相模掾/904上野権大掾、  
914下総権大掾/正六上、宇多院の近臣/古今集有力歌人;893?「寛平后宮歌合」参加、

913「亭子院歌合」「内裏菊合」参加、古今六帖/如意宝集/新撰朗詠集など入、「興風集」、  
勅撰38首;古今(17首101/102/131/172-)後撰(5首)新古(4首)以下、雲葉集入、  
[誰をかもしる人にせむ高砂の松も昔の友ならなくに](古今909)

C1487 **興勝**(おきかつ・青木あおき、字;定遠/季方、百野嘉内男)1762-1812<sup>51</sup> 筑前福岡藩士青木武兵衛の養子、  
儒者;亀井南冥門、福岡藩西藩校甘棠館の助教、長崎で蘭学;福岡藩の蘭学の祖、  
1792「南海紀聞」1804「答問十策」、「異情問答十策」「和蘭奇談」「孫太郎物語」著、  
[興勝(;名)の通称/号] 通称;次右衛門、号;五竜山人/危言狂夫

興勝(おきかつ・荒巻) → 竹茂(ちくも・荒巻、俳人) D 2 8 7 9

興兼(おきかね・昼寐) → 昼寐興兼(ひるねのおきかね、狂歌) H 3 7 9 2

興欽(おきかね・千手) → 廉斎(れんさい・千手せんじゅ/三浦、藩儒) B 5 1 0 7

興邦(おきくに・安藤) → 自笑(3世じしょう・八文字、書肆/俳人) E 2 1 0 9

興邦(おきくに・滝沢) → 馬琴(ばきん・曲亭きよくてい・滝沢、戯作者) 3 6 0 7

D1490 **荻子**(おぎこ・河内かわうち、初名;千枝)1829-86<sup>58</sup> 江戸の国学者/歌人;本居豊穎とよかい門、  
美作津山藩主松平斉民なりたみに出仕

興貞(おきさだ・関口/篠田) → 行休(こうきゅう・篠田/関口、書家) I 1 9 2 5

興禎(おきさだ・朝岡) → 興禎(さきさだ・朝岡、絵師) H 2 0 1 7

居貞親王(おきさだしんのう) → 三条天皇(さんじょうてんのう、冷泉天皇皇子) E 2 0 4 4

C1422 **興里**(おきさと・細川ほそかわ、通称;源次郎、興生男/本姓;源)1722-45<sup>早世24歳</sup> 肥後宇土藩主、  
1735(14歳)襲封、従五下/大和守、歌人;「興里公集」、妻;細川宣紀女軌子のりこ(歌人)

1470 **奥島**(おきしま・阿部or安倍?)?-? 万葉三期歌824:730年旅人梅花宴参(;小監)、  
[梅の花散らまく惜しみわが園の竹の林に鶯鳴くも](万葉;五824)

隠岐次郎(おきじろう) → 時清(とききよ・佐々木/源、幕臣/歌人) J 3 1 0 8

沖次郎(おきじろう・魚住) → 明誠(あきのぶ・魚住うおずみ、藩士/国学) H 1 0 1 1

沖助(おきすけ・国分) → 威胤(たけたね・国分こくぶ、藩士/儒/詩人) O 2 6 4 3

荻園(おぎぞの) → 千浪(ちなみ・加藤/藤原、国学、歌) F 2 8 1 0

荻園(おぎぞの→あしぞの) → 玉秋(たまき・磯田、国学) K 2 6 3 7

荻園(おぎぞの) → 秋名(あきな・長坂ながさか、商家/歌人) I 1 0 1 7

置始多久美(おきぞめのたくみ) → 小鯛王(おだいのおおきみ) 1 4 3 6

E1413 **興孝**(おきたか・松井まつい、通称;郷左衛門)1714-92<sup>79</sup> 三河吉田藩士、国学者;杉浦国満門

興孝(おきたか・横山) → 丸三(まるみつ・横山、幕臣/淘宮術) K 4 0 2 2

興孝(おきたか・和田/高橋) → 石霞(せつか・高橋/和田、商家/経済) K 2 4 7 6

興孝(おきたか・松平) → 頼起(よりおき・松平らつだいら、藩主/和学) P 4 7 1 8

興隆(おきたか・倉野/唐金) → 梅所(ばいしょ・唐金からかね/倉野、商家/詩文) B 3 6 5 3

興武(おきたけ・清原) → 武員(たけかず・清原きよはら、廷臣/記録) O 2 6 3 2

C1488 **興忠**(おきたか・荒木田あらかだ、貞並の長男)?-981 平安前期961-978(応和元-天元元)伊勢内宮禰宜、  
962従五下/978氏長に譲る、「太神宮諸雑事記」著、荒木田徳雄の孫

お吉(おきち・沢田) → きち(沢田さわだ、教育者) L 1 6 2 0

沖津(おきつ・建部) → 紫苑(しおん、綾足の妻、歌/絵) B 2 1 2 8

1471 **意次**(おきつぐ・田沼たぬま、意行もとゆき男)1719-88<sup>70歳</sup> 幕臣;1734小姓/35家督嗣/47小姓組番頭格、  
1751御側衆、67側用人/遠江相良藩主、72幕府老中、86失脚;67-86田沼時代、

意知おきとも/意正の父、「意次上申書」「名物相良和布」著、

[意次(;名)の通称/法号]通称;竜助、法号;隆興院耆山良英、

B1444 **興継**(おきつぐ・滝沢たきざわ、宗柏、琴嶺舎、馬琴男)1798-1835<sup>38</sup> 松前藩医筆頭、兎園社友;父と不和  
雄詰社(おきつしゃ) → 元義(もとよし・平賀、平尾/興津/犬丸、地誌/歌人) 4 4 2 4

C1489 **沖面**(おきつら・一榎庵いっかあん/一閑亭、村上むらかみ義方/字;庸定)?-? 福岡藩士/のち江戸浅草住、  
俳諧/狂歌;麦原笛成門/1823一榎庵継承、1824「一榎庵独楽集」35「狂歌一人百首」編、  
「狂歌百人一首」「一榎庵雑記」編/「狂歌四季遊」編

興輝(おきてる・池田) → 綱政(つなまさ・池田、藩主/歌人) B 2 9 3 0

意時(おきとき・坂場) → 与蔵(よぞう・坂場さかば、藩士/奉行) I 4 7 1 0

B1494 **興俊**(おきとし・大江おおえ) ? - ? 平安前期廷臣/歌人、六位、後撰集1136

[宇治河の浪にみなれし君ませば我も網代あじろに寄りぬべきかな](後撰集十六雑1136)

興俊(おきとし・門司) → 宗忍(そうにん;法名、門司もじ、武将/連歌) C 2 5 6 6

B1479 意知(おきとも・田沼たぬま、意次男) 1749-8436歳 幕臣;1781奏者番/83若年寄、父意次と共に権勢、1784天明事件;佐野政言に殿中で刃傷;8日後に没:

のち田沼騒動物に脚色(石部琴好「黒白水鏡」以下)

興虎(おきたら・山崎) → 石燕(せきえん・山崎やまさき、儒者/絵師) J 2 4 9 4

1473 老人(おきな・阿部朝臣あべのあそみ)?-? 万葉三期歌十九4247:遣唐時の母との別[733年?], [天雲あまくもの遠隔そきへの極きはみわが思へる君に別れむ日近くなりぬ], (万葉;4247/渡唐前に母へ奉る別離の歌)

1474 老夫(おきな・石川朝臣いしかわのあそみ、小老[698美濃守]男?)?-? 万葉三期歌八1534:秋歌[730年頃], [女郎花秋萩手折たをれ玉梓たまほこの道行裏みちゆきつとと乞はむ児がため], (万葉;1534/道行裏は旅のお土産)

B1407 老人(おきな・調忌寸つきのみき[調は氏/忌寸は姓])?-?700-1頃没 百濟系渡来氏族/詩、689撰善言司、701大宝律令制定に功積;正五上、大学頭、詩;懐風藻28

C1490 おきな(翁/老人) ?-? 平安期大隅の郡司/歌人、拾遺564:大隅守桜嶋忠信への赦免申請の歌、宇治拾遺巻九に職務怠慢の郡司として逸話入 [老いはてて雪の山をばいただけどもと見るにぞ身はひえにける](拾遺564)

参考 → 忠信(ただのぶ・桜嶋) F 2 6 5 3

D1470 澳魚(おきな・千田せんだ/本姓;平) 1721-8363歳 江中期;近江彦根藩老西郷家の家臣、歌;本居大平「八十浦の玉」上巻末入、 [置く露に袖はぬるとも女郎花をみなへし咲きたる野辺に一夜あかさむ](八十浦;上271) [澳魚(;名)の通称/号]通称;且右衛門そえもん、号;桜屋

D1465 おきな(;組連) ?-? 江戸浅草新堀(しんぼり/現在にいぼり)の川柳の組連、取次;1759・60・61「川柳評万句合」入、取次例;[濡れ畳大屋の前に干して置き](1760年万句合/前句;きのどくな事々々)、(大屋が雨漏を修理してくれない嫌がらせ)

同じ新堀には組連[若松]がある

興那(おきな・上月こうげつ) → 雲阿(うんあ;法諱、神職/僧/狂歌) D 1 2 5 3

C1491 興壽(おきなが・八劔やつぎ/本姓;藤原、旧姓;神崎) 1801-5353 上総木更津の八劔勝興の養子;八劔八幡宮神主を継嗣、国学/神道;1826平田篤胤門、「正祠論」著、[興壽の別名/通称]別名;勝与/興良/興右、通称;伊勢正

興長(おきなが・石田) → 梅岩(梅巖ばいがん・石田いしだ、心学の祖) 3 6 0 3

興良親王(おきながしんのう) → 宗良親王(むねながしんのう) 4 2 0 8

息長帯日売命(おきながたらしひめののみこと) → 神功皇后(じんぐうこうごう) D 2 2 8 6

C1492 翁齋蛭成(おきなさいひるなり)?-? 滑稽本;1830表野黒人「三宝荒神さんぼうこうじん」校訂

翁堂(おきなどう) → 二柳(じりゅう・勝見、俳人) D 2 2 2 0

翁堂(3世おきなどう) → 升六(しょうろく/ますろく;号、升屋/俳人) C 2 2 1 5

翁堂(4世おきなどう) → 瓢六(ひょうろく・辻鼻つじはな、俳人) F 3 7 4 0

翁堂(おきなどう) → 夜来(やらい・林はやし、俳人) E 4 5 3 6

1412 翁満(おきなまる・黒沢くろさわ、名;重礼、行業[重孝]長男) 1795-185965歳 伊勢桑名藩士、藩主国替;武蔵忍藩士、大坂蔵屋敷留守居役、狂歌師父の影響で早く狂歌・戯作に親しむ、山東京伝・馬琴と交流、国学者/歌人、「万葉集大全」「古今集大全」「独学綱」「童話長編」著、「播磨の家つと」「翁随筆」、1855「葎居むぐらい集」57「葎居前集」「葎居後集」外著多数 1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、

[弓ならば引でたわめて我がかたに寄せん力も恋になにせん](大江戸倭歌;恋1608)、

[翁満(;号)の通称/別号]通称;太郎市/九蔵、別号;葎居むぐらい、

翁家さん馬(おきなやさんば) → さん馬(さんば・翁家、2世可楽、嘶本) E 2 0 6 1

翁家[翁坊]楽丸(おきなや/おきなぼうらくまる) → 都蝶(とちよう・石野、落語家) O 3 1 3 9

起業(おきなり・山口) → 起業(おきのり・山口やまぐち/野口、国学/神職) C 1 4 9 4

隠岐入道(おきにゅうどう) → 眞願(こころん;法諱、武家/僧/歌) D 2 2 7 5

- 隠岐入道(おきにゆうどう) → 時清(とききよ・源/佐々木、評定衆/歌) J 3 1 0 8  
 隠岐入道(おきにゆうどう) → 道珍(どうちん、佐々木、室町幕臣/連歌) G 3 1 5 4  
 沖石の讃岐(おきのいしのさぬき) → 讃岐(さぬき、二条院讃岐、源頼政女、歌人) C 2 0 7 9  
 隠岐守(おきのかみ・亀井) → 茲監(これみ・亀井かめい、藩主/歌) E 1 9 5 1  
 隠岐守(おきのかみ・太田) → 資寧(すけやす・太田おた、旗本/幕臣/歌) H 2 3 8 9  
 隠岐守(おきのかみ・酒井) → 忠行(ただゆき・酒井さかい、幕臣/奉行/歌) U 2 6 2 4  
 隠岐守(おきのかみ・伊高) → 重弘(しげひろ・伊高いだか/大庭、神職) N 2 1 2 7  
 隠岐守(おきのかみ・太田) → 資良(すけよし・太田おた、幕臣/歌人) I 2 3 2 2
- 1444 **荻野檢校**(おぎのけんぎょう・荻野/名;知一/業知)1731-180171 安藝広島の鍼医;幼時失明し鍼術修業、  
 1753(23歳)上京/平曲家;初め前田流寺尾勾当・亀田意一門/のち波多野流河瀬檢校門、  
 檢校、平曲譜本「平家正節まぶし」編纂  
 沖之丞(隠岐丞おきのじょう・勝田) → 竹翁(ちくおう・勝田かつた、幕府御用絵師) C 2 8 6 7  
 沖之丞(おきのじょう・服部/駒沢) → 利廉(としかど・駒沢/服部、藩士/兵農学) M 3 1 2 8  
 沖之進(おきのしん・斎藤) → 新蔵(しんぞう・斎藤さいとう/武衛、砲術家) P 2 2 2 2  
 荻之進(おぎのしん・力石) → 耳徳(じとく・力石、俳人) F 2 1 3 1  
 興之助(おきのすけ・長谷川) → 貞彦(定彦さだひこ・長谷川、国学者) J 2 0 4 0  
 沖之助(おきのすけ・浅海) → 澳満(おきまろ・浅海あさみ、藩士/歌人) D 1 4 8 4
- C1493 **興宣**(おきのぶ・柴田しばた/高宮/本姓;藤原)?? 江中期安永1772-81頃江戸松島稻荷祠官、  
 強力で鉄杖携え議論、1776「本覚麓濃道草」、「惶根草返辨」著  
 [興宣(;)名)の通称]通称;出羽守/対馬守  
 興信(おきのぶ・兼松/山鹿) → 高恒(たかつね・山鹿/兼松/岡/津軽、藩士/兵学) M 2 6 2 9  
 養信(おきのぶ・狩野) → 晴川(せいせん・狩野かのう、幕府奥絵師) J 2 4 0 8  
 荻野坊奥路(おぎのぼうおうろ) → 其鳳(きほう・大雅舎、浮世草子作者) B 1 6 7 7  
 荻の舎(荻屋おぎのや) → 吉埴(よしたね/-はに・中山、神職/歌人) E 4 7 3 7  
 荻の家(おぎのや) → 行道(ゆきみち・速水はやみ、藩士/国学) F 4 6 7 1  
 荻廼舎(おぎのや・植村) → 正路(まさみち・植村うえむら、幕臣/歌人) N 4 0 9 4  
 荻廼屋音信(おぎのやおとずれ) → 音信(おとずれ・荻廼屋/芝原、狂歌/歌人) D 1 4 2 6
- B1493 **興範**(おきのり・藤原ふじわら、因幡介正世9男)844-91774 平安前期廷臣;正四下/筑前・豊前・近江守、  
 902大宰大貳/907右京大夫/909式部大輔/911(延喜11/69歳)参議/従四上/正四下弾正大弼、  
 後撰集1219大宰大貳のとき檜垣の姫の歌あり、  
 詩人:大蔵善行よしゆき門、「雑言奉和」に901年善行古稀の賀詩
- D1488 **興乘**(おきのり・糟谷かすや、通称;主膳正)?-1717 駿河府中の国学者;駿河神部神社神主志貴昌興門、  
 越前福井藩士;武生住
- 1476 **興文**(おきのり/おきふみ・細川ほそかわ、別名;哲之助/興周、興生男/本姓;源)1723-8563 肥後宇土藩主;  
 兄興里を継嗣、1745襲封/殖産興行奨励/63藩校温知館開設/72隠居、  
 詩/書;川添士訥/秋山玉山門、茶/武術/歌/俳諧、「桂源遺稿」、  
 [興文の字/通称/号]字;子華/鳳一、通称;大之丞、号;月翁/青城/蕉夢庵/桂源山人
- C1494 **起業**(おきのり・山口やまぐち、野口八平2男、)1831-8656 伊勢度会郡前野の山口光頭の養嗣、  
 薬種業;如神散本舗、神道/国学;御巫みかんなぎ清直きよなお門、維新後;神宮教院教官;子弟教育、  
 歌人、画;狩野派絵師伊東洞栄門、神宮主典兼権少教正;神宮教の布教と教育、大講義、  
 晩年;家居奨善社を結ぶ、「藤園見聞録」「藤園雜纂」「藤園随筆」「藤園文稿」著、  
 「木やり歌」「一毛抄」「百船百人和歌集」「神典補翼」外著多数、  
 [起業(;)名)の通称/号]通称;種吉/伝兵衛、号;藤園/春浦
- C1495 **興治**(おきはる・鳥居/鳥井とりい、広治男/本姓;橘)1668-174275歳 紀伊和歌山藩士;1674出仕、  
 公儀書物御用/1737百石取、神道学;父門、学識、「仮名譜略」「南竜院様御年譜」著  
 [興治(;)名)の通称/号]通称;源之丞、号;春沢
- B1445 **興久**(おきひさ) ? - ? 連歌、1561「飯盛千句」入
- C1496 **興秀**(おきひで・飯田いだ、弘秀男)?? 戦国期天文1532-55頃;弓馬の故実家、  
 大内義隆家臣;小座敷衆/陶晴賢に従う、1550従五下、「聞書」「弓馬興秀記」著、  
 [興秀(;)名)の通称/号]通称;弥五郎、号;大炊助/石見守

- E1427 **興衡**(おきひら・三善みよし) ? - ? 南北期廷臣:歌人、1400[菊葉集]入、  
[このままにつひにかはらば春の日のながくや人をうらみはつべき](菊葉;恋1185)  
興衡(おきひら・松平) → 信興(のぶおき・松平まつだいら、藩主/文筆) B 3 5 0 1
- D1486 **興恕**(おきひろ・犬塚いぬが/本姓;橋、) 1823-8462 江戸の国学者/讃岐那珂郡に住、  
1875「糾駁学問勸筭(学問勸打返)」著、  
[興恕(;名)の号] 襲水/鼈庵ごうあん
- C1497 **興房**(おきふさ・伊勢いせ) ? - ? 平安前期;862眞如高岳親王に随行入唐/65帰国、筑後少目、  
883渤海使来日時の通事、「眞如親王入唐略記付頭陀親王入唐略記」著
- E1429 **興房**(おきふさ・度会わたらい、行房男)?-? 平安鎌倉期;伊勢外宮神職、氏宗の孫/近房の父、  
歌;1233刊[御裳濯集]入、  
[旅衣いくへの霞わけつらんいまゆくすゑも武蔵野の原](御裳濯集;春43)
- 1475 **興房**(おきふさ・陶すえ/多々良、弘護男)?-1539 周防守護代、晴賢の父、連歌:1518何船百韻
- C1498 **興藤**(おきふじ・友田ともだ、広就男/本姓佐伯)?-1541自害 安藝の武将;佐西郡桜尾城主/巖島社神主、  
1523神領問題で大内・陶氏と戦闘;和睦、41尼子氏に呼応し挙兵/大内氏に敗戦/自害、  
連歌:1518梢柏・宗碩らを京に招き何人百韻催、陶すえ興房とも百韻、  
[興藤の通称] 上野介/掃部助かもんのすけ  
興文(おきふみ・細川/源) → 興文(おきのり・細川、藩主/詩人) 1 4 7 6
- B1480 **おきふる**(・宮道みやじ) ? - ? 平安期保明親王(903-923)の帯刀、  
歌;920頃「保明親王帯刀陣歌合」参加、  
[きりぎりす秋の夜深よぶかく思ふかな寝覚めて聞けど声のたえねば](帯刀歌合;右4)
- E1422 **興雅**(おきまさ・山田やまだ、通称;又左衛門/益右衛門)?-? 江後期;出雲神門郡の国学者/歌人、  
国学・歌;神白こうじろ朝興ともおき門、1855の安政南海地震による出雲被害時の詠歌あり  
興正(息正おきまさ・荒木田) → 南陵(なんりょう・荒木田あらかきだ、神職/詩) J 3 2 6 6  
興雅(おきまさ・勝部) → 栄忠(しげただ・勝部かつべ、大庄屋/歌人) O 2 1 0 3  
起窓(おきまど・初霜) → 初霜起窓(はつしものおきまど、狂歌作者) I 3 6 7 5  
起丸(おきまる・水谷川) → 橘園(きつえん・水谷川みやがわ/近衛、僧/神職) V 1 6 3 4  
興丸(おきまる・上司) → 延絃(のぶお・上司かみつかさ、神職/国学) H 3 5 9 3
- 1413 **意吉麻呂**(奥麻呂おきまる・長忌寸ながのいみき)?-? 長直阿利麻[遣唐使]男?/渡来系東漢氏支族、  
持統・文武朝官吏/万葉二期歌人、688-706頃行幸・宴席歌、  
万葉14首;57/143/144/238/265/3824-31/1673注  
[苦しくも降り来る雨か三輪の崎狭野の渡りに家もあらなくに](万葉;三雑265)  
長忌寸娘は意吉麻呂女? → 長忌寸娘(おながのいみきおとめ、歌人) F 3 2 0 9
- D1484 **澳満**(おきまる・浅海/浅見あさみ) 1800-187273 越前丸岡藩士/歌人;加藤千蔭門、  
歌/書画に長ず、  
[澳満(;名)の別号/通称]別名;貞忠、通称;半四郎/沖之助/七郎右衛門(父と同称?)  
沖満(おきまる・菊池) → 沖満(おきみつ・菊池きくち、神職/国学) D 1 4 9 2
- 1477 **奥道**(息道おきみち・安倍あへ朝臣/一時;息部氏)?-774 奈良期廷臣;762従五下/765勲六等を受;  
766従四下/768左兵衛督/一時罪を得る;息部姓、771本位に復す;内蔵頭、  
774但馬守・従四下;没、万葉四期歌人;八1642:雪の歌、  
[たな霧ざらひ雪も降らぬか梅の花咲かぬが代しろに擬そへてだに見む](万葉;1642、  
空一面に曇る/梅の代わりになぞらえて雪を見たい)
- C1499 **興道**(おきみち・三宅みやけ、字;子諱/通称;富之丞/号;銀台、本姓;物部)?-? 江中期阿波徳島藩士、  
1786「鳴門日記」、「小春日記」著
- D1400 **興道**(おきみち・宮崎みやざき、通称欽平/号;琴山)?-? 江後期文政1818-30頃和泉の医者/大阪で開業、  
「琴山漫録」「乳岩辨論」著
- D1485 **興通**(おきみち・出雲寺いずみじ、) 1844-190562 京の神職;出雲路信興の養嗣子、下御霊しもごりょう神社社司、  
従五下、国学;祖父出雲寺定信門/有職典故に精通、  
[興通(;名)の通称/号]通称;出雲守、号;楓軒
- D1401 **居路**(おきみち・南部なんぶ) ? - 1918 陸奥盛岡の歌人、「南部居路先生歌集」著
- D1492 **沖満**(おきみつ・菊池きくち) 1806- 188681 伊予八幡浜の神官、国学;清家堅庭門、守満の父、



- [沖満(；名)の通称/号]通称;加次馬/上総/大隅/老鋤、号;満月園/篁居/梅園  
 興旨(おきむね・滝沢) → 羅文(らぶん・滝沢/源/松沢、俳人) B 4 8 5 1
- D1474 意元(おきもと・田沼たぬま/本姓;源、通称;安二郎)?-? 江後期;歌人、遠江相良藩主田沼家の一族?  
 1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、  
 [神無月峰の嵐の激しさに常磐の松も声むせぶなり](大江戸倭歌;冬1146/寒松)
- 1433 奥守(おきもり・大神朝臣おおみわのあそみ)?-? 廷臣;764従五下、万葉四期歌十六3841:池田朝臣と嗤笑歌、  
 [仏造るま朱そほ足らずは水溜まる池田の朝臣あそが鼻の上を掘れ](万葉集;十六3841)  
 参考 → 池田朝臣(いけだのあそみ) 1 1 7 8  
 奥守(おきもり・遠藤) → 正範(まさのり・遠藤えんどう、神職) O 4 0 0 5
- D1402 興之(おきゆき・中西なかし、初名;経節、岡田経文男)?-? 伊勢山田の伊勢神宮五十鈴宮祠官/権禰宜、  
 国学:1810本居春庭/大平門、「癸未年歌合」著、大平撰「八十浦の玉」下巻;長歌入、  
 [中臣のふと祝詞ごとのり申し大宮移し鎮めましけり]、  
 (八十浦;1063五十鈴宮の新宮うつしの反歌)
- D1403 興之(おきゆき・紀き、通称;正樹)?-? 幕末期会津地誌・歌人、1864「越後土産」著、「越後年代記」編  
 沖人(おきんど・遠唐とおから) → 一九(いっく・十返舎、戯作者) 1 1 2 0  
 億(おく・安孫子) → 貽堂(いどう・安孫子あひこ、詩人) I 1 1 0 1  
 奥庵(おくあん・笠間) → 奥庵(おうあん・笠間/今村、藩士/儒者) C 1 4 2 9
- 1434 少咋(おくい・尾張連おわりむらじ)?-? 奈良期廷臣;749越中史生/従八下、  
 遊行女婦左夫流さぶるに惑い妻を棄てる;万葉中人物;4106-9:家持喩歌  
 参照 → 左夫流児(さぶるこ) D 2 0 8 2
- B1481 置石村路(おくいしのむらぢ) ? - ? 狂歌、後万載集4首;314/382/392/676、  
 [木枯にちりぬるいろはふみ散らしやまけふこえて冬は来にけり](後万載;四冬314)
- B1446 屋烏(おくう・渡辺わたなべ/石井、名;堅[眞堅]/字;好卿/通称宗助) 1755-1830 76歳 美作勝山藩士、  
 俳人:蓼太・来山門、1782帰郷;八千房駝岳[木僊]門、1799「俳諧十家類題集」1810「一時集」編、  
 1810「西遊細り芒」16「其五日」17「俳諧眞白糸」21「枯野集」26「大洋集」編、「屋烏古稀春興」著、  
 [屋烏の別号] 屋烏陳人/白也苑/八千房はっせんぼう3世/五竹庵/三千房(1809年より)  
 奥右衛門(おくえもん・住田) → 素鏡(そきょう・住田すみだ、農業/俳人) D 2 5 4 9  
 奥右衛門(おくえもん・遠藤) → 安門(やすかど・遠藤えんどう、藩士/弓/歌) F 4 5 4 7  
 奥右衛門(おくえもん・宮田) → 有隣(ゆうりん・宮田みやた/服部、和学者) H 4 6 3 2  
 憶園(おくえん・寺尾) → 古史(ひさふみ・寺尾てらお、商家/歌人) K 3 7 2 2  
 澳魚(おくぎょ・千田) → 澳魚(おきな・千田せんだ/平、藩士/歌) D 1 4 7 0  
 屋愚子(おくぐうし) → 貫徹(かてつ;法諱・廓門、曹洞僧) R 1 5 4 8  
 憶斎(おくさい) → 正足(まさたり・黒田、藩士/医/詩歌) D 4 0 6 8  
 奥左衛門(おくざえもん・小池) → 崑岡(こんこう・小池こいけ、儒者) P 1 9 1 8  
 小草亭(おぐさてい) → 李東(りとう・鈴木すずき、里長/俳人) C 4 9 2 9
- D1404 屋山(おくざん・林はやし、名;翼、字;師馮/巢生、富則男) 1744-97 54 加賀金沢儒者:渋谷松堂門、京遊学、  
 帰郷;子弟教育、1790藩校明倫堂読師/のち教授、「幣筭集」著、養嗣子;師松堂男蓀坡そんぱ、  
 [屋山の通称/別号]通称;慶助、別号;柏堂
- B1408 屋山(おくざん・稲毛いなげ、名;直道/字;聖民、重善男) 1755-1823 儒詩;皆川淇園門、書、  
 古体派篆刻;高芙蓉門、1797「江霞印影」/1808「采風集」編、「日本式百家詩」「屋山印譜」著、  
 [屋山の通称/別号]通称;官左衛門、別号;息斎/燕々居、恭斎(市河米庵養子)の父、  
 息子 → 恭斎(きょうさい・市河/稲毛、書家/詩) N 1 6 8 2  
 屋山(おくざん・柏原) → 学而(がくじ、柏原かしわばら、蘭医者) J 1 5 9 3  
 憶山翁(おくざんおう) → 忠雄(ただお・岩崎いわさき、神職/教育) V 2 6 7 5  
 憶山樵夫(おくざんしょうふ) → 忠雄(ただお・岩崎いわさき、神職/教育) V 2 6 7 5  
 奥島(おくしま・阿部/安倍?) → 奥島(おきしま・阿部、万葉歌人) 1 4 7 0
- D1468 屋勝(おくしょう・津田つた、別号;道意)?-? 撰津池田の俳人、  
 1676西鶴「古今俳諧師手鑑」入、  
 [四方山を塗つたり剥げたり春の雪](手鑑/まだら状態:形成により言を変える)  
 屋信(おくしん・羽多野) → 屋信(いえのぶ・羽多野はたの、神職) E 1 1 9 3

- 臆蔵(億蔵おくぞう・松永)→ 国華(こっか・松永まつなが、藩士/儒/国学) G 1 9 5 4  
 屋烏(おくちよう) → 屋烏(おくう・千坊三世、石井) B 1 4 4 6  
 億弟(おくてい・里村) → 仍民(じょうみん・里村; 北家/紹山、連歌師) B 2 2 6 6  
 億内(おくない・高宮/最上)→ 徳内(とくない・最上もがみ、探検家/紀行) L 3 1 2 5
- 1414 阿国(お国おくに・出雲) ? - ? 1607存 歌舞伎創始者?、農民・出雲大社の巫女を自称?、  
 出自不明; 大和興福寺付属散所の声聞師系歩き巫女説/時宗系鉦打聖説など、  
 1588出雲大社女神子を名告り京でややこ踊・念仏踊/1603北野社境内で歌舞伎踊を演じ評判、  
 1607江戸勸進興行/12北野社興行、名古屋山三郎/狂言師三十郎/鼓打三九郎との交渉説話
- B1477 奥手逃道(奥手逃路おくのてのにげみち)?-? 浪花狂歌: 小石川連、1787才蔵集1首: 531  
 浪花川柳の松鱸社中、狂句会催、1824「浪華柳多留」編(悠々館大人選/大阪川柳風狂句最初)  
 [見物の廓にお茶をひく女郎客の手前もはづかしき哉](才蔵集: 531/傾城述懐)
- 奥坊(おくのぼう; 号) → 宗典(そうてん; 法諱、真言醍醐寺僧) I 2 5 5 7  
 奥細道(おくのほそみち) → 細道(ほそみち・浅竜庵、医者/狂歌) E 3 9 4 3  
 億舎(おくのや・豊田) → 長教(ながあつ・豊田とよだ/本姓; 平、国学) K 3 2 4 2  
 屋苗(おくびよう) → 屋苗(おくみよう; 法名、曹洞僧) D 1 4 0 5  
 男熊(おぐま・市川) → 文字大夫(4世もじだゆう・常盤津、音曲/作曲) B 4 4 2 0  
 小熊太夫(おくまだゆう・竹本)→ 弥太夫(5世やだゆう・竹本、浄瑠璃太夫) D 4 5 7 1
- B1447 億丸(おくまる) ? - ? 江戸俳人、1676蝶々子「誹諧当世男」入  
 億丸(おくまる→あわざまる) → 億丸(あわざまる・秦はた/村上、探検家) F 1 0 9 4
- 1478 億麿(億丸おくまる・森本もりもと、別号; 長父ちようふ、蟻道ありみちの弟)?-? 撰津伊丹の酒造業/俳人: 才麿門、  
 百丸の一族、1712蟻道一周忌追悼「鉢扣はちたたき」: 甥花天と共編、1714月尋「酒壺五歌仙」入、  
 1714月尋「伊丹発句合」参加(才麿判)、  
 [花の香の杖をなでてや衣更へ](伊丹発句合; 八番)
- 奥道(おくみち・安倍) → 奥道(息道おきみち・安倍、万葉歌人) 1 4 7 7
- D1405 屋苗(おくみよう; 法名) ? - ? 江戸後期信濃佐久郡前山曹洞僧、  
 貞祥寺21世晦堂義秀の侍者、「晦堂義秀語録」編
- お久免の方(おくめのかた) → 久免(くめ・稲葉、吉宗側室/歌人) D 1 7 4 4  
 奥守(おくもり・大神) → 奥守(おきもり・大神おのみわ、万葉歌人) 1 4 3 3  
 奥守(おくもり→おきもり・遠藤)→ 正範(まさのり・遠藤えんどう、神職) O 4 0 0 5  
 億誉(おくよ・万蓮社) → 十思覚(じゅうしかく、浄土僧/歌人) a 2 1 6 5
- 1415 億良(おくら・山上臣やまのうえのおみ、山於億良) 660?-733? 出自; 天智天武侍医渡来人憶仁の男説あり、  
 廷臣; 690紀伊行幸従駕・川島皇子の歌代作/701遣唐少録/702入唐、帰国後414従五下、  
 716伯耆守/721東宮首皇子(聖武)侍講/726?筑前守; 帥旅人との交流; 筑紫歌壇の中心、  
 732頃帰京、詩文/歌、万葉三期歌人; 万葉集80首(長歌11/短歌68/旋頭1/詩2/漢文1)、  
 「類聚歌林」編、新古(898)下5首、
- 億礼福留(おくらいふくる) → 福留(ふくる・億礼、百濟人/兵法家) G 3 8 3 7  
 小倉山房(おぐらさんぼう) → 天籟(てんらい・館たち/齋藤、藩士/儒者) E 3 0 5 2  
 小倉親王(おぐらしんのう) → 兼明親王(かねあきらしんのう) 1 5 2 8  
 小倉大納言(おぐらだいなごん)→ 実教(さねのり・小倉、富小路) D 2 0 4 3  
 小倉殿(おぐらどの) → 光厳天皇(こうごんてんのう、北朝初即位/歌人) B 1 9 0 9
- 1479 億良大夫之男(おくらのまえつきみのおのこ・山上臣やまのうえのおみ、億良男)?-? 万葉四期歌人、万葉十八4065  
 [朝開き入江漕ぐなる梶の音のつばらつばらに我家わぎへし思ほゆ](万十八4065)
- 小倉宮(おぐらのみや) → 兼明親王(かねあきらしんのう) 1 5 2 8  
 小栗栖律師(おぐらすのりし)→ 常晔(じょうぎよう; 法諱、真言・三論僧) I 2 2 0 5
- 1480 小黒栖(おぐらす/おぐらす・津守宿禰つものすくね)?-? 755下野国防人、万葉廿4377、  
 [母刀自あもとじも玉にもがもや頂いただきて角髪みづらのなかにあへ纏まかまくも]、  
 (万葉; 4377/母が玉なら頭髮に巻いて行きたい)
- 阿薫(おくん) → 花子(華子はなこ・猪飼、歌人) F 3 6 4 3  
 袁祢王(おけのおおきみ、弘計天皇をけのすめらみこと)→ 顕宗天皇(けんそうてんのう) C 1 8 5 7
- D1477 朧(おけら・相沢あいざわ/旧姓; 石川) 1825-190480 越後魚沼郡の生、医学; 成田宗信門、

1847(弘化4)三河西尾藩侍医相沢良安女の扇子せんこと結婚;婿養子、  
1853(嘉永6)三河西尾藩侍医、歌人;井上文雄・加藤千浪・佐々木弘綱門、  
歌集「雪廼舎集」著、「脚気治験録」「東京名所鑑」著、  
[朮(;名)の別名/通称/号]別名;高尚、通称;富蔵、号;玄英/周碩/湛庵/雪廼舎/雪溪

妻 → 扇子(せんこ・相沢あいざわ、歌人) N 2 4 9 6

於庫(おこ・佐竹/多賀谷) → 貞鏡尼(ていきょうに;法名、歌人) 3 0 6 0

於古足(おこたり) → 物延於古足(もののべのおこたり、狂歌) E 4 4 8 7

於古代の方(おこよのかた) → はしき子(はしきこ・松平まつだいら/永石、藩主妻/歌) K 3 6 8 1

長(おさ・植村) → 貞(さだ・於貞・植村うえむら、藩主室/歌) N 2 0 9 6

お佐井の方(おさいのかた) → 義直側室(よしなおのそくしつ・徳川、歌人) O 4 7 0 2

E1408 **小棹**(おさお・樋口ひぐち、真木保臣女) 1839-1925<sup>84</sup> 母;睦、筑後久留米の歌人、主馬の妹/菊四郎の姉、  
父保臣(1813-64自刃)は水天宮神官・国学・歌人・勤王家、

1481 **忍坂王**(おさかののおきみ) ? - ? 761従五下、万葉集中人物:八1594仏唱歌左注・弾琴ことひき  
刑部(おさかべ・檜垣) → 常倚(つねより・檜垣/度会、神職/日記) E 2 9 2 9

1435 **忍壁皇子**(刑部-おさかべのみこ、天武帝皇子) 657?-705 母;穴人臣大麻呂女櫛媛娘かじひめのいらつめ、  
泊瀬部皇女はつせべのひめみこ・多紀皇女と同母、679六皇子盟/681帝紀及上古諸事の記定参加、  
703知太政官事、万葉集中人物:人麿献呈歌194-5/235/1682

参考 → 帝紀及上古諸事の記定者(ていきおよびじょうこしよじのきていしゃ)

D1499 **紀季**(おきすえ・高丘たかおか、弾正少弼高丘益季男) 1832-95<sup>64</sup> 廷臣;従二位/兵部大輔ひょうぶのたいふ、  
国学者、妻;猪熊恒子(-1878/猪熊慶歎女)、紀子・礼季・栄子・政子・直季節・治季の父、  
維新後;1884子爵、

[紀季(;名)の通称] 兵部大輔/殿掌

於貞(おさだ・植村) → 貞(さだ・於貞・植村うえむら、藩主室/歌) N 2 0 9 6

長田王(おさだのおきみ) → 長田王(ながたのおきみ、万葉歌人) 3 2 0 9

1482 **他田広津娘子**(おさだのひろつのおとめ/-ひろきつのおとめ・池田広津娘子) ?-? 奈良期女官?、万葉四期歌人;  
卷八1652・1659:家持をめぐる女性

[真木の上に降り置ける雪のしくしくも思ほゆるかもさ夜間へわが背](万;冬相聞1659)

長直(おさなお・小笠原) → 長直(ながなお・小笠原、幕臣) F 3 2 0 1

D1472 **養信**(おさのぶ/たけのぶ・狩野かのう、栄信[伊川]長男) 1796-1846<sup>51</sup> 母;稲葉家家臣の松尾多宮直常の女、  
江戸木挽町家狩野派9代の絵師、1810(15歳)江戸城出仕;幕府奥絵師、画法;父門、  
没年まで奥絵師36年間の「公用日記」著、

1813將軍家慶長男竹千代を憚り[たけのぶ]を[おさのぶ]に改名、14竹千代没;法号玉樹院、  
玉川を憚り晴川に改号、1819(文政2)法眼/28(文政11)父没;家督継嗣/34(天保5)法印、  
1838(天保9)-39江戸城西の丸御殿・1844(天保15)-46(弘化3)本丸御殿の障壁画再建指揮、  
模写に熱心;絵巻150巻・名画等5百点以上;後世の貴重な資料となる、  
多作;狩野派最後の名手とされる、

「歌意絵図」「源氏図」「西園雅集」「玉川図」「草木縮図」「諸縮図」「船写生図」「普門品図」画、  
「浅草西本願寺什物図」「渋谷祥雲寺什物及襖之絵」「藤堂和泉守殿染井下屋敷図」外画多数、  
朝岡興禎・狩野董川中信・狩野永恵立信の兄、狩野雅信の父、

歌;蜂屋光世「大江戸倭歌集」(1858成立)入、

[末遠き千年ちとせの秋の契りをもかけてぞむすぶ露の白菊](大江戸倭歌;960菊契千代)、

[養信(;名)の通称/号]通称;庄三郎、号;会心斎/玉川/晴川、法号;晴川院

養信の門弟;狩野芳崖/橋本雅邦/中山養福/三村晴山/新井晴峰/糺晴岱/狩野養長など

統仁(おさひと;名) → 孝明天皇(こうめいてんのう、歌人) B 1 9 9 4

B1448 **長仁親王**(おさひとしんのう・八条宮、後西天皇皇子) 1655-75<sup>早世21歳</sup> 歌、「長仁親王詠草」著

D1406 **長敬**(おさひろ・佐久間さくま、長興男) 1838-1923<sup>86</sup> 江戸八丁堀の生/幕臣;1850御番諸役無足見習、  
吟味役/町奉行支配調役兼与力、維新後;司法権小判事/足柄裁判所長/東京裁判所勤務、  
「嘉永日記抄」、1858「吟味の口伝」著、

[長敬(;名)の通称] 弥太吉/鍵三郎/建三郎

D1407 **平佐丸**(おさまる・鶴廼屋つるのや/紀、本姓;野里のざと、通称;浅田屋宗兵衛) ?-1839 撰津桜井谷の商人、

狂歌作者、江戸;五側の判者/帰郷し摂津に狂歌を拡張、老後は大阪谷町住、  
1813「狂歌五十人一首」、1821「狂歌水面集」30「狂歌金太郎百首」32「狂歌五百題集」編、  
1836「歌舞伎狂言題狂歌集」編

江戸の紀尾佐丸との関係?→ 紀尾佐丸(きのおさまる・諫鼓堂、狂歌) L 1 6 7 4

長丸(おさまる・榎並) → 長丸(ちようまる・榎並、貞富男、狂歌) J 2 8 8 8

尾佐丸(おさまる・紀/諫鼓堂)→ 紀尾佐丸(きのおさまる・諫鼓堂、狂歌) L 1 6 7 4

D1497 釐(おさむ・仙石せんごく、)1750-1837 88 陸奥盛岡の生/宮古の代官、国学者、  
[釐(;名)の通称] 文蔵/新六/伊右衛門/文左衛門/源右衛門

D1408 畜(おさむ・矢部やべ、大国屋養三郎)?-? 江後期伊予今治歌人、1808「奉納千首和歌」著

D1409 脩(おさむ・小林こばやし、通称;綱平/号;孤雲)?-? 江後期播磨医者、1817「瘡科医談」著

修(おさむ・竹村) → 東野(とうや・竹村、儒者) H 3 1 5 2

修(おさむ・前田) → 梅洞(ばいどう・前田まへだ、藩士/儒者) B 3 6 9 1

修(おさむ・尾崎) → 称斎(しょうさい・尾崎おさき、藩儒者/教育) S 2 2 3 2

修(おさむ・梅本/川合) → 梅所(ばいしょ・川合/梅本、藩士/儒者) B 3 6 5 5

修(おさむ・深井) → 象山(しょうざん・深井、藩士/兵学/歌人) J 2 2 2 6

修(おさむ・船曳) → 卓堂(たくどう・船曳ふなびき、医者) H 2 6 7 0

修(おさむ・飯尾/江馬) → 榴園(りゅうえん・江馬えま/飯尾、蘭医) D 4 9 0 3

修(おさむ・上田) → 堂山(どうざん・上田うへだ、酒造業/詩歌) E 3 1 7 0

脩(おさむ・内田) → 公均(こうきん・内田、漢学者;詩) E 1 9 9 6

脩(おさむ・森) → 良胤(よしたね・森もり/源、国学者) E 4 7 3 8

収(おさむ・井内) → 南涯(なんがい・井内いうち、藩士/儒者) I 3 2 7 0

臧(おさむ・藤井) → 懶斎(らんさい・藤井ふじい、医/儒者) 4 8 0 8

押合(おしあい・目白) → 目白押合(めじろのおしあい、狂歌) 4 3 5 0

D1410 小塩(おしお・盛田もりた) ? - ? 江後期文化文政1804-30頃京大原の戯作者;  
読本・洒落本・滑稽本作者、1807「完義武逸談」「倭琴高誌」「柳可美」/08「石井物語」、  
1808-09「脚栗毛」「足毛識あしけのたむれ」26「鶏が啼東都暁」32「窃潜妻」著、  
[盛田小塩(;号)の別号] 千世蔭山人

小鹿(おしか・紀) → 紀女郎(きのいらつめ、万葉四期歌人) 1 6 2 4

雄鹿(おじか・三室) → 三室雄鹿(みむろのおじか、狂歌作者) H 4 1 0 2

牡鹿輔(おじかすけ→しかすけ) → 牡鹿輔(しかすけ・松岡、藩士/国学者) P 2 1 8 2

1416 押勝(おしかつ・恵美えみ、藤原朝臣仲麻呂、武智麻呂男)706-764 斬死 59 光明皇后の信任を得て専制、  
749大納言兼紫微令;橘氏勢力を排除/757紫微内相;758淳仁擁立即位、恵美押勝と改名、  
760大師(太政大臣)/761正一位、764道鏡と争い反乱;近江で捕縛斬罪、  
「家伝」著、万葉四期歌人2首;4242/4487、3926左注/4494題

[いざ子ども狂たはわざなせそ天地あめつちの堅めし国そ大和島根は](万葉二十4487)

1483 忍熊王(おしくまのみこ、仲哀天皇皇子)?-? 母;彦人大兄(大江王)の女大中姫おおなかつひめ、  
父の死後兄麿坂王かごさかのみこと義母神功皇后に謀反/皇后軍に追われ琵琶湖に入水、  
記紀歌謡詠者;記38/紀29

[いざ吾君あぎ振熊ふるくまが痛手負はずは鳩鳥にほどの淡海あふみの海に潜かづきせなわ]

(振熊は皇后軍の将軍、古事記仲哀記)

押小路斎院(おしこうじのさいいん)→ 正子内親王(しょうしなないしんのう、後朱雀院皇女) S 2 2 8 0

押小路前内大臣(おしこうじさきのないだいじん:新千載)→ 公茂(きんもち・きんしげ・三条) E 1 6 7 7

押小路殿(おしこうじどの) → 義嗣(よしつぐ・足利/源、武将/歌人) E 4 7 6 2

忍介(おしすけ・野村) → 忍介(にんすけ/おしすけ・野村のむら/折田、藩士/軍人/詩歌) H 3 3 3 2

E1421 小稻(おしね・山田やまだ、通称;栄吉)?-? 江後期;紀伊田辺の国学者/歌人、  
国学・歌;本居内遠(1792-1855)・加納諸平(1806-57)・熊代繁里(1818-76)門

D1498 小稻(おしね・田中たなか、)1840- 1896 57 越後新潟の商家/和漢学者;浅見安景門、  
戊辰戦の越後の殉節碑に鎮魂の詩歌を奉納、  
[小稻(;名)の通称/号]通称;重平、号;苦屋鶯寝、屋号;油屋

- D1454 **押強**(おしのつよき) ? - ? 狂歌;1787「才蔵集」入;313;  
[出るよりも内を忘れぬ草枕いくたびとなくねがへりやせん]
- B1449 **忍やまの山人**(おしやまのやまひと)?-? 京の商人/俳人;季吟門、1671「牛刀毎公編」著
- B1450 **お杉・お玉**(おすぎ・おたま) ? - ? 女芸人、歌謡「相の山」節の祖、  
伊勢間の山で三味線歌  
おすめ(橋本) → 常子(つね・橋本、和宮母/記録) C 2 9 0 7  
小関検校(おせきけんぎょう) → 千歳一(ちとせいち・小関おせき、音曲家) F 2 8 0 6
- B1482 **お仙**(おせん・笠森) ? - ? 谷中笠森稻荷の水茶屋の美人娘;浮世絵で評判、  
1868南畝「半日閑話」にお藤と比較している  
阿鱧(おせん・東) → 嘯春尼(しょうしゅんに・東ひがし/宇井、儒者) V 2 2 1 7  
淤足斎(おそくさい) → 愚仏(ぐぶつ、漢詩人) B 1 7 0 2  
於曾磨(おそまろ・中島) → 広足(ひろたり・中島/越智、藩士/国学者) 3 7 2 1  
遅道(平曾道おそみち・紀) → 紀之遅道(紀平曾道きのおそみち、狂歌) L 1 6 7 5
- B1483 **遅蒔千種**(おそまきのちたね) ? - ? 江戸狂歌作者;朱楽連、1785「後万載集」6首/「才蔵集」入、  
[春ながら寒さに花のかじけ咲をりて火桶にいけ田炭かな](後万載;47)、  
(撰津池田は酒と炭の産地/[池田から炭くれし春の寒さかな;蕪村遺稿])  
於田(おだ・服部はとりべ) → 於田(うえだ・服部、万葉防人) 1 2 0 0
- 1436 **小鯛王**(おだいのおおきみ/こだい-臣籍;置始多久美[工]おきそめのたくみ) ?-? 神亀年間(724-9)頃の廷臣、  
六人部王・長田王・石川君子らと風流侍従と称(藤氏家伝)、万葉三期歌;十六2首・3819-20  
[夕立の雨うち降れば春日野の尾花が末うれの白露思ほゆ](万葉;3819)
- C1421 **穂天竺竹光**(おだいしょうたけみつ、水野太助彦藤原基経女歌離中宮) B 1 4 2 6
- D1411 **於鷹**(おたか) ? - ? 京の俳人/雑俳;笠付  
お高(於高おたか・石原) → 善兵衛(ぜんべえ・石原、商家/俳人;雑俳) N 2 4 0 9
- D1412 **尾高検校**(おだかけんぎょう・おぎ一)?-? 平曲;1741検校、当道座資料「当道要集」第一部編
- 1484 **小龍**(おたつ・占部うらべ) ? - ? 755防人/常陸国茨木郡、万葉廿4367、  
[吾が面もての忘れも時じは筑波嶺をふり放さけ見つつ妹はしぬはね]、  
(万葉;4367/顔を忘れかけたら筑波山を見て思い出してください)
- D1495 **小楯**(おたて・志自岐じき、本姓;鎌輿) 1811-1907長寿97歳 肥前平戸藩士;壱岐の城代、  
国学/歌学;橘守部・冬照ふゆてる(守部男)門、遠州流の插花・千家の茶道を修得、風雅人、  
[小楯(;名)の別名/通称/号]別名;光治、通称;主税ちから/喜左衛門、号;間翁/閑斎
- D1496 **小楯**(おたて・菅原すがら、旧姓;平谷/本姓;上甲) 1837-191376 伊予宇和郡蔵貫浦の神職家の生、  
和漢学;八幡浜清家堅庭かたにわ・山内老墓・松山三輪田元綱門、維新後;上京/神祇官に出仕、  
帰郷;宇和島藩皇学掛/大三島神社神主、歌人、  
[小楯(;名)の通称]主膳/大舍人
- B1451 **雄楯乗康**(おだてののりやす、信楽氏)?-? 狂歌師、1828定岡ていこう「猿著聞集」入  
阿胤(おたね・伊達) → 敷子(とんこ・池田/伊達、藩主室/歌人) M 3 1 3 7  
お多福半四郎(おたふくはんしろう) → 半四郎(4世はんしろう・岩井いかい、歌舞伎役者) I 3 6 0 3
- B1452 **於田福平**(おたふくへい、本名不詳)?-? 滑稽本、1785「浮人形水中談」著
- D1455 **をだまきのしづ子**(おだまきのしづこ)?-? 狂歌;1787「狂歌才蔵集」入  
[よろこびのこぼれ松の葉かんざしのかざしに挿して幾千代も経ん](才蔵集;九347)  
於民(おたみ・羽倉/荷田) → 蒼生子(たみこ・荷田かた、国学/歌人) G 2 6 5 8  
小田守(おだもり・園村) → 保尚(やすなお・園村そのむら、藩士/国学者) G 4 5 1 5
- 1485 **小足**(少足あたり・波多朝臣はたのおそみ)?-? 万葉三期歌人、卷三314(:724-9年頃の作)  
[さざれ浪なみ磯越道いそこぢなる能登湍川のとせがわ音のさやけさたぎつ瀬ごとに](万314)  
小田原迎接房(おだわらごうしょうぼう) → 教懐(きょうかい;法諱、真言念仏僧/高野聖祖) I 1 3 1 6  
小田原聖人(おだわらしょうにん) → 教懐(きょうかい、真言僧/高野聖祖) I 1 3 1 6  
小田原屋(おだわらや) → 梅壽(ばいじゅ・梅沢うめざわ、書肆/俳人) B 3 6 4 4
- 1486 **彼方**(おちかた・村氏そんし:村上・村国・村山などの略か?) ?-? 奈良期廷臣;730頃壱岐目いきのさかん、  
万葉三期歌五840:(730年旅人の梅花宴に参加)、

[春柳葎かづらに折りし梅の花誰か浮べし酒杯さかぎの上へに] (万葉;840)

遠方(おちかた・加賀美) → 此一(いち・加賀美/加々美かがみ/於曾おそ、藩士/俳人) P 2 1 5 8  
落栗庵(おちぐりあん) → 元木綱(もとのもくあみ・渡辺、狂歌師) D 4 4 7 5  
落栗庵木綱(2世おちぐりあんもくあみ) → 春馬(初世しゅんば・三亭、戯作者/狂歌) 2 1 6 5  
遠近道印(おちこちどういん) → 道印(どういん・遠近おちこち、藤井、藩医/測量) B 3 1 1 0  
於千瀬之方(おちせのかた) → 遊子(ゆうこ・松平/三浦、中藺/歌人) B 4 6 5 4

B1409 遠智娘(おちのいらつめ、蘇我倉山田石川麿女、)?-? 天智天皇夫人、持統天皇の母、  
天智天皇崩御の挽歌154(石川夫人)の作者説の一人、別名;造媛みやつこひめ・美濃津子娘  
参照 → 石川夫人(いしかわのぶにん) 1 1 8 9

D1413 越知人(おちひと・石川) ? - ?846存 平安期廷臣;兵部少輔、846遠江守、詩;経国集入  
越智夢吉(おちゆめきち) → 鉄兜(てつとう・河野、医/儒/詩歌) C 3 0 5 7  
於千代(おちよ・松平) → 千代子(ちよこ・松平まつだいら/井伊、藩主室) N 2 8 5 5  
乙(おつ→おと) → 乙(おと・壬生みぶ、歌人) B 1 4 9 7

1417 お通(おつう・小野おの、名;津宇つう/うう、小野正秀女) 1558-1616/31?59-74 父は美濃北方領主、  
歌・書画に長ず、父の滅亡後上洛/文筆をもって信長・秀吉・に出仕;淀君・千姫の右筆、  
東福門院に出仕/のち真田信政の妻;一子を生む、伝:浄瑠璃12段草子の作者、  
1684西鶴「俳諧女哥仙にょかせん」入、生没には異伝多し、  
[執心しうしんの角つものはゆへき女鹿かな](女哥仙;4/恋慕・嫉妬で角も生える)  
乙々坊(おつおつぼう) → 卓五(たくご・端山はやま、医者/俳諧) N 2 6 9 7

D1414 乙芽(おつが・角野かどの、名;道寛/通称峯治郎、別号;嚶堂)?-? 江戸座俳人;冬映側に属す、  
1847「ゆくとし」編

D1415 乙外(おつがい・神田かんだ) ? - ? 江戸中期美濃の俳人、五竹坊門、1777「美濃」編

D1416 乙貫(おつかん・服部はっとり) ? - ? 淡路の俳人、嵐雪五十回忌に一葉塚建立、  
1786「おのころしま集」、56「一葉塚」編

1418 緒嗣(おつぐ・藤原ぶじわら、百川男/、贈号山本大臣) 773-843 71歳 母;伊勢大津女、平安前期廷臣;  
801右衛門督、802神泉苑にて倭琴を弾く;桓武天皇泣涕、802参議/807畿内観察使、  
808東海道観察使、814宮内卿/民部卿/817権中納言/821大納言/825右大臣/東宮傅、  
832左大臣/正二位、815「新撰姓氏録」万多親王らと共編/840「日本後紀」冬嗣らと共編  
乙乎(おつこ、俳人) → 董堂(とうどう・中井/井、商家/詩/狂歌) G 3 1 7 8

D1417 乙語(おつご・佐方さかた、名;武信、香山半太夫男/佐竹氏嗣) 1701-67 67 肥後宇土藩士、俳人;乙明門、  
のち廬元坊門、1732-39江戸藩邸詰/40致仕、肥後で余生、「俳諧不知火」著、  
[乙語の通称/別号] 通称;作左衛門/平蔵、別号;斜日堂/半夜亭/二竜窟/発々子

乙孝(おつこう) → 乙孝(おとたか・路草亭、俳人) 1 4 9 0

乙孝(おつこう→おとたか) → 路草(ろそう・久保倉、乙孝/神職/俳人) C 5 2 0 7

乙五郎(おつごろう・石川) → 安亭(あんてい・石川いしかわ、儒者) G 1 0 1 7

乙五郎(おつごろう・梅畑) → 如淵外史(じょえんがいし、戯作者) M 2 2 1 7

乙三郎(おつさぶろう・京極) → 高明(たかあきら・京極/水野、幕臣/詩人) L 2 6 5 0

1487 乙児(おつじ/おとし・松木/初め矢入) 1724-72 49 駿府の富商矢入家の出身/医師松木玄通の養子、  
俳人;1751頃蓼太門、駿府吉原に六花庵を結ぶ/1762剃髪、62「ちから竹」「恋しいか」著、  
1764「頭陀にしき」67「四十四」著、68「行もとり」71「伊豆十二歌仙」編、  
1774「大和巡礼」「六花庵往来集」編、几董「続明鳥」1句入、六花庵2世は官鼠/3世は雁赤、  
[何となく二月になりし柳哉](続明鳥;38)、  
[乙児の幼名/通称/別号] 幼名;矢入市五郎、通称;五郎右衛門、  
別号;陶/初世六花庵/夕暮ゆぶぐれ坊

B1453 乙路(おつじ) ? - ? 江中期;近江日野の俳人、  
1763涼袋「古今俳諧明題集」41句入

乙二(おつじ) → 乙二(おつに・岩間、修験僧/俳人) 1 4 1 9

乙次(おつじ・石井) → 貞興(さだおき・石井いしい/櫛山、藩士/歌) N 2 0 8 4

乙事山人(おつじさんじん) → 耐軒(たいけん・乙骨おつこつ/鳥羽、儒/詩) B 2 6 3 0

乙侍従(おつじじゅう→おとしじゅう) → 相模(さがみ、歌人) 2 0 1 1

- 越宗(おっしゅう;法諱、蘭陵)→ 蘭陵(らんりょう;道号・越宗、曹洞僧) D 4 8 2 8  
越宗(おっしゅう;法諱) → 仏灯(ぶつとう;道号・越宗、曹洞僧) H 3 8 4 7  
乙州(おっしゅう) → 乙州(おとくに・川井/河合、俳人) 1 4 8 9  
乙菟齋(おっしゅうさい) → 嵐窓(らんそう・円城寺えんじょうじ、藩軍学師範/俳人) C 4 8 8 7
- D1418 乙序(おつじよ) ? - ? 江中期俳人;1776樗良「月の夜」1句入、  
[陽炎かげらふに羽はを打つ蝶の長閑のどかかな](月の夜;102)
- D1419 乙人(おつじん・松永まつなが、名;礼蔵、通称;武左衛門/別号;枸杞庵)1784-185976 上州奈良村の農業、  
俳人/浄瑠璃を嗜む、「葛芽集」編、「としなみ集」「月なみ集」「鎌倉紅煤接木英」編  
乙生(おつせい・山田) → 梅村(ばいそん・山田やまだ、儒者/詩人) B 3 6 7 7
- D1420 乙仙(おつせん) ? - ? 江中期俳人;1772几董「其雪影」1句入、  
[我影を捜す老木の柳哉](其雪影;246/風に揺れるまばらな枝は時々影と重なる)  
乙総(おつそう) → 乙総(おとふさ・芦田、俳人) D 1 4 3 0  
楡邨(おつそん・小杉) → 楡邨(すぎむら・小杉こすぎ、国学/歌人) B 2 3 6 6
- D1421 乙澄(おつちよう) ? - ? 江中期俳人;巴人門?、1732巴人「卯花千句」参加  
乙鳥先生(おつちようせんせい/つばくろ-) → 宣道(のりみち・岩間いわま、歌人) F 3 5 8 6
- D1422 乙汀(おつてい) ? - ? 江前期加賀俳人;1690言水「新撰都曲」入  
乙艇(おつてい→いってい;道号) → 元津(げんしん;法諱・乙艇、黄檗僧) K 1 8 1 8
- D1423 乙堂(おつどう・倉沢くらさわ、名;直昌)?-? 江後期信州上田の酒造業/名主、俳人;士朗門、  
自宅に滞在中死去した加賀俳人元室の七回忌追善集「百佗」著(1811刊行)  
乙兎齋(おつとさい) → 嵐窓(らんそう・円城寺えんじょうじ、藩軍学師範/俳人) C 4 8 8 7
- D1424 小縄(小継おつな・宇治土公磯部うじつちぎみそべ)?-? 平安初期の神職、810外少初位現叙、  
内宮大内人、804「皇太神宮儀式帖」「太神宮儀式帖」著
- 1419 乙二(おつに・岩間いわま/本姓;亘理、名;清雄、住職清馨[麦羅ばくら]男)1756-182368 奥羽白石修験僧、  
白石千手院10世住職/権大僧都、俳人;父麦羅門、1803江戸/10-13・18-20蝦夷函館行脚、  
函館に斧の柄社結社;俳諧指導、晩年越路行脚、1795丈左「八僊歌」入、1804「畑芽はげざり」  
1810「箱館紀行」11「斧の柄」14「乙二句帖」23「松窓句集」、「松窓句集続編」「松窓俳則」著  
「発句手爾葉草」「松窓乙二発句集」著、「たつき集」「俳諧蕉門句撰」編/「松窓翁反故」外多数、  
[春雨や木この間に見ゆる海の道](松窓乙二発句集)、  
[乙二(;号)の別号] 松窓、  
父は俳人 → 麦羅(麦蘿ばくら・岩間清馨、修験僧) E 3 6 0 2  
息女きよも俳人 → 溶々(ようよう・岩間/松井、俳人) B 4 7 5 9  
息子十竹も俳人 → 十竹(じゅちく・岩間、俳人) U 2 1 9 2  
息子竹山は詩人 → 竹山(ちくざん・松井、医者/詩人) D 2 8 0 8
- D1473 乙二(おつに・宍戸しじ) ? - ? 長門萩藩士;大組士、俳人;菖蒲庵継嗣;2世、  
[乙二(;名)の号]桃戎(とうじゅう)/娯中坊/一二坊  
桃戎(とうじゅう・宍戸) → 乙二(おつに・宍戸しじ、藩士/俳人) D 1 4 7 3  
小角(おつぬ・おつぬ・役えん) → 役行者(えんのぎょうじゃ、修験道の祖) B 1 3 3 2  
乙之助(おつのおすけ・唐崎) → 広陵((こうりょう・唐崎からさき、儒者/詩人) G 1 9 4 4  
乙平(おつへい→乙乎おつこ、俳人) → 董堂(とうどう・中井/井、商家/詩/狂歌) G 3 1 7 8  
乙馬(おつま・以心庵) → 範房(のりふさ・堤つみ、藩士/歌人) F 3 5 7 0
- 1420 乙由(おつゆう・中川ながわ、名;宗勝、勝久男)1674?-173966? 伊勢川崎の木材商/伊勢神宮の御師、  
風雅に耽り傾産、俳人;芭蕉・涼菟門、伊勢俳壇で活躍;麦林派と称され全国的勢力、  
1715雲鈴「笈之若葉おいわかば」入、「芭蕉翁名吟句解集」「麦林六会歌仙」著、  
没後;「麦林集」(1739息麦浪編)、「麦林集後篇」(1759五々齋素道編)  
追善集;3回忌「秋のかぜ」13回忌「月の夕」17回忌「梅のしづく」外、  
[うき草や今朝はあちらの岸に咲く](麦林集)、  
[乙由の通称/別号]通称;利右衛門、別号;麦林/麦林舎ばくりんしゃ/梅我、屋号;新屋  
阿鶴(おつろ・岩室) → 磐代(いわしろ・大江おおえ/岩室/橘/天皇生母) K 1 1 0 3  
阿鉦(おつろ・伊達) → 包子(かねこ・伊達だて/岩間、藩主側室/歌) U 1 5 9 0  
乙路(おつろ) → 乙路(おつじ、俳人) B 1 4 5 3

- B1484 **お伝**(おでん・竹本たけもと) ? - ? 江後期女義太夫語り/  
 奔放: あんばいよしと称される、1860「多語戯雑紙」入
- B1497 **乙**(おと・壬生みぶ、益成よしなり女)?-? 平安期歌人、父益成は888遠江介/従五下、  
 古今413; 東より上京時の歌、  
 [山かくす春の霞ぞうらめしきいづれ都のさかひなるらむ](古今集九; 羈旅413)  
 於菟(おと・西岡) → 天津(てんしん・西岡、儒者) D 3 0 8 9  
 於菟(おと・安西) → 雲煙(-烟うんえん・安西あんざい、書画鑑定) D 1 2 5 7
- B1485 **乙魚**(おとうお・常世つねよ) ? - ? 平安前期雅楽の舞人:  
 弘仁期810-24清上「秋風楽」に舞付け  
 音羽助(おとうすけ) → 羽助(うすけ・音おと、歌舞伎作者) C 1 2 9 1  
 音羽助(2世おとうすけ) → 和助(わすけ・音/沢田屋、歌舞伎作者) 5 3 3 5  
 弟上娘子(おとがみのおとめ・狭野) → 茅上娘子(ちがみのおとめ・狭野さの、万葉歌人) 2 8 0 7  
 お伽(おとぎ・三村) → 常和(2代じょうわ・三村みづら、絵師) V 2 2 2 5  
 乙吉(おとさち・鶴舎) → 有節(ありとき・鶴舎つるや/武田、国学/俳) F 1 0 4 9  
 乙吉(おとさち・平野) → 国臣(くにのみ・平野/大中臣/小金丸、国学/勤王/歌) 1 7 0 6  
 乙吉(於兔吉おとさち・三浦) → 元苗(もとなえ・三浦みうら、藩家老/歌) L 4 4 4 6  
 於兔吉(おとさち・齋藤) → 其湛(つねやす・齋藤さいとう、酒造業/歌人) F 2 9 7 3  
 阿德(おとく・添田/津軽) → 与曾子(よそこ・津軽つがる/添田、側室/歌) N 4 7 9 2
- 1489 **乙州**(おとくに・河合/川井かゝい、山岡伝兵衛男) 1657-1720 64歳 河合智月の弟/その養嗣子;  
 大津の荷問屋、俳人; 尚白門/のち芭蕉門、芭蕉を後援; 商用旅で蕉風伝播、  
 1694師の終焉をみる、  
 初出は「孤松」入/「前後園」入、1690「ひさご」参加/90言水「新撰都曲」・之道「あめ子」入、  
 1691北枝「卯辰集」29句入、1704「それぞれ草」編、09「笈小文」刊行、  
 [この儘まに罪つくる身の日は永ながし](卯辰集; 157/俗人として生きる春の日は永い)、  
 [乙州の通称/別号]通称; 又七/次郎助、別号; 設楽堂/杵々庵/観桂阪散人、妻荷月も俳人  
 姉(養母)も俳人 → 智月(ちげつ、河合佐右衛門妻/俳人) E 2 8 0 2  
 音熊(おとくま・長岡) → 秋道(あきみち・長岡/栗田、神職/歌) I 1 0 1 6  
 乙九郎(おとくろう・藤村) → 直弘(なおひろ・藤村、書画・俳諧) C 3 2 3 0
- D1425 **弟越**(おとし・高丘たかおか、姓; 宿禰)?-? 平安前期廷臣、812山城介、嵯峨天皇主催文事に参加、  
 詩人; 凌雲集入  
 於菟五郎(おとごろう・水野) → 忠邦(ただくに・水野、天保改革/詩歌) F 2 6 0 5  
 乙五郎(おとごろう・梅畑) → 如淵外史(じょえんがいし、戯作者) M 2 2 1 7  
 弟貞(おとさだ・藤原) → 山背王(やましろのおおきみ) E 4 5 1 1  
 乙三郎(おとさぶろう・箕浦) → 北江(ほっこう・箕浦みのうら、藩士/儒者) E 3 9 6 5  
 音三郎(おとさぶろう・松平) → 頼紀(よりのり・松平/源、藩士/伝記) J 4 7 4 5  
 音三郎(おとさぶろう・小野田) → 温道(よしみち・小野田おのだ/岩瀬/藤原、神職/歌) L 4 7 8 4  
 弟三郎(おとさぶろう・青木) → 蒼海(そうかい・青木あおき、藩儒) G 2 5 4 9  
 於菟三郎(おとさぶろう・吉田) → 尚憲(尚徳ひさのり・吉田、藩士/歌人) B 3 7 8 1
- 1488 **小歳**(おとし・大伴部おともべ)?-? 755防人/武蔵国秩父郡の助丁すけのよぼろ、  
 万葉廿4414、  
 [大君の命みこと畏かにみ愛うつくしけ真子まこが手離り島伝ひ行く](万葉; 4414/真子は妻)
- B1423 **雄敏**(おとし・藤原ふじわら、継彦男)?-848 藤原浜成の孫、平安前期廷臣; 従四下勘解由長官、  
 838従四上/839兵部大輔、令義解りょうぎげ編纂に参加、  
 本朝文粹; 883小野篁「令義解りょうぎげ序」に清原夏野等撰の令義解の執議に参加の記事  
 乙児(おとし・松木) → 乙児(おつじ/おとし・松木/矢入、俳人) 1 4 8 7  
 音繁(おとしげ・枝窪) → 邦直(くになお・枝窪えだくぼ、神職/国学) D 1 7 9 9  
 乙侍従(おとしじゅう) → 相模(さがみ、歌人) 2 0 1 1  
 乙次郎(おとしろう・佐伯/岸) → 岸駒(がんとく; 通称、絵師) G 1 5 2 3  
 乙次郎(おとしろう・本多) → 助成(すけなり・本多ほんだ、藩主/詩歌) J 2 3 2 2  
 乙次郎(おとしろう・山口) → 正明(まさあき・山口やまぐち、藩士/歌人) T 4 0 5 4



- 第二郎(おとじろう・小林) → 重年(しげとし・小林こばやし/藤原、神職/国学) O 2 1 4 0  
 音次郎(おとじろう・岸) → 吉為(よしため・岸きし、歌人) E 4 7 4 2  
 音助(おとすけ・葛飾) → 治助(3世しげ・桜田/3世松島半二、歌舞伎作者) I 2 1 1 5  
 D1426 音信(おとすけ/おとのぶ・荻廼屋おぎのや、姓;芝原しばら) 1812-8372 伊勢津塔世町の国学者/歌人、  
 国学・歌;富樫広蔭門、狂歌作者;狂歌本町側の判者、  
 維新後;伊勢新聞記者/1877[伊勢新聞]の印刷長;同紙歌壇の主幹、  
 1839(天保10)「狂歌百人一首」著、川喜田政豊の国学の師、  
 [音信(;名)の通称/別号]通称;勘右衛門、別号;浦園/萩の舎  
 音三(おとぞう・松原) → 貴速(たかはや・松原まづら/山県、藩士/神職/俳人) Z 2 6 6 2  
 乙孝(おとたか・路草亭) → 路草(ろそう・久保倉、乙孝/神職/俳人) C 5 2 0 7  
 音高(おとたか・砧) → 砧音高(きぬたおとたか・鈴木、狂歌) L 1 6 7 1  
 1491 弟橘比売[媛]命(おとたちばなひめのみこと、穂積氏忍山おしやま宿禰女)?-? 倭建命妃、記紀歌謡詠:走水入水  
 1490 乙鶴(おとづる) ? - ? 南北期音曲家/14ct曲舞・賀歌に長ず、  
 観阿の曲舞の師  
 乙鶴(おとづる・橋村) → 正河(まさかわ・橋村はしむら/度会、神職/歌) R 4 0 6 2  
 D1427 音門(おとど・高橋たかはし) ? - ? 江中期筑後久留米藩士/郡奉行;  
 1754百姓一揆で農民と交渉、「宝暦国民嗽訴記」「宝暦四年強訴一件」「高橋音門筆記」著  
 大人彦(おとなひこ) → 充長(あつなが・井関いげき、神職/国学) E 1 0 9 2  
 E1428 音成(おとなり・和気わけ、典薬頭和気仲景2男)?-? 鎌倉南北期廷臣;医者;針権博士/従四下、  
 弘景(宇佐使・正四下)の弟/嗣成(弘影の養子)の兄、歌人;藤葉集入、  
 [したひつる人はとまらで我が袖のなみだにのこる有明の月](藤葉;恋534)  
 音成(おとなり・礎きぬた) → 礎音成(礎音成きぬたおとなり、狂歌/洒落本) L 1 6 7 2  
 B1487 音主(おとぬし・石金いしがね、別名;良音/音人、石金瀬浜らいひんの後裔)?-1860 陸奥岩代瀬上酒造業、  
 国学・1813本居大平門、古言/俳諧、大平・篤胤の三大考論争に参加、1814「陸奥国答書」、  
 1827「古言本音考」28「祝詞疑問」、「三大考論辨追考」「陸奥国信夫郡伊達郡風俗記」著、  
 大平撰「八十浦の玉」下巻(902)入、  
 [音主の通称/号]通称;佐次兵衛、号;琴廼屋/屋号;甲州屋  
 於菟之介(おとのすけ・加藤;変名)→ 信順(のぶより・住谷すみや、水戸藩士/尊攘) E 3 5 1 3  
 音之助(おとのすけ・内村) → 鱸香(ろこう・内村うちむら/本郷屋、藩儒) B 5 2 4 7  
 音信(おとのぶ・芝原) → 音信(おとすけ・荻廼屋、狂歌/歌人) D 1 4 2 6  
 D1428 弟日娘(おとひおとめ) ? - ? 万葉65;長皇子の歌中人物、住吉すみのえの遊行女婦うかれめか?  
 清江娘子(すみのえのおとめ)と同一? → 清江娘子(すみのえのおとめ) D 2 3 4 4  
 E1406 弟彦(おとひこ・春山はるやま、旧姓;安曇) 1831-189969 江戸の国学者;前田夏蔭門/兵学;勝海舟門、  
 蘭学;内田五観門、播磨姫路藩校好古堂の国学教授、維新後;大阪師範/姫路中学で教鞭、  
 言文一致をめざす国語教育に当るのち東京帝国大学教授、「語学手引」「播磨地誌略」著、  
 「小学科用日本文典」著、  
 [弟彦(;名)の別号/通称]別名;静方/於菟彦おとひこ、通称;欽次郎  
 乙彦(おとひこ・萩原/対梅宇) → 谷峨(こくが・二世梅暮里、戯作/音曲) C 1 9 3 5  
 D1481 弟久(おとひさ・為貞ためさだ、通称;直記) 1831-? 江後期;美作久米郡桑村の倭文しとり神社神主、  
 兄久(櫟いちい)の弟、歌人;1849(嘉永2/19歳)平賀元義の楯之舎塾入門、  
 1857-8大沢深臣「巨勢総社千首」入(兄の櫟と共に入集)  
 D1429 弟日姫(乙姫おとひひめ) ? - ? 肥前風土記:篠原村の娘、大伴狭手彦の妻、  
 地名起源説話あり  
 → 松浦佐用媛(おまつらさよひめ、万葉集) J 4 0 8 9  
 1492 袁杼比売(おどひめ、和邇左都紀臣わにのさつきのおみ女)?-? 大和春日に住/記紀歌謡詠者:雄略天皇と婚、  
 泊瀬の百枝槻ももえつき下の宴に参加;志都歌しうた(104)を詠  
 B1488 弟平(おとひら・三原) ? - ? 平安前期、従五上/尾張守、  
 815「新撰姓氏録」共編(万多親王/藤原緒嗣らと)  
 D1430 乙総(おとふさ・芦田あしだ、有橋男、霞夫の弟)?-? 但馬出石の俳人:1776几董「続明鳥」4句入、  
 1776道立「写経社集」入、

- [うぐひすや門かど掃く人の朝きげん](続明烏;14/朝のさわやかな気分)  
 乙平(おとい) → 董堂(とうどう)・中井、狂詩歌) G 3 1 7 8  
 乙松(おとまつ・南部) → 重信(しげのぶ)・南部・花輪/七戸、藩主/歌) C 2 1 7 0  
 音松(おとまつ・腹巻) → 尚則(なおのり)・腹巻はらまき/坂、神職/国学) O 3 2 4 7
- 1493 乙麻呂(おとまろ・忍坂部おさかべ)?-? 万葉二期歌71:文徳天皇難波行幸に従駕歌[699or706]、  
 [大和恋ひ眠いの寝らえぬに情こころなくこの渚崎すさき廻みに鶴たう鳴くべしや](万葉;71)
- 1422 乙麻呂(弟麻呂おとまろ・石上いそのかみの朝臣、麻呂男)?-750 奈良期廷臣;  
 724従五下/732丹波守/739従四下左大弁、  
 739.3月宇合の未亡人久米連くめのむらじ若売わかめと密通:土佐配流(若売は下総配流;740赦免)、  
 [若売33-4歳/乙麻呂51-5歳];741赦免/746遣唐大使;停止/常陸守/右大弁、  
 従三位中納言兼中務卿、万葉三期374・六1019-23配流時の歌:1019-22は同情歌謡か、  
 懐風4首;配流中「衝悲藻かんびそう」2巻[散佚]、宅嗣やかつぐの父、  
 [雨降らば着むと思へる笠の山人にな着しめ濡れはひづとも](万葉;374)
- 1494 乙麻呂(おとまろ・丹比/多治比真人たじひのまひと、屋主2男)?-? 奈良期廷臣;765年従五下、  
 765(天平神護元)称徳天皇の紀伊行幸時の御前次第司次官、  
 万葉四期歌;八1443;春雑歌、  
 [霞立つ野の上への方かたに行きしかば鶯鳴きつ春になるらし](万葉;1443)
- E1423 乙麿(おとまろ・山田やまだ、通称;六右衛門/号;影踏)?-1862 筑後久留米藩士/歌人;大隈言道門  
 乙満(乙麿おとまろ・藍沢) → 無満(むまん)・藍沢あいざわ、国学/俳人) D 4 2 0 1  
 乙麿(おとまろ・磯部) → 正逸(まさはや)・磯部いそべ、神職/国学) N 4 0 6 7  
 於菟麿(おとまろ) → 周東(しゅうとう)・片山かたやま、藩士/俳人) Y 2 1 0 8
- C1403 乙麻呂妻(おとまろのつま、石上乙麻呂の妻)?-? 万葉三期歌人;六1020(長歌):神への祈り:  
 1019-23乙麻呂歌謡の2首目/歌謡の説あり
- 1495 乙美(おとみ・能登臣のとおみ)?-? 万葉四期歌人4069:748年久米広縄館で家持らと宴/  
 越中羽咋郡の擬主帳(正員の郡司欠員時に国司により郡司に擬せらる者;記録等司)、  
 [明日よりは継ぎて聞こえむ霍公鳥ほととぎす一夜の故からに恋ひ渡るかも]、  
 (万葉;4069/四月一日の宴/一晚待てば明日から夏だから鳴き渡るだろう)  
 お富の方(おとみのかた)・井伊 → 富子(とみこ)・井伊い/君田、藩主側室/歌人) U 3 1 0 5
- 1496 弟女(おとめ・棕櫚部くらはしべ、物部眞根ものべのまねの妻)?-? 755防人の夫との別離歌:万葉卷廿4420、  
 武蔵橘樹たちばな郡の人、  
 [草枕旅の丸寝まねの紐絶えば吾あが手と付けろこれの針はる持し](万葉;4420)  
 夫の歌 → 眞根(まね)・物部) K 4 0 0 2  
 乙女(おとめ・瀬川) → 如臯(初世じよこう)・瀬川せがわ、歌舞伎役/作者) 2 2 0 9
- D1431 雄友(おとも・藤原ふじわら、右大臣是公男)753-811 59歳 廷臣;790参議/大蔵卿/806大納言/正三位、  
 母;橘左為女の尚蔵従三位眞都賀/姉妹;吉子(平城天皇夫人/伊予親王母)、  
 807伊予親王の変で伊予に配流、810赦免復位/宮内卿、贈大納言、803「延暦交替式」編  
 於豊(おとよ)・相良) → 長興母(ながおきのはは)・相良さがら、藩主室/歌) P 3 2 2 9
- 1497 乎刀良(おとら)・物部ものべ)?-? 755防人/上総山辺郡やまへのこおり上丁・万葉廿4356、  
 [わが母の袖持ち撫でてわが故からに泣きし心を忘らえぬかも](万葉;4356)  
 雄鳥(おどり)・高羽子たかほご → 高羽子雄鳥(たかほごおどり、榎本、狂歌) D 2 6 4 9
- D1463 音羽(おとわ;組連) ?-? 武蔵川越の雑俳の組連/取次;1748「雲鼓評万句合」、  
 取次例;[大名を髻に取つたを鼻へかけ](前句;寝たり起たり楽な身の上)、  
 (娘が側室になって左団扇)
- 乙若(おとわか/乙童おとわか) → 良経(よしの)・藤原、摂政/歌人) 4 7 1 6  
 音羽亭(おとわてい) → 利明(としあき)・本多、算学/経世家) L 3 1 9 9
- B1455 音羽助(おとわのすけ) ?-? 歌舞伎作者・4世南北の番付、  
 「三賀荘曾我島台」「靈験亀山録」著
- 1421 音人(おんど)・大江/大枝おえ、江相公、阿保親王or本主男)811-877 67 平安前期廷臣、  
 漢学者/詩歌人;紀伝道に修学/清公門、845対策/864参議/従三位/866大江に改姓、  
 875群書治要竟宴の序者、江家儒門の確立、「群籍要覧」編、「江音人集」著、

「貞観格式」選定/「文徳天皇実録」編纂参加、千里・千古の父

- 1498 **音人**(おとんど・鳴滝なるたき、本名;池[滝]澤権左[右]衛門)1719-9678 江戸幕府銀座の役人/京橋に住、  
狂歌:本丁連/朱楽連、狂文、1780「口学諺種くちまねことわざぐさ」84「さくらがり」著、  
1785「狂文棒歌撰」編/「人まね道成寺」、91「俗談諺種」、96「休息歌仙」編、  
「狂言鶯蛙集」「狂歌才蔵集」入  
[巻筆の眞しながき(楷書細字用)ほどに苗代のほさきを染むる水茎の小田](才蔵集)、  
[鳴滝音人の別号] 古今亭塵塚散人/泥田坊夢成/古今亭青人/団栗庵  
音人(おとんど・石金) → 音主(おとぬし・石金いしがね、国学/古言) B 1 4 8 7  
音人(おとんど・宮崎) → 鉄幹(かねもと・宮崎みやざき、藩士/歌人) V 1 5 8 6
- B1456 **同穴野狐**(おなじあなのきつね:本名不祥)?-? 黄表紙評判記、1784「江戸土産」著
- E1404 **小成**(おなり・野口のぐち、通称;和吉/小兵衛)?-1894 大和御所の農事改良家/歌人;近藤芳樹門、  
維新に際し郡政下用掛/農事研究の傍ら吉野川北岸丘陵地の開墾/私設農事試験場開設、  
農作物の試作に尽力、「農作季節鑑」著  
御成道の達磨(おなりみちのだるま)→ 由蔵(よしぞう・須藤すどう、商家/日記) D 4 7 8 8
- E1424 **鬼雄**(おにお・山本やまと、酒井、山本眞菅ますが[1794-1876]男)1834-9057 信濃筑摩郡の医者;父門、  
信濃埴科郡南条村の医者、国学者、  
[鬼雄(;名)の通称] 伯泉  
鬼作左(おにさくざ) → 重次(しげつぐ・本多作左衛門、武将) R 2 1 4 7
- 1423 **鬼武**(おにたけ・感和亭かんわてい、姓;倉橋[初姓]/前野)1760-181859 寛政1789-1801頃代官の手代、  
のち一橋家の御家人の名跡を嗣ぐ;御勘定役、撃剣を嗜む、戯作;馬琴門、画;谷文兆門、  
山東京伝/十返舎一九と交流、嘶本/読本/滑稽/黄表紙/合巻など著作多数、  
1793「華鬘はなえくぼ」1805-9「旧観帖」05「鬼武作説話」/06「桜池由来」06-7「自来也説話ばなし」著、  
1809「文七髻結緒もとゆい」11「東男奇遇糸筋」15「亀がせ物語」17「女仇討菩薩角髪」外著多数、  
[感和亭鬼武(;号)の通称/別号]通称;羅一郎/曼助/曼七、  
別号;飯頼山人いだのさんじん/曼亭/土鼈庵(どべつあん/すっぽんあん)、一溪庵
- 1424 **鬼貫**(おにつら・上島[嶋]うへじま/晩年;平泉姓、上島宗春男)1661-173878 摂津伊丹の酒造業油屋の生、  
俳人:重頼門、1685-90新風;俳諧まことの説を主唱、80?「恵能録えのうろく」90「大悟物狂」、  
1690「犬居士」、1718「独ごと」/28「仏兄七久留万さとえななくま」「有馬日書」「酸鼻集」(散佚)著、  
追善集;三回忌「月の月」/七回忌「誹諧むなぐるま」、  
[まこと(誠)の外に俳諧なし](独ごと)  
[行水ぎやうずいの捨て所なし虫の声](仏兄七久留万/鬼貫句選では中七;捨て所なき)  
[此の秋は膝に子のない月見かな](金毘羅会)  
[鬼貫(;号)の名/通称/別号]名;宗邇(むねちか/秀栄、通称;与惣兵衛/三郎兵衛、  
別号;点也・自春庵じしやうあん・犬居士・馬楽童[堂は誤]・仏兄さとえ・囉々(ららり)・榎[金]花翁  
法号;即翁/僊林即翁/仙林則翁  
鬼面(おにつら・瓦) → 瓦鬼面(かわらのおにつら、白倉しらくら、狂歌) H 1 5 9 1  
鬼殿(おにどの) → 重次(しげつぐ・本多作左衛門、武将) R 2 1 4 7  
鬼道雪(おにのどうせつ) → 道雪(どうせつ・戸次べつき/立花、武将) G 3 1 0 3
- D1478 **鬼彦**(おにひこ・横田よこた、通称;右衛門)?-? 備前岡山藩士;藩老池田長常の臣、歌人、  
1857-8大沢深臣「巨勢総社千首」入、  
[遙々と思へば遠き旅ながら心の駒はいさみ立ちけり](巨勢総社千首、  
安房の海防警備の任に赴く時の詠)  
鬼水野(おにみずの) → 忠幹(ただもと・水野みずの、家老/藩主/歌) U 2 6 4 1  
鬼武者(おにむしや) → 頼朝(よりとも・源、鎌倉初代将軍/歌) J 4 7 2 2  
於仁茂十七(おにもじゅうしち) → 十七(じゅうしち・於仁茂、洒落本) H 2 1 5 7  
鬼守(おにもり・河原) → 河原鬼守(かわらのおにもり、狂歌) G 1 5 0 5  
鬼夜叉(おにやしや;幼名) → 世阿彌(ぜあみ、名;元清、能楽役/作者) 2 4 0 1  
鬼若(おにわか) → 頼朝(よりとも・源、鎌倉初代将軍/歌) J 4 7 2 2  
小野(おの;号) → 証観(しょうかん:法諱、天台僧/歌人) F 2 2 9 2  
小野(おの;号) → 巖雅(いづなが;法諱、鎌倉期僧/歌人) E 1 9 6 6

- 阿能(おのう・斎藤) → 祖心(そしん;法諱、祖心尼、大奥御局役/臨濟僧) D 2 5 8 8
- D1464 尾上(おのえ;組連) ? - ? 江戸四谷塩町の川柳の組連、  
 取次;1757「川柳評万句合」入;  
 取次例;[惚れて居たやうにも無いと押しやられ](1757万句合)  
 (前句;はづかしいことはづかしいこと)、  
 (そぶりを見せず同僚にも隠し通して晴れて相愛の人と結ばれた)
- 斧一郎(おのいちろう・内藤) → 有慶(ありよし・内藤ないとう/国府/中臣、藩士/神職) I 1 0 0 7
- 斧右衛門(おのえもん・原田) → 又之丞(またのじょう・潮田うしおだ、赤穂義士) J 4 0 5 2
- 斧右衛門(おのえもん・成川) → 如矢(ゆきや・伊佐庭いさにわ/成川/阿部、教育/町長) G 4 6 5 1
- 小野川検校(おのがわけんぎょう) → 立吟(りゅうぎん・森/小野川、俳人/地唄) D 4 9 4 0
- 斧吉(おのきち・田林) → 有友(ありとも・田林たばやし、商家/国学) H 1 0 8 5
- 小野皇太后(おのこうたいごう) → 歎子(かなし・藤原ふじわら、皇后) Q 1 5 8 5
- 自凝舎(自凝屋おのころのや) → 真柱(みはしら・後醍醐ごだいん/大河平おこびら、国学者) F 4 1 7 1
- 小野里近江正(おのさとおうみのしょう) → 美春(よしはる・前原/横瀬/小野、神職) G 4 7 1 3
- 斧三郎(おのさぶろう・神) → 履堂(りどう・神じん、漢学者) C 4 9 3 3
- 斧四郎(おのしろう・高久) → 隆古(りゅうこ・高久たかく/秦/川勝、絵師) D 4 9 7 0
- 斧次郎(おのじろう・木内) → 信安(のぶやす・木内きうち、和算家) D 3 5 5 7
- 斧次郎(おのじろう・久隅/梶野) → 良材(よしき・梶野かじの/久隅、幕臣/奉行) D 4 7 0 7
- 斧次郎(おのじろう・武蔵) → 石寿(せきじゅ・武蔵むさし、幕臣/博物) K 2 4 1 5
- 斧次郎(おのじろう・澁川) → 弘有(ひろあり・澁川みおがわ、国学者) L 3 7 3 7
- 斧蔵(おのぞう・尾上;役者) → 由輔(2世ゆうすけ・金井かない、歌舞伎作者) C 4 6 8 6
- 斧蔵(おのぞう・橋本) → 守雄(もりお・橋本はしもと/林、藩士/歌/絵師) K 4 4 9 8
- 斧太郎(おのたろう・中野) → 君規(きみのり・中野、藩士/詩文) M 1 6 0 6
- 斧太郎(おのたろう・泉) → 豊洲(ほうしゅう・泉いづみ、儒者) B 3 9 4 4
- 斧太郎(おのたろう・服部) → 宗忠(むねただ・服部はっとり/野辺、藩士/国学) E 4 2 1 8
- 斧太郎(おのたろう・大池) → 眞澄(ますみ・大池おおいけ、神職. 国学) O 4 0 2 4
- 小野天皇(おのてんのう) → 醍醐天皇(だいてんのう、格式・歌集編纂) 2 6 0 3
- 小野阿闍梨(おのあじり) → 静誉(せいよ、じょうよ;法諱、真言僧) J 2 4 6 7
- 小野あな女(おのあなじょ) → 額祐(がくすけ・2世絵馬屋、狂歌) E 1 5 7 5
- 小野妹子四十一世(おののいもこよんじゅういっせい) → 興順(こうじゅん・秋野、公文所職員) J 1 9 6 0
- B1410 斧之助(おののすけ;通称・本沢もとざわ、号;幽然)?-1842 肥前平戸藩士/1800登用/08御馬廻/15大小姓、  
 1823御系譜方取調/31隠居、山鹿流兵学精通;兵学講釈、1834「武教全書七ヶ条聞書」、  
 1834「武教全書戦法聞書」40「武教全書聞書」著
- 小野の青牛(おののせいぎゅう) → 青牛(せいぎゅう、向陽軒、俳人) H 2 4 8 7
- 小野僧正(おののそうじょう) → 仁海(にんかい;法諱、雨僧正、真言僧) G 3 3 1 8
- 小野僧正(おののそうじょう) → 範俊(はんしゅん・鳥羽僧正、真言僧) H 3 6 9 6
- 小野僧都(おののそうず) → 成尊(せいそん・じょうそん;法諱、真言僧) J 2 4 1 4
- 小野中納言(おののちゅうなごん) → 祐家(すけいえ・藤原ふじわら、廷臣/歌人) B 2 3 9 0
- 小野中君(おののなかぎみ) → 実頼女(さねよりのむすめ②、後拾654歌人) D 2 0 7 8
- 小野法印(おののほういん) → 巖恵(いんげい・巖慧ごんえ;法諱、真言僧/歌) E 1 9 6 5
- 小野宮(おののみや) → 惟喬親王(これたかのみこ、歌人/伊勢物語に逸話) 1 9 4 6
- 小野宮(おののみや) → 忠家(ただいえ・藤原ふじわら、廷臣/歌人) E 2 6 8 2
- 小野宮(おののみや) → 斉敏(ただとし・藤原、廷臣/歌合主催) F 2 6 3 7
- 小野宮(おののみや) → 実頼(さねより・藤原、廷臣/歌人/故実) 2 0 4 6
- 小野宮(おののみや) → 資房(すけふさ・藤原、廷臣/故実家/詩) C 2 3 9 7
- 小野宮大納言(おののみやだいなごん) → 師頼(もろより・源、大納言/歌人) 4 4 3 6
- 小野宮大納言(おののみやだいなごん) → 能実(よしざね・藤原、大納言/歌合催) D 4 7 4 8
- 小野宮右大臣(おののみやのうだいじん) → 実資(さねすけ・藤原、故実/歌) 2 0 3 9
- 小野宮左大臣(おののみやのさだいじん) → 実頼(さねより・藤原) 2 0 4 6
- 小野宮太政大臣(おののみやのだいじょうだいじん) → 実頼(さねより・藤原) 2 0 4 6

- 小野宮太政大臣女(-のむすめ) → 実頼女(さねよりのむすめ②、後拾654歌人) D 2 0 7 8  
 斧八郎(おのはちろう・大橋) → 得山(とくざん・大橋おおはし、藩士) K 3 1 7 8  
 斧平(おのへい・園村) → 保尚(やすなお・園村そのむら、藩士/国学者) G 4 5 1 5
- 1499 斧麿(おのまる・山本やまもと・涼花堂)?-? 大阪の俳人/雑俳点者、1709「三国市いち」編、  
 1713「大黒柱」為杖らと入、浮世草子「当世誰が身の上」著、  
 1714月尋「伊丹発句合」;四季発句入、  
 [雪やゆき商人あきんどの手にあまる程](伊丹発句合;冬)
- B1489 尾道の三味道(おのみちのさんまいどう)?-? 狂歌作者、「疎漏罫詩集」古詩入  
 斧屋市郎右衛門(おのやいちろうえもん) → 醉亭(すいてい・中井、心学者) E 2 3 8 6
- B1457 尾蠅(おぼえ・尾崎おさき) ? - ? 俳人;宗因門/1677宗因七百韻入:萩何玖也追善、  
 1678西鶴「物種集」入、  
 [後妻うはなりにかくも討死にすべきよし](物種集/  
 謡曲「実盛」;鬢鬚びんひげを墨に染め若やぎ討死すべき由常々申し候ひしが、  
 前句;鬢鬚染めつまたは際墨きはずみ/際墨;額の生え際を墨でえどる化粧)
- 小泊瀬稚鷯鵜天皇(おはつせのわかさぎのすめらみこと) → 武烈天皇(ぶれつてんのう、暴君) E 3 8 7 1
- D1462 尾花(おばな;組連) ? - ? 武蔵岩付の雑俳の組連、  
 取次;1748「筑丈評万句合」入/  
 取次例;[白じやげな人の背中を拝んで来き](前句;はやりこそすれ々々;各地で秘仏開帳)、  
 (善光寺の本尊は米春こめつき白の上に安置/開帳しても大繁盛で人の背中しか見えない)
- 尾花廼舎(おばなのや) → 恒雄(つねお・宮路みやじ、農業/歌人) F 2 9 9 8  
 大原三寂(おはらのさんじやく、為忠男3兄弟) → 大原三寂(おはらさんじやく)  
 小治田広瀬王(おはりだのひろせのおおきみ) → 広瀬王(広湍王ひろせのおおきみ、万葉歌人) G 3 7 1 2  
 阿春の方(おはるのかた) → 武女(たけじよ・鈴木すずき春、歌人/紀行) E 2 6 3 7
- B1412 首(意毗登おびと・大津連おおつのむらじ、出家号;義法)?-?:66歳 学門僧;新羅渡航/医、陰陽、707帰国、  
 714還俗/従五下/賜姓大津連/721医ト方術の功績で賞;従五上、陰陽頭、懐風藻83/84
- B1413 男人(雄人おひと・紀朝臣きのあそみ、麻呂男)682-738 57歳 大和奈良期廷臣;705従五下/21少納言、  
 728大宰大貳/正四下/37右大弁、万葉三期歌五815(:730年旅人梅花宴参)、懐風藻3首72-4  
 [正月むつき立ち春の来らばかくしこそ梅を招をきつつ楽しき終へめ](万葉815)
- B1414 男人(おひと・宇努首うののおびと)?-? 百濟系出身の廷臣;720豊前守;隼人征討將軍、  
 万葉三期歌六959(;728年の香椎浦歌/京へ帰任前の歌)  
 [行き帰り常に我が見し香椎瀉明日ゆのちには見むよしもなし](万葉六959)  
 使首(おびと) → 調使首(つきのおびと) 2 9 0 4  
 首(おびと) → 吉智首(きちのおびと、懐風藻詩人) B 1 6 4 7  
 首(おびと) → 忌部首(いむべのおびと、万葉歌人) B 1 1 9 0
- B1416 首名(おびとな・道みち) 663?- 718? 56歳? 大和期廷臣;700律令撰定参画、711遣新羅大使
- B1415 首名(おびとな・安倍/阿倍朝臣あべのあそみ)664-727 64 大和奈良期廷臣/706大宰少貳/715兵部卿、  
 721諸府衛士三載一番の制を奏上/722勅制/723正四下、詩人:懐風藻43(;兵部卿ひょうぶのかみ)
- D1432 首名(おびとな・大日奉舎人おおひまつりのとねり、姓;連)?-? 平安期漢学;大学寮に学ぶ、  
 詩人、経国集;对策文2首入  
 首皇子(おびとのみこ) → 聖武天皇(しょうむてんのう) 2 2 0 6
- B1417 首麻呂(おびとまる・坂田部さかたべ)?-? 755防人、駿河国・万葉廿4342  
 首道麿(おびとのみちまる) → 万(よろう・生田いくた、国学者/救民活動) 4 7 4 2
- D1451 帯久計女(おびのくけめ) ? - ? 江戸の狂歌作者;1787「才蔵集」入:  
 [ゆうぐれにくるわの客の長羽織つけよ柳の糸のをだ巻]  
 お福(おふく・稲葉/斎藤) → 春日局(かすがのつばね、家光の乳母) C 1 5 2 1
- B1490 お藤(おふじ・柳屋やなぎや) ? - ? 浅草楊枝見世の美女、  
 1769南畝「阿仙阿藤優劣弁」入;お仙せんと比較  
 お藤(おふじ・山口) → 藤(ふじ・山口やまぐち、女中/歌/刃傷事件) I 3 8 7 7
- B1491 雄淵(おぶち・松岡まつおか、別名;文雄/尾張雄/定直)1701-83 83歳 代々尾張熱田社の祠官、

神道;吉見幸和/玉木正英/鴨桂齋[祐之]門、1733師正英を批判/破門、神祇官吉田家の侍読、  
学舎渾成堂創設;門弟指導、土清ことすが・竹内式部の師、1731白玉「雅筵酔狂集」序(漢文)、  
「雄淵詩歌文集」「雄淵詩歌及紀行」「渾成翁念仏談話」「神学大意」、「松岡叢書」編、外著多数、  
養子;宮崎定安、帰厚もとあつ(定安男)の祖父、

[雄淵の字/通称/号] 字;仲良、通称;多助/下総/良庵、

号;玄斎/悔斎/蓼葺舎/蓼倉精舎/渾成翁/振武翁/環洲/修軒

雄淵(おぶち・大場) → 雄淵(ゆうえん・大場おおば、神職/俳人) 4 6 8 0

おほつ少将 → おおつぶね(歌人) 1 4 5 7

おほつぶね → おおつぶね(歌人) 1 4 5 7

おほ家かね延(おおやかかねのぶ) → かね延(かねのぶ・大家おほや、随筆) C 1 5 9 5

臙磨(おぼろまる・東柳軒) → 遠舟(えんしゅう・和氣、俳人) B 1 3 0 3

B1418 男房呂(おまろ・紀き、紀大磐?)?-? 大和期武将、欽明23年(566?)大將軍として渡韓、  
任那を滅ぼした新羅軍を破り百濟軍に合流/用明2年蘇我馬子に随い物部守屋を討つ、  
崇峻4年任那再興のため軍を率いて筑紫に出陣;天皇暗殺事件で推古3年(595)帰京

B1458 麻績一(おみいち・蘆野屋あしのや、阿斯能夜あしのや検校、号;東津[洋]堂)1803-55~~圧死~~53 江戸の武家の生、  
視力悪化し失明;盲人鍼医;鍼術の名手、1837(天保8)検校、国学;岸本由豆流ゆづる門、  
雨富龍謙一(雨富流謙一)門、歌/海防策「根芹」「野芹」著、源氏物語など古典に通ず、  
1855, 10, 2患家に向う途中安政地震に~~圧死~~、

仙果「なみの日並」述、歌;蜂屋光世「大江戸倭歌集」(1858刊)入、

[咲きそめていつかいつかと待つほどに花のさかりもなかば過ぎ行く]、

(大江戸倭歌;春326/牡丹)

[今日別れ明日逢ふ身なる石山の一夜ごもりも猶ぞかなしき](同;雑1826/近離別)

[蘆野屋の別書/法号]阿斯能舎/阿斯能谷/阿斯能夜/阿斯廼夜、

法号;広道院正誉慈門大居士

小見川(おみがわ、俳名) → 幸四郎(こうしろう・初世松本、歌舞伎) 1 9 1 2

巨木舎(おみきのや) → 常典(つねのり・山田/平井、国学/歌人) D 2 9 2 0

B1419 臣足(おみたり・息長真人おきながのまひと)-?44歳没 廷臣/719出雲守;伯耆石見を管す、724出雲按察使、  
在任中に贖貨狼藉;位禄を剥奪、詩人;懐風藻55

D1489 雄享(おみち・川上かわかみ、通称;吉五郎)-1824 飛騨高山代官所の地役人/摂津西宮勤番所同心、  
国学;田中大秀おおひで(1777-1847)門

麻績主(おみぬし、紀) → 三冬(みふゆ・紀き、国学者/神職) F 4 1 7 7

B1420 麻績王(麻績王おみのおきみ)-? 万葉二期歌24:伊勢伊良虞の嶋配流[紀・675年因幡配流]、  
天武天皇の強権政治へ反発する皇族の一人、奈良時代すでに伝説化、  
[うつせみの命を惜しみ波に濡れ伊良虞の島の玉藻刈り食はむ](万葉;一24)

臣舎(おみのや) → 眞棹(まさお・成川なるかわ、医者/歌人) R 4 0 3 0

麻績麻呂(おみまろ、紀) → 三冬(みふゆ・紀き、国学者/神職) F 4 1 7 7

E1417 臣吉(おみよし・宮川みやがわ、通称;忠吉)1848-191871 長門萩の書肆;山城屋、国学・歌;近藤芳樹門、  
1876[山口県地誌略]85[山口県史附録]など多数出版、  
[臣吉(;名)の号]著賢/深心居士/博古堂、屋号;山城屋

B1496 雄宗(おむね・下野しもつけ) ? - ? 平安期歌人、六位、古今728

[曇り日の影としなれる我なれば目にこそ見えね身をば離れず](古今十四恋歌728)

D1457 面白圭朶(おもしろのけいだ/おもしろのたまえだ)-? 狂歌作者;1787「才蔵集」入

表野黒人(おもてのくろひと) → 黒人(くろひと/くろうど・表野おもての、戯作) B 1 7 8 5

御許丸(おもとまる・童女名) → 和泉式部(いづみききぶ) 1 1 1 1

思羽(おもは)

D1476 思羽(おもは) ? - ? 江後期;遊女、歌人、

1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、

[ひとりぬるよはのつらさをなげく身はうらみし鳥の声ぞまとるる]、

(大江戸倭歌;恋1641)

D1433 おや(娘の親/姓名不詳)-? 平安期/金葉597(娘の心痛を京で気遣う苦痛);

越中に下り男に捨てられた娘[読人しらず]の歌への返歌、  
[思ひやる心さへこそ苦しけれ有乳あちの山の冬のけしきは](金葉;597辛い親の心、  
贈歌596;娘/読人不知;うち頼む人の心は有乳山越路こぢくやしき旅にもあるかな)

- B1459 **親方**(おやかた・神村) ? - ? 琉歌作者;「琉歌全集」14首入  
親方出雲(おやかたいずも) → 出雲(2世いずも・竹田、浄瑠璃作者) 1 1 1 2  
親慈悲成(おやのじひなり) → 慈悲成(じひなり・桜川、鏝職/戯作/落語) 2 1 3 0
- 1425 **老**(おゆ・間人連はしひとのむらじ)?- ? 654遣唐使判官?/間人皇女はしひとのひめみこの養育係か、  
万葉一期歌2首;一3;長歌・4:反歌(献上歌)  
[たまきはる宇智の大野に馬並めて朝踏ますらむその深草野](万葉;一4)
- 1426 **老**(おゆ・春日蔵首かすがのくらのおびと、法名;弁基べんき[弁紀])?-?714存;52-5歳? 701(大宝元)還俗、  
714常陸介/従五下、詩人;懐風藻1首;59  
万葉二期歌人;7首56/62/282/284/286/298/1719/298左注、  
[河上かはのへのつらつら椿つらつらに見れども飽かず巨勢の春野は](万葉;一56)、  
(大宝元[701]九月持統太上天皇紀伊行幸の従駕歌;54坂門人足さかのひとりの歌と同趣)
- 1427 **老**(おゆ・小野朝臣おののあそみ)?- 737 奈良期廷臣;719従五下/720右少弁/729?大宰少貳、  
733従四下/大貳、万葉三期歌3首、328/816(:730年旅人梅花宴)/958、  
[あをによし奈良の都は咲く花の薫にほふがごとく今盛りなり](万葉;三328)
- 1437 **老**(おゆ・穂積朝臣ほづみのあそみ)?- 749 大和奈良期廷臣;703山陽道巡察使/正八下、  
718左副将軍/式部大輔/722元正天皇批判;斬刑宣告;佐渡配流/740赦免、  
744大蔵大輔/正五上;久邇京留守司、万葉三期歌;288/3240-1;左注/3926左注  
[我が命し真幸まさきくあらばまたも見む志賀の大津に寄する白波](万葉;三288)
- 1438 **老**(おゆ・高氏こうじ;高向村主たかむこのすぐり)?-? 万葉三期歌人;730年旅人梅花宴参加/対馬目さかん、  
[鶯の音おと聞くなへに梅の花我家わざへの園に咲きて散る見ゆ](万葉;五841/梅花宴)
- 1439 **老**(おゆ・川上臣かわかみのおみ)? - ? 755防人/下野国寒川郡上丁、万葉集廿4376、  
[旅行たびゆきに行くと知らずて母父あもしに言申さずて今ぞ悔しけ](万葉;廿4376)
- 1440 **老**(おゆ・吉田連よしだのむらじ、字;石麻呂いしまろ/いしまろ、仁敬にんけい男?宜男?)?-? 万葉集中人物・  
万葉十六3853/4:大伴家持の瘦身嗤笑歌の左注入、  
[家持の歌3853;石麻呂に我物申す夏瘦せに良しといふものそ鰻むなぎ捕り喫めせ]  
於由(おゆ・服部はとりべ) → 於田(うえだ・服部、万葉防人) 1 2 0 0  
於遊(おゆう・松平) → 遊子(ゆうこ・松平/三浦、側室/歌人) B 4 6 5 4  
於遊喜之方(おゆきのかた) → 遊子(ゆうこ・松平/三浦、中藺/歌人) B 4 6 5 4
- 1441 **老麻呂**(おゆまろ・神社忌寸かむこそいみき)?-? 万葉三期歌人;六976-7(:733年難波草香山越えの歌)、  
[難波瀉潮干のなごりよく見てむ家なる妹が待ち問はむため](万葉;六976)
- 1442 **老麻呂**(おゆまろ・境部宿禰さかいべのすくね)?-? 廷臣/万四期歌3907-8(長反:741年久邇京讃歌/右馬頭)  
[楯並たなめて泉の川の水脈みを絶えず仕へ奉らむ大宮所](万葉;十七3908)
- B1421 **小弓**(おゆみ・紀き) ? - ? 大和期の武将、新羅に敗北・病死  
於好(およし・松岡) → 好女(こうじよ・松岡、俳人) J 1 9 7 0  
阿与曾(およそ・津軽) → 与曾子(よそこ・津軽つがる/添田、側室/歌) N 4 7 9 2  
男依(おより・榊原) → 峯松風(みねのまつかぜ、狂歌) F 4 1 5 3  
織居(おりい・大畑) → 晴潔(はるきよ・大畑おおはた、藩士/国学者) G 3 6 3 0  
織居(おりい・長岡/米田) → 是著(これあき・米田こめだ、藩士/儒/詩) O 1 9 0 5
- B1492 **織江**(おりえ・林はやし、名;久/号;宮路)1737/44-181874-82歳 三河吉田の女流歌人;芝山持豊門、  
磯丸を芝山持豊に紹介、1804紀行「伊良古記」著、  
[春雨に濡れて拾はん伊良古崎恋路の浦の恋わすれ貝]
- D1434 **織衛**(おりえ・横田よこた) ? - ? 筑前住吉社の大宮司、「横田家文書」著
- B1411 **織江**(おりえ・船橋屋ふなばしや)?- ? 江後期江戸深川佐賀町の菓子所主人、  
1840「菓子話船橋」著
- E1405 **織江**(おりえ・橋本はしもと、)1793-187179 越前福井の菓子商;荒井屋/福井藩御用達、国学、  
[織江(;名)の通称/号]通称;荒井屋文右衛門、号;典倪てんげい
- D1493 **織江**(おりえ・佐竹さたけ)1816-186449 豊前英彦山の修験者/修験の奉行職、

国学;原田種信門、尊攘主唱/1863(文久3)英彦山僧徒の挙兵計画参加;失敗;長州へ逃亡、  
長州藩と呼応し久坂玄瑞らに伴われ教観坊藤山衛門と彦山使僧として上京;  
帰途に伏見で小倉藩兵に捕縛;1864(元治元)禁門変の時に六角獄舎で処刑;刺殺、  
[織江(;名)の通称/号]通称;巖瑤坊亮親りょうしん、号;巖瑤房げんりょうぼう

織江(おりえ・黒神) → 直民(なおみ・黒神くろかみ、神職/国学) B 3 2 6 4  
 織江(おりえ・丹羽) → 氏張(うじはる・丹羽にわ、藩士/剣術家) C 1 2 5 9  
 織江(おりえ・白米/大主) → 耕雨(こうう・大主おおぬし、神職/俳人) H 1 9 4 0  
 織江(おりえ・前田) → 道済(みちなり・前田まえだ、藩士/記録) C 4 1 1 4  
 織江(おりえ・鈴鹿) → 秀麿(ひでまる・鈴鹿すずか/平佐、神職/歌) J 3 7 9 3  
 織江(おりえ・藤井) → 信平(のぶひら・藤井ふじい、神職/国学/歌) J 3 5 8 8  
 織衛(おりえ・大縄) → 念斎(ねんさい・大縄おおなわ、藩士/詩人) 3 4 6 4  
 織衛(おりえ・花垣) → 一衛(かずえ・花垣はながき/北原、国学者) M 1 5 1 1  
 織衛(おりえ・長尾) → 勝元(かつもと・長尾ながお、藩士/記録) N 1 5 9 2  
 織衛(おりえ・島津/末川) → 久救(ひさひら・末川/島津、歌人) B 3 7 7 2  
 織衛(おりえ・長谷川) → 有則(ありのり・長谷川はせがわ、歌人) I 1 0 2 7  
 織衛(おりえ・香取) → 実弼(みのり・香取かとり/吉植、神職) F 4 1 6 7  
 織衛(おりえ・田中) → 秀穂(ひでほ・田中たなか、神職/歌人) K 3 7 0 6  
 織右衛門(おりえもん・壺井) → 義璉(よしつら・壺井つばい、里正/和学者) N 4 7 9 5  
 折風(おりかぜ・扇) → 扇折風(おうぎのおりかぜ、天野、藩士/狂歌) B 1 4 6 3  
 織介(おりすけ・折輔・身軽、狂名) → 京伝(きょうでん・山東) 1 6 3 7

E1409 織瀬(おりせ・平田ひらた、石橋常房女) 1782-1812<sup>31</sup> 駿河沼津藩士の娘、  
1801(20歳)江戸で平田篤胤の妻、常太郎・てふ・半兵衛の母、国学/歌、  
学究の夫のため貧困の家計を支える、1812(文化9)没

折主(おりぬし) → 便游舎折主(べんゆうしゃおりぬし、狂歌) 2 7 0 9  
 折之助(おりのすけ・堀田) → 之雄(ゆきお・堀田ほつた、神職/国学者) H 4 6 2 3  
 織之丞(おりのじょう・井上) → 素良(もとよし・井上/藤原/梯、藩士/国/史学) J 4 4 1 4  
 織之進(おりのしん・千葉) → 胤英(たねふさ・千葉ちば、藩士/和算家) S 2 6 0 2  
 織之助(おりのすけ・多羅尾) → 氏純(うじずみ・多羅尾たらお、幕臣/国学) C 1 2 4 0  
 織之助(おりのすけ・加藤) → 文麗(ぶんれい・加藤かとう、幕臣/絵師) G 3 8 8 0  
 織之助(おりのすけ・北条/伊勢) → 氏曄(うじあき・北条ほうじょう/伊勢いせ、藩士/詩) E 1 2 8 7  
 織之助(おりのすけ・水野) → 忠光(ただあきら・水野みずの、藩主/和学) Z 2 6 7 4  
 織之助(おりのすけ・鈴木) → 永頼(ながより・鈴木すずき/穂積/竹本、藩士) N 3 2 5 3  
 織之助(おりのすけ・佐甲) → 芳介(よしすけ・近藤こんどう/佐甲、国学/歌) L 4 7 7 2  
 織之助(おりのすけ・指田) → 孝勝(たかかつ・指田さした/加藤、役人/国学) X 2 6 4 1  
 織葉(おりは・荒川) → 蔦子(つたこ・荒川/日高、紀行文) 2 9 0 7  
 織人(おりひと・奥村) → 栄通(てるみち・奥村、藩士/文筆) C 3 0 9 6  
 織人(おりひと/しよくじん・富田) → 重貞(しげさだ・富田、藩士/記録) R 2 1 0 2

D1435 織仁親王(おりひとしんのう、有栖川宮6世、法号;竜淵、職仁よりひと親王男) 1754-1820<sup>67</sup> 桃園天皇猶子、  
靈元天皇孫、1763親王/64兵部卿/70中務卿/一品/1812出家、歌/書、1770「詠歌論」、  
「有栖川流手本」「白敷御絵様色紙形御和歌」「其華類題」「織仁親王日記」著

折節(おりふし) → 節折(よおり、前斎宮、女房歌人) B 4 7 6 9

D1436 織部(おりべ・沢田さわだ、名;希) ? - ? 江中期1716-36頃会津儒者、1720「近思録説略」著

B1422 織部(おりべ・村上むらかみ) ? - ? 江後期語学者、1769「古今和歌集助辞分類」著

C1400 織部(おりべ・富田とみた、名;基建、後藤千秋男) 1817-68<sup>52</sup> 伯耆の生/三条実方の家臣;  
三条実方の生母の富田家を称す、国事に参与/安政大獄に連座/投獄、赦免;勤王討幕活動、  
「胡蝶のゆめ」「土州応答」著、

[織部(;通称)の別通称/号]別通称;光蔵/一郎、号;坦堂

織部(おりべ・山田) → 通故(つうこ・山田やまだ、幕府連歌師) 2 9 3 4  
 織部(おりべ・古田) → 重然(しげなり・古田、武将/茶人) 2 1 1 1  
 織部(おりべ・城) → 昌茂(まさもち・城じょう、武将/連歌) H 4 0 8 0



織部(おりべ・浦田)	→ 長次(ながつぐ・浦田、神職)	E 3 2 4 0
織部(おりべ・八羽)	→ 光当(みつまさ・八羽はつば/太田、神道家)	K 4 1 1 1
織部(おりべ・村上)	→ 道慶(どうけい・村上、闘争調停)	D 3 1 2 0
織部(おりべ・大久保/土岐)	→ 忠政(ただまさ・大久保/土岐、幕臣)	T 2 6 7 3
織部(おりべ・伊達)	→ 村和(むらより・伊達だて、領主/歌人)	D 4 2 2 5
織部(おりべ・水野)	→ 福富(ふくとみ・水野みずの、藩士/俳/詩歌)	B 3 8 6 3
織部(おりべ・岡見)	→ 知愛(ともなる・岡見おかみ、藩士/地誌)	Q 3 1 1 0
織部(おりべ・鍋島)	→ 直郷(なおさと・鍋島なべしま、藩主/詩歌)	B 3 2 2 3
織部(おりべ・酒井)	→ 忠垠(ただきし・酒井さかい、幕臣/和学者)	X 2 6 3 5
織部(おりべ・諏訪)	→ 忠林(ただとき・諏訪すわ、藩主/詩文)	P 2 6 9 9
織部(おりべ・小笠原)	→ 長常(ながつね・小笠原、幕臣/町奉行)	E 3 2 5 6
織部(おりべ・新井)	→ 白蛾(はくが・新井あらい、儒者)	C 3 6 8 3
織部(おりべ・島)	→ 花隠(かいん・島しま、幕臣/本草学)	J 1 5 1 8
織部(おりべ・久志本)	→ 常夏(つねなつ・久志本/度会、医/国学)	C 2 9 8 7
織部(おりべ・富田)	→ 景煥(かげあき・富田とだ、藩士/漢学/詩)	E 1 5 9 0
織部(おりべ・小塚)	→ 景治(かげはる・小塚こつか、藩士/弓術)	L 1 5 2 3
織部(おりべ・村上)	→ 影面(かげも/かげおも・村上、藩士/国学者)	B 1 5 9 7
織部(おりべ・中島)	→ 九華(きゅうか・中島なかじま、儒者)	M 1 6 3 5
織部(おりべ・羽根)	→ 眞清(まゆき・羽根はね、国学/歌)	L 4 0 7 6
織部(おりべ・松平)	→ 甫昌(やすまさ・松平まつだいら、幕臣/和学)	G 4 5 7 0
織部(おりべ・松平/榊原)	→ 月堂(げつどう・榊原さかきばら、幕臣/書家)	H 1 8 3 0
織部(おりべ・松平)	→ 定寅(さだとら・松平まつだいら、幕臣/園芸)	I 2 0 9 6
織部(おりべ・松平)	→ 定朝(さだとも・松平、定寅男/幕臣/園芸家)	I 2 0 9 2
織部(おりべ・沼田)	→ 孤松(こしょう・沼田ぬまた、藩士/儒/詩人)	M 1 9 7 7
織部(おりべ・村田)	→ 清風(せいふう・村田むらた、藩士/歌人)	C 2 4 9 5
織部(おりべ・前田)	→ 孝始(たかもと・前田まえだ、藩士/記録)	N 2 6 4 0
織部(おりべ・永井)	→ 正良(まさよし・永井ながい、藩士/記録)	I 4 0 4 6
織部(おりべ・並河)	→ 基広(もとひろ・並河/並川/平、歌人)	E 4 4 1 4
織部(おりべ・久野)	→ 純固(すみかた・久野くの、藩家老/詩歌)	D 2 3 8 8
織部(おりべ・唐崎)	→ 信通(のぶみち・唐崎からさき、神職/国学)	H 3 5 9 6
織部(おりべ・脇坂)	→ 安宅(やすおり・脇坂わさきか、藩主/老中/歌)	B 4 5 1 0
織部(おりべ・橋村)	→ 正珍(まさつら・橋村はしむら/度会、神職)	R 4 0 6 8
織部(おりべ・杉木)	→ 正珍(まさつら・杉木すぎき/秦、神職/歌人)	U 4 0 0 2
織部(おりべ・有馬)	→ 照長(てるなが・有馬ありま/吉田、藩老/歌)	F 3 0 0 3
織部(おりべ・浦田)	→ 長民(ながたみ・浦田、神職/勤王派)	E 3 2 2 2
織部(おりべ・堀)	→ 利熙(としひろ・堀ほり、幕臣/海防・交渉)	N 3 1 6 2
織部(おりべ・近藤)	→ 幸殖(ゆきたね・近藤/平巖、藩老/詩文)	E 4 6 8 0
織部(おりべ・石尾)	→ 氏信(うじのぶ・石尾いしお/藤原、幕臣)	E 1 2 5 1
織部(おりべ・小川)	→ 忠旧(ただひさ・小川おがわ、神職/国学)	V 2 6 9 6
織部(おりべ・岡本)	→ 業常(なりつね・岡本おかもと/石上、藩士/歌)	L 3 2 5 0
織部(おりべ・木村)	→ 義門(よしかど・木村きむら、藩士/歌人)	M 4 7 4 2
織部(おりべ・新庄)	→ 直政(なおまさ・新庄しんじょう、幕臣/国学)	N 3 2 4 1
織部(おりべ・神)	→ 忠賢(ただかた・神みわ?/じん?/藤原、歌)	U 2 6 5 7
織部(おりべ・神尾)	→ 良忠(よしただ・神尾かみお、藩士/歌人)	M 4 7 2 8
織部(おりべ・尾崎)	→ 良暢(よしのぶ・尾崎おさき、神職/国学)	L 4 7 8 9
織部(おりべ・宮崎)	→ 安弼(やすすけ・宮崎みやさき、家老/歌人)	G 4 5 8 3
織部(おりべ・篠沢)	→ 隆壽(たかひさ・篠沢しのざわ/前田、里正/歌)	X 2 6 4 6
織部(おりべ・春日)	→ 易重(やすしげ・春日かすが/藤原、神職/国学)	F 4 5 7 6
織部(おりべ・黒山)	→ 吉雄(よしお・黒山くろやま、神官/国学)	M 4 7 6 5
織部(おりべ・加須屋)	→ 利章(としあき・加須屋かすや、藩士/国学)	U 3 1 6 3

- 織部正 (おりべのしょう・八剣) → 勝重 (かつしげ・八剣やつるぎ、神職) N 1 5 4 1  
織部正 (おりべのしょう・土井) → 利位 (としつら・土井、藩主/蘭学) M 3 1 9 8  
織部正 (おりべのしょう・堀) → 利熙 (としひろ・堀ほり、幕臣/海防・交渉) N 3 1 6 2  
織部正 (おりべのしょう・加藤) → 泰広 (やすひろ・加藤かとう、藩主/歌人) F 4 5 6 8  
織部正 (おりべのしょう・松平) → 正和 (まさとも・松平まつだいら、藩主/歌) L 4 0 9 7  
織部佑 (おりべのすけ・板倉) → 勝喜 (かつよし・板倉いたくら、藩主/国学) N 1 5 9 9  
織部之助 (おりべのすけ・鈴鹿) → 秀麿 (ひでまろ・鈴鹿わすずか/平佐、神職/歌) J 3 7 9 3  
於陵子 (おしょうし) → 稻川 (とうせん・山梨やまなし、漢学者/音韻) 3 1 1 9
- E1425 愚 (おろか・吉澤よしざわ、桂誉重たかしげ[1817-71]男) 1843-? 越後蒲原郡の国学者;父門/鈴木重胤門、  
誉恕たかひろ (1838-81) の弟、蒲原郡の吉澤家の養子、教導職  
おろし藻 (おろしも) → 下物 (かぶつ・山川やまかわ、俳人) F 1 5 7 9  
雄魯智 (おろち・麦藁むぎわらの、狂名) → 政美 (まさよし・北尾、絵師) I 4 0 6 0
- D1460 於和歌 (おわか) ? - ? 京の俳人;1729隆志「俳諧草結」(259;長い詞書入)、  
[天あまの香や福寿芽つらふ家の風](俳諧草結;/錦花堂隆志の作風は天からの名誉)
- C1402 尾張 (おわり・前斎院、源兼昌女) ?-? 平安後期令子内親王[1078-1144]家女房/歌;  
1191若宮社歌合参、金葉 (26/279)、1165清輔[続詞花集]入、  
[糸鹿山いとかがまくる人もなき夕暮にこゝろぼそくも呼子鳥かな](金葉;一春26)  
[野花随風といへることを、  
定めなき秋の野風になびきつつかたみにまねく花すすきかな](続詞花;秋233)
- C1401 尾張 (おわり・皇嘉門院、藤原家基女) ?-? 平安期崇徳天皇中宮皇嘉門院聖子[1122-81]家女房、  
歌人;千載833/新古1401、  
[命こそおのがものから憂かりけれあればぞ人をつらしとも見る](千載十三恋833)
- B1499 尾張 (おわり・殷富門院、賀茂在憲女) ?-? 平安期後白河院皇女亮子内親王[1147-1216]家女房、  
歌人;千載751(;求愛をさりげなくかわす返歌)  
[たれゆゑにあくがれにけむ雲間より見し月影にひとりならじを](千載;十二恋751)
- 尾張 (おわり、白河女御道子女房) → 範永女 (のりながのむすめ・藤原、歌) F 3 5 3 6  
尾張 (おわり・糸永) → 茂昌 (しげまさ・糸永いとなが、神職/国学) N 2 1 4 0  
尾張雄 (おわりお・松岡) → 雄淵 (おぶち・松岡、神道) B 1 4 9 1  
尾張守 (おわりのかみ・田島) → 仲稻 (なかいね・田島たじま、神職/連歌) D 3 2 2 2  
尾張守 (おわりのかみ・田島) → 仲奉 (なかもとも・田島、神職/連歌) E 3 2 9 4  
尾張守 (おわりのかみ・畠山) → 政長 (まさなが・畠山/源、管領/連歌) F 4 0 1 7  
尾張三郎 (おわりのかみ・さぶろう) → 和義 (まさよし/かずよし・斯波しば/源、武将/歌) I 4 0 4 0  
尾張僧都 (おわりのかみ・そうず) → 尊玄 (そんげん;法諱、東大寺華厳僧) F 2 5 3 2  
尾張局 (おわりのかみ・つばね) → 頭清女 (あききよのむすめ・藤原、女房) D 1 0 0 5  
尾張六郎 (おわりのかみ・ろくろう) → 季直 (すえなお・海老名/源、幕臣/連歌) F 2 3 5 2
- C1424 温 (おん・蔡さい、鐸たく男) 1682- 1761 80歳 母;玉津、琉球那覇久米村の出身、1702郷学の師;  
読書師匠役・講談師匠/進貢存留通事を兼ねて清国福州に派遣され地理・仏典を修学、  
帰国後王の世子尚敬の師傅;近習役、三司官(大臣)/政務に参画;農林治水に尽力、  
儒学者/詩人、「澹園たんえん詩文集」著、蔡温本「中山世譜」編、「一言録」「家言録」「客問録」、  
「実学真秘」「蓑翁片言」「独物語」「家内物語」「居家必覧」「治家捷徑」「醒夢要論」外編著多数、  
[温(;名)の字/通称/号]字;文若、通称;具志頭親方ぐしちやんうえかた、号;澹言たんげん
- 温 (おん・野村) → 篁園 (こうえん・野村、儒者) 1 9 7 8  
温 (おん・尾島) → 樸斎 (ぼくさい・尾島おじま、藩士/書家) D 3 9 1 7  
温 (おん・竹中) → 南峰 (なんぼう・竹中たけなか、医者) J 3 2 4 5  
温 (おん・西尾/芝田) → 温 (はる・芝田/西尾にしお、儒者) F 3 6 9 4  
温 (おん・鈴木) → 尋思斎 (じんしさい・鈴木すずき、儒者) O 2 2 6 9  
温 (おん・武内) → 確斎 (かくさい・武内、儒詩/狂歌/読本) E 1 5 6 8  
温 (おん・阿部) → 縑州 (けんしゅう・阿部あべ、篆刻家) J 1 8 5 2  
温 (おん・雨森) → 城橋 (じょうきょう・雨森あめのもり、藩士/儒者) I 2 2 0 4  
温 (おん・葛井) → 文哉 (ぶんさい・葛井かつらい、儒者/詩歌) F 3 8 2 9

- 温(おん・前川) → 秋香(しゅうこう・前川まえば、漢学/蘭学) X 2 1 2 1  
 温(おん・大橋/富川) → 大塊(たいかい・富川/大橋、大庄屋/詩文) J 2 6 4 3  
 温(おん・武石) → 民蔵(たみぞう・武石、庄屋/蝦夷踏査) S 2 6 2 7  
 温(おん・木村) → 明堂(めいどう・木村きむら、儒者) 4 3 3 0  
 温(おん・木村) → 容斎(ようさい・木村きむら、儒者) B 4 7 0 1  
 温(おん・須藤) → 柳圃(りゅうほ・須藤すどう、商家/儒者) F 4 9 5 9  
 温(おん・安江) → 正美(まさみ・安江やすえ、文迪/医者/歌) T 4 0 3 3  
 温(おん・三宅) → 良斎(こんさい・三宅みやけ、蘭方医者) P 1 9 2 1  
 温(おん・塚越/越) → 惣太郎(荘太郎そうたろう・越/塚越/斎藤、藩蘭医/尊攘) I 2 5 4 0  
 温(おん・川路) → 太郎(たろう・川路かわじ、幕臣/英語) T 2 6 0 1  
 温(おん・成島) → 柳北(りゅうほく・成島なるしま、幕臣/儒者) F 4 9 6 7  
 温(おん・西村) → 温(あつし・西村にしむら/日下部、蘭方医) I 1 0 2 1  
 1472 音阿(おんあ) ? - ? 連歌;1564景恵「石山千句」入  
 1443 音阿弥(おんあみ;法号、観世かんぜ元重、四郎男/) 1398-1467 70歳 能役者/宗家観世大夫三世、  
 世阿弥の甥/3代目元雅(世阿弥男)と対立/将軍義教・義政の庇護、  
 1458出家;音阿弥号/1464糺河原の勸進能・65仙洞猿楽で活躍、「観世音阿弥教訓和歌」著  
 D1438 恩覚(おんかく;法諱・法明;字)?-? 平安後期興福寺の法相学僧・隆覚門、  
 1139京の法勝寺で修学、法勝寺首座/興福寺伝灯大法師、  
 天台を論駁;961「応和宗論記並恩覚奏状」、「南北戒律勝劣」著  
 B1424 音久(おんきゅう、花洛隠士)?-? 浮世草子作者・「傾性野群談」/1717「怪醜夜光魂」著  
 音久(おんきゅう・藤井) → 道印(どういん・遠近おちこち、藤井、藩医/測量) B 3 1 1 0  
 D1439 温郷(おんきょう・飯島いじま、名;文直/通称;友三郎)?-? 江戸後期盛岡の商家;島屋/歌人、歌稿あり、  
 「源語詩歌」著(江幡春庵と共著)  
 [温郷(;号)の別号] 桐園/寂念(;剃髮号)  
 温恭(おんきょう;字) → 日慎(にっしん;法諱・惣持院、日蓮僧) 3 3 5 5  
 温恭(おんきょう・合田) → 強(つよし・合田ごうだ、医者/蘭方) E 2 9 3 8  
 温恭(おんきょう・中里) → 黙堂(もくどう・中里なかざと、篆刻家) B 4 4 0 6  
 温恭(おんきょう・前沢) → 万重(よろづえ・前沢まえざわ、国学者) P 4 7 0 5  
 温恭院(おんきょういん) → 愛徳(あいとく/よしのり・花山院かざんいん/藤原/中山、右大臣/詩歌) M 4 7 1 5  
 温恭先生(おんきょうせんせい) → 元凱(げんがい、荻野、医者/詩) B 1 8 4 0  
 D1440 韞玉(おんぎよく・浅野あさの、通称;太蔵)?-? 江戸中期備中の医者、1781「傷寒金匱秤量考」著  
 韞玉(おんぎよく;号) → 円猷(えんゆう;法諱、真宗高田派僧) F 1 3 4 1  
 厭求(おんぐ;法諱) → 貞憶(ていおく;法諱、浄土僧) 3 0 3 9  
 D1441 音空(おんくう;法諱・観粹かんすい;字、俗姓;加藤) 1811-76 66 三河幡豆郡味浜村の浄土宗西山派僧;  
 満国寺住職、国学・歌;城戸千楯門、  
 「摺邪新論」/1857「蓮門字彙」編/63「専念往生伝」/67「還寿信女往生略伝」著  
 [音空の号]号;默然/陽焰庵  
 温卿(おんけい・鶉飼) → 凶南(となん・鶉飼うかい、書家) O 3 1 6 1  
 温卿(おんけい・服部) → 直香(なおか・服部、書画/碁) 3 2 8 0  
 温卿(おんけい・和田/平部) → 嶠南(きょうなん・平部ひらべ、藩士/儒者) O 1 6 4 0  
 温卿(おんけい・縄/三縄) → 桂林(けいりん・三縄みなわ/縄じょう、儒/詩) E 1 8 9 4  
 温卿(おんけい・菊池) → 淡雅(たんが・菊池/大橋、商家/儒者) T 2 6 2 1  
 温卿(おんけい・鈴木) → 定寛(さだひろ・鈴木、医者) J 2 0 5 6  
 温卿(おんけい・村上) → 正徳(まさのり・村上むらかみ、医者) G 4 0 2 0  
 温卿(おんけい・広沢) → 文斎(ぶんさい・広沢ひろさわ、儒者) F 3 8 3 0  
 温卿(おんけい・国友) → 善庵(ぜんあん・国友くにとも、藩士/儒者) E 2 4 8 1  
 温卿(おんけい・十河) → 筋堂(せつどう・十河そごう、篆刻家) L 2 4 3 2  
 温卿(おんけい・藤田) → 惇斎(じゅんさい・藤田ふじた、書家) K 2 1 7 5  
 温卿(おんけい・元田) → 直(なおし・元田もとだ、儒・国学・教育者) P 3 2 0 7  
 温敬公(おんけいこう;諡号) → 斉泰(なりやす・前田、藩主/謡曲) E 4 0 3 8

- 温軒(おんけん・境) → 建直(たてなお・境さかい二郎/齋藤、儒者/藩教授) X 2 6 3 7
- D1442 温故(おんこ・平井ひらい/熊野くまの、字;知新、別号;履視斎、平井家養子)?-1734 長門府中藩儒、藩領地誌編纂、1710「豊府志略」著
- D1443 温故(おんこ、神風館6世) ? - 1761 伊勢山田の俳人;梅路門、神風館を継承、1750「蟬のから」54「木槿塚」編、「俳諧三石牌」編
- 温古(おんこ・田中) → 亦太郎(またろう・田中/小林、藩士/国学) J 4 0 5 0
- 温古(おんこ・栗原) → 温古(はるひさ・栗原くりはら/亀田、国学/教育) K 3 6 1 0
- 温故(おんこ;字) → 日匠(にっしょう;法諱・本地院、日蓮僧) E 3 3 2 3
- 飲光(おんこう;法諱・慈雲) → 慈雲(じうん;字・飲光、真言僧) 2 1 0 2
- 音好(おんこう・浅見) → 野井(やせい・浅見、俳人/狂歌) D 4 5 6 4
- 温厚(おんこう・高辻) → 以長(もちなが・高辻/菅原、廷臣/漢学) B 4 4 5 3
- 温綱(おんこう・渡辺) → 温綱(はるつな・渡辺、神職) G 3 6 5 2
- 恩光院(おんこういん) → 光海(こうかい;法諱、真宗東本願寺16世) H 1 9 8 4
- 遠光院(おんこういん) → 呑水(どんすい;号・日陽;法諱、日蓮僧) S 3 1 3 4
- 遠覺院(おんこういん) → 日慶(にちけい;法諱・宣覚、日蓮僧) B 3 3 5 0
- 温厚斎(おんこうさい・福原) → 俊方(としかた・福原ふくはら、藩士/歌人) W 3 1 2 3
- 温故館(おんこかん) → 立斎(りつさい・坂本さかもと、和算家) B 4 9 9 8
- 温克(おんこく・古川/工藤) → 他山(たざん・工藤/古川、藩士/儒者) E 2 6 6 0
- 温故軒(おんこけん) → 義知(よしちか・壺井つばい、故実家) 4 7 1 9
- 温故斎(おんこさい) → 若麟(じゃくりん・山本/河村、絵師) G 2 1 4 1
- 温故[古]斎(おんこさい) → 中陵(ちゅうりょう・佐藤、本草家) G 2 8 9 8
- 温古斎(おんこさい) → 清茂(きよしげ・岡本/賀茂/中大路、神職/故実) H 1 6 4 1
- 温古斎(おんこさい) → 蘭翠(らんすい・渡辺貞庵、医者) C 4 8 7 4
- 温故祭主(おんこさいしゅ) → 壽庵(じゅあん・七条、医者/詩/紀行) W 2 1 4 4
- 温故知新斎(おんこちしんさい) → 春勝(はるかつ・林、鷲峰、羅山男/儒者) 3 6 3 0
- 温故知新斎(おんこちしんさい) → 不角(ふかく・立羽たちば/山崎、書肆/俳人) 3 8 0 3
- 温古堂(おんこどう) → 琢成(たくじょう;法諱・義舜;字、真宗学匠) O 2 6 0 7
- 温故堂(おんこどう) → 保己一(ほきいち・埜、国学) 3 9 6 0
- 温故堂(2世おんこどう) → 忠宝(ただとみ・埜、国学) F 2 6 3 9
- 温故堂(おんこどう) → 広計(ひろかず・古田ふるた、藩士/歌人) F 3 7 6 8
- 温故堂(おんこどう) → 正巳(まさみ・萩原はぎわら、書家/歌) H 4 0 3 5
- 温故堂(おんこどう) → 春育(しゅんいく・須田すだ、医者) M 2 1 4 2
- 温故堂(おんこどう) → 幸忠(ゆきただ・山中やまなか、歌人) E 4 6 7 7
- 温故堂老人(おんこどうろうじん) → 円達(えんたつ;法諱、藩出仕の修験者) U 1 3 0 3
- 恩故楼(おんこうろう) → 黄石(こうせき・岡野おかの、藩儒臣/詩人) K 1 9 0 8
- D1444 温斎(おんさい・土屋つちや、通称;万次郎/弥兵衛) 1823-90 68 豊後大岩屋の和算家/江戸で商人、算法;天野栄親門/洋算も修得、町稽古/維新後和算専門豊国学校開設、「鉤股弦起源」著、[温斎の別称] 豊国弥兵衛/豊国温斎
- 温斎(温斎おんさい) → 允中(まさなか・首藤/末長/山高、故実) F 4 0 1 1
- 温斎(おんさい・九鬼) → 隆都(たかひろ・九鬼くき、藩主/江戸開城) N 2 6 0 9
- 温斎(おんさい・牛丸) → 重明(しげあき・牛丸うしまる、藩士/詩人) Q 2 1 4 9
- 温斎(おんさい・小山) → 魯恭(ろきょう・小山こやま、俳人) 5 2 7 1
- 温斎(おんさい・門田) → 重長(しげなが・門田もんでん、儒/書/教育) O 2 1 0 4
- 温斎(おんさい・富永) → 兼章(かねあき・富永とみなが、藩士/国学) V 1 5 1 5
- 穩斎(おんさい・山崎) → 範古(のりひさ・山崎、藩家老/系譜作成) F 3 5 5 1
- 穩斎(おんさい・孝橋) → 立閑(りっかん・孝橋たかはし、医者/地誌家) B 4 9 6 5
- B1461 温山(おんざん・川北かわきた、名;重熹、重敏男) 1794-1853 60 肥前島原藩士/儒;岩瀬華沼門、のち古賀侗庵門、1834稽古館教授;教育、詩文、山陽/磐溪らと交流、「温山詩稿」「温山文稿」「東帰録」「温山文」「瓊浦紀行」「恒溪詩筆」「扈從余賞」「原城紀事」著、柳沢芝陵の師、

[温山の通称/別号] 通称;喜右衛門、別号;春風楼

温山玄良菴主(おんざんげんりょうあんしゅ)→ 帯梅(たいばい・村瀬、商家/暮雨巷3世/俳人) C 2 6 0 6

B1425 温子(おんし・よし・藤原ふじわら、摂政基経女) 862or872-907 46or36歳 母;贈正一位操子女王、888入内;宇多天皇女御、890均子内親王出産、897中宮/皇后/905落飾、歌人:小箱合主催、亭子院女郎花合参加、勅撰3首;後撰1097/1117新拾1635、時平/仲平/忠平の妹、穩子おんしの姉、女房に伊勢(継蔭女)など、大和物語入、[人わたす事だになきをなにしかも長柄ながらの橋と身のなりぬらん](後撰;1117)、(899[昌泰2]宇多上皇の出家の頃の詠/人は上皇、お渡りなさる事もないのに、古今890;世の中にふりぬる物は津の国の長柄の橋と我となりけり/1118伊勢の返歌)、[温子の通称] 七条后しちじょうのきさい/七条中宮/東七条后/東七条院

B1426 穩子(おんし・おだいに・やすこ・藤原ふじわら、五条后/天曆太后、基経女) 885-954 70歳 醍醐天皇中宮、901入内;女御/903保明親王出産/923中宮;寛明親王(朱雀)出産/926成明親王(村上)出産、朱雀・村上天皇母、931皇太后/946太皇太后宮、時平/仲平/忠平/温子の妹、934「太后御記」著、歌人;万代集入、新千載1804(;退位する日の朱雀天皇の歌への返歌)、[白雲のおりある方や時雨るらんおなじみ山の麓ながらに](新千載;1804)(朱雀院の歌1805;日の光出でそふ今日の時雨るるはいづれの方の山辺なるらむ)

温之(おんし・伴) → 侗庵(とうあん・伴はん、藩儒/詩人) 3 1 8 4  
温之(おんし・小島/膝) → 橋洲(きつしゅう・唐衣からごも、幕臣/狂歌) 1 6 2 2  
温子(おんし・伊達) → 温子(はるこ・伊達だて/徳川、藩主室/歌) K 3 6 3 5  
温子(おんし・伊達) → 温子(あつこ・伊達だて/渡辺、藩主側室/歌) H 1 0 9 1  
温志(おんし;字) → 日善(にちぜん;法諱・慈光院、日蓮僧) C 3 3 6 5  
温治(おんじ・眞山) → 迂堂(うどう・眞山まやま、儒者/地理) D 1 2 2 0  
穩治(おんじ・三宅) → 賢隆(かたか・三宅、藩士/和算家) M 1 5 9 7  
音識(おんしき;字) → 快運(かいうん;法諱・音識、真言僧) I 1 5 3 8  
音識(おんしき;字) → 義山(ぎざん;法諱・音識、真言僧) K 1 6 7 5

D1445 音竺(おんじく;法諱・晴蔭せいゐん;道号) 1767-1830 64歳 周防臨濟僧;太原周本門/誠拙周樗門、一溪周磻の法嗣、鎌倉瑞泉寺住持/1818円覚寺191世、「鹿門集」著、「葆光室遺稿」[音竺の前法諱/号]前法諱;疎竹/祖竹/楚竹/周竹/音竹、号;葆光室

遠寿院(おんじゅいん) → 日暈(にちりょう;法諱・考正、日蓮僧) D 3 3 6 3

D1487 音秀(おんしゅう;法諱) 1816 - 1882 67 三河幡豆郡富田村の生/貝吹正顛寺住職、のち大浜町海徳寺住職/中島崇福寺の住職、歌人

温潤(おんじゅん・前田) → 宗珉(そうみん・前田まえだ、医者) I 2 5 9 5  
温如(おんじょ;号) → 亮貞(りょうてい;法諱・自春、真言僧) I 4 9 9 7  
遠成院(おんじょういん) → 日近(にちこん・空堂、日蓮僧) B 3 3 9 7  
遠成院(おんじょういん) → 日寿(にちじゅ;法諱・示勸、日蓮僧) C 3 3 1 3

D1469 恩眞(おんしん;法諱) ? - ? 江前期武蔵板橋の金剛院の僧/俳人、1676西鶴「俳諧師手鑑」入、[短冊も名聞き苦し寺の花](手鑑)

音信(おんしん・荻廼屋) → 音信(おとずれ・荻廼屋/芝原、狂歌/歌) D 1 4 2 6  
音人(おんじん・大江/大枝) → 音人(おとんど・大江/大枝、漢学/詩人) 1 4 2 1  
音人(おんじん・鳴滝) → 音人(おとんど・鳴滝、幕臣/狂歌) 1 4 9 8  
音人(おんじん→おとんど・石金) → 音主(おとあじま、家老/藩政改革) B 3 5 8 7  
音成(おんせい・和氣) → 音成(おとなり・和氣わけ、医者/歌人) E 1 4 2 8  
音石僧都(おんせきそうず) → 明詮(みょうせん;法諱、法相学僧) G 4 1 4 8  
穩禅(おんぜん;法諱・泰岳) → 泰岳(たいがく;道号・穩禅、曹洞僧) J 2 6 4 4  
遠沾院(おんせんいん) → 日亨(にちこう;法諱・遠理院、日蓮僧) B 3 3 8 2  
温泉房(おんせんぼう) → 明覚(みょうかく/みょうがく;法諱、天台学僧) G 4 1 2 2

D1446 温叟(おんそう・矢部やべ) ? - ? 江後期儒者/幕末期;遠州掛川藩教授、「矢部温叟稿本」著

- 榎邨(おんそん・小杉) → 榎邨(すぎむら・小杉こすぎ、国学/歌) B 2 3 6 6
- D1447 穩達(おんたつ;法諱・祖道そどう;道号)?-1813 江後期江戸本郷の曹洞宗吉祥寺僧/知客、  
正法眼蔵関係の書を刊行;1811「彫刻永年正法眼蔵凡例並巻目」著
- B1460 温知(おんち) ? - ? 若狭小浜俳人/1692信徳「胡蝶判官」入、常牧「冬ごもり」入
- 温知(おんち・今村) → 竹堂(ちくどう・今村、儒者) D 2 8 5 9
- 温知(おんち・山田) → 千疇(知宇禰/千有年ちうね・山田、国学者) 2 8 3 9
- 温知(おんち・今村) → 竹堂(ちくどう・今村、儒者/家塾教育) D 2 8 5 9
- 音竹(おんちく;法諱) → 音竺(おんじく;法諱・晴蔭;道号、臨濟僧) D 1 4 4 5
- 温知齋(おんちさい) → 光豹(こうひょう・佐久間、藩儒/和算家) L 1 9 0 3
- 温知齋(おんちさい) → 祇庸(やすつね・湯浅やあさ、藩士/国学) H 4 5 0 0
- D1449 音激(おんちやく;法諱・梵蓮社忍誉にんよ;法名) 1757-1833 77 三河の浄土僧;遍照院穩岡門、  
京の西光院住、1791勝円寺住/1830浄福寺松声院開;隠棲、  
「浄業蓮社小清規」、1811「大心律師伝」著
- 音長(おんちやう;字) → 先晋(せんしん;法諱、真言僧) M 2 4 6 5
- 温直(おんちよく・土屋) → 温直(よしなお・土屋つちや、幕臣/文筆家) F 4 7 1 8
- 穩貞(おんてい・白猷;道号) → 白猷(はくがい、曹洞僧) C 3 6 8 5
- 穩田(おんでん・穩田子) → 道元(道玄どうげん・野本、茶人/養蚕) D 3 1 6 0
- 温道(おんどう・小野田) → 温道(よしみち・小野田おのだ/岩瀬・藤原、神職/歌) L 4 7 8 4
- 女五のみこ(をんなごのみこ、後撰歌人) → 依子内親王(よりにないしんのう・宇多天皇皇女) I 4 7 6 1
- 女三のみこ(をんなさんのみこ、後撰詞書人) → 君子内親王(きみこないしんのう、宇多天皇皇女) F 1 6 6 0
- 女三宮治部卿(おんなさんのみやのじぶきやう) → 治部卿(じぶきやう・瓊子内親王家) F 2 1 5 7
- 女四のみこ(をんなしのみこ、後撰歌人) → 勤子内親王(きんしないしんのう、醍醐皇女) E 1 6 1 2
- 女四の宮(をんなしのみや) → 規子内親王(きし・のりこないしんのう、村上皇女) 1 6 1 5
- 女別当(をんなべつとう/によ) → 別当(べつとう、歌人/物語作者) B 2 7 0 3
- 穩仁親王(おんにんしんのう) → 穩仁親王(やすひとしんのう・八条宮、歌) C 4 5 7 9
- 恩波閣(おんぱかく) → 親義(ちかよし・高崎、藩士/国学/歌) C 2 8 2 3
- 温夫(おんぶ/あつお?・西水すがい/原田) → 東岳(とうがく・原田、藩士/儒者) C 3 1 1 7
- 温夫(おんぶ・奥野) → 小山(しょうざん・奥野おくの、藩士/儒者) S 2 2 5 5
- 温夫(おんぶ・牧) → 匡直(まさなお・牧まき、石潭/儒者/歌人) S 4 0 5 4
- 遠妙院(おんみょういん) → 日穩(にちおん;法諱・慧活、日蓮僧) 3 3 9 7
- 陰陽堂(おんみょうどう) → 慶増(けいぞう;法諱、天台僧) G 1 8 3 2
- 音門(おんもん・高橋) → 音門(おとど・高橋、郡奉行/一揆交渉) D 1 4 2 7
- 音門(おんもん・安部井) → 櫟堂(れきどう・安部井あべい/佐々木、篆刻家) 5 1 8 1
- C1425 音誉(おんよ;法諱) ? - ? 室町戦国期;江戸芝増上寺の僧;長老/歌人、  
1474道灌らと「武洲江戸城歌合」参加、  
[音あらし灘の淡路の塩風にかへればむかふ夕立の空](江戸歌合;五番右10)
- 厭誉(おんよ;号) → 称阿(しょうあ;号、浄土僧) G 2 2 4 8
- 穩楽齋(おんらくさい) → 登壽(としひさ・恒川つねかわ、藩士/歌) N 3 1 4 6
- 遠瑒院(おんりいん) → 日亨(にちこう;法諱・遠沾院、日蓮僧) B 3 3 8 2
- 厭離齋(おんりさい) → 敬順(けいじゆん;法諱、真宗僧/茶/紀行) D 1 8 4 9
- 音利房(おんりぼう;字) → 盛典(せいでん;法諱、真言悉曇学僧) J 2 4 2 7
- 温良(おんりやう・山本) → 東街(とうがい・山本、儒者/詩文) C 3 1 0 3
- 温良院(おんりやういん;法号) → 忠義(ただあき・酒井さかい、藩主/日記) P 2 6 1 2
- 温良院(おんりやういん;法号) → 長厚(ながあつ・小笠原おがさわら、領主/歌) L 3 2 3 5
- 穩蓮社安誉(おんれんしゃあんよ) → 虎角(こかく;字・雲潮;法諱、浄土僧) L 1 9 8 6
- 温和軒(おんわけん) → 政次郎(まさじろう・内藤、藩士/和算家) C 4 0 8 0

